

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴェント）、ヴェント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）	
	第2回	脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害	
	第3回	心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学	
	第4回	感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚	
	第5回	学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポデント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデュラ）	
	第6回	記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論	
	第7回	動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるものうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理	
	第8回	性格 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちに、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。講義の後半では、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル、性格検査の信頼性と妥当性	
	第9回	対人関係と集団 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知、対人感情、関係の維持	
	第10回	臨床心理学（1）精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	
	第11回	臨床心理学（2）分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析	

	<p>第12回 臨床心理学（3）クライエント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライエント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライエント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件</p> <p>第13回 臨床心理学（4）心理療法1 心理療法とは、「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である。本講義では、行動療法、認知行動療法について学習する。 key words：心理療法行動療法、認知行動療法</p> <p>第14回 臨床心理学（5）心理療法2 コラージュ療法演習 本講義では、心理療法の中でも「表現療法」とよばれるものについて学習し、その中でも「芸術療法」とよばれるものの一つである「コラージュ療法」について体験する。 key words：表現療法、芸術療法、コラージュ療法</p> <p>第15回 臨床心理学（6）心理療法3 箱庭療法 箱庭療法はローエンフェルトによって考案され、その後、カルフがユングの考えを導入して発展させ、河合隼雄によって我が国へ導入され、さらに世界中に広がった技法である。本講義では、箱庭療法の分析方法を紹介し、それを応用し、自らが作成したコラージュについて検討を行う。 key words：コラージュ療法、箱庭療法、空間象徴</p>
科目の目的	<p>心理学を学ぶことにより、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。</li> <li>2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。</li> <li>3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。</li> </ol>
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，社会学，生活文化と医療，大学の学び入門，大学の学び－専門への誘い－，多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ，発達心理学，臨床心理学，公衆衛生学，保健統計，カウンセリング</p> <p>【専門科目群】全科目</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室または1号館・4号館学生相談室）</p>
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫－Ⅱ－6－A－a ≪必修問題≫－Ⅱ－6－A－b</p>
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

講義科目名称：教育学

授業コード：3N002

英文科目名称：Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
高野 利雄			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 人間の活動としての教育 教育とは何か 人間は教育によって何を達成しようとしているのか</p> <p>第2回 学習権という人権 義務教育 教育の機会均等 子どもの権利条約</p> <p>第3回 教育活動の時と場 人間の成長と発達課題 家庭・学校・社会での教育と学習</p> <p>第4回 学校教育の柱と方法 学習指導要領 教科と特別活動 生徒指導提要</p> <p>第5回 道徳教育とその位置づけ 特別の教科道徳の開始 道徳をどうとらえるか</p> <p>第6回 学校教育現場の諸問題 いじめ 不登校 学級崩壊</p> <p>第7回 教育活動の土台となる信頼関係 良好なコミュニケーション ゴードンメソッド</p> <p>第8回 さまざまな学習形態 アクティブラーニング シチズンシップエデュケーション</p> <p>第9回 キャリア教育 自らを生きる・生かす学び</p> <p>第10回 障害児教育 特別支援教育の考え方と実状 インクルーシブ教育</p> <p>第11回 家族の変化と教育 貧困格差と教育の課題 虐待への対応</p> <p>第12回 チームとしての学校 学校保健 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー</p> <p>第13回 社会教育と生涯学習 学校以外の学習の場 自分はどこまで学び続けるか</p> <p>第14回 教育に関係する法と制度 福祉 医療 教育の連携</p> <p>第15回 人生を支える学力とは</p>
科目の目的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。 【知識・理解】
到達目標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。
関連科目	心理学、教育心理学
成績評価方法・基準	試験（60％）、随時の提出物と授業への取り組み（40％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回の資料を熟読し、理解して備えること。1コマあたり4時間を目安とする。
教科書・参考書	教科書・・・使用しない 参考書・・・講義時に紹介する
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心とし、必要に応じて随時ワーク（個別およびグループ）を取り入れる。		
授業計画	第1回	教育心理学とは 教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本講義では、教育心理学の歴史と概要を学ぶ。	
	第2回	子どもの認知発達 ピアジェの理論を参照しながら人の認知発達について学び、認知発達の過程を通して幼児期、児童期、青年期に対する教育的関わり方の違いや、学校教育について考える。 key words：感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、心の理論	
	第3回	学ぶことと考えること 「学ぶ」ということは、新しい概念がそれまで持っていた知識のネットワークの中に組み込まれ、知識がより構造化していくことである。本講義では知識を活用し、問題を解決していく方略について学習する。 key words：宣言的知識、手続き的知識、アルゴリズム、ヒューリスティック、メタ認知	
	第4回	学級という社会 人が最初に経験する「学校」という組織の特殊性とそこで起こる心理的事象について学ぶ。 key words：ピグマリオン効果、P-M理論、ソシオメトリックテスト、ゲスフーテスト	
	第5回	知能とその測定 知能とは、目的的に行動し、合理的に行動し、環境を能率的に処理する総合的な能力である。知能に関する理論とその測定方法について学習する。 key words：CHC理論、田中ビネーV、WISC-IV、WAIS-III	
	第6回	青少年の抱える問題（1）いじめ 青少年の抱える問題として“いじめ”を取り上げ、その構造や社会的背景について考える。	
	第7回	青少年の抱える問題（2）不登校 青少年の抱える問題として“不登校”を取り上げ、不登校の背景について理解を深め、その支援について考える。	
	第8回	青少年の抱える問題（3）非行 青少年の抱える問題として“非行”を取り上げ、非行という問題について青少年や社会環境などの複数の視点から考える。	
	第9回	子どもの認知発達と太田ステージ（1） 太田ステージとは、ピアジェの発達理論を参考に、子どもの発達段階をとらえやすくするために、いくつかの発達の節目をとらえてステージ分けしたものである。本講義では生まれて間もなくから1歳半くらいまでの乳幼児期に相当するStage I の特徴と療育について学習する。 key words：模倣、指さし、おもちゃ遊び	
	第10回	子どもの認知発達と太田ステージ（2） 一般的な子どもの発達で見ると、1歳半から2歳くらいに相当するStage II の特徴と療育について学習する。 key words：シンボル機能の芽生え、名称による物の指示	
	第11回	子どもの認知発達と太田ステージ（3） 物には名前があることがはっきりとわかるようになった段階だが、関係の中で物事をとらえることができず、思考の柔軟性がないStage III-1の特徴と療育について学習する。 key words：用途による物の指示、経験に沿ったパターン	
	第12回	子どもの認知発達と太田ステージ（4） 一般的な子どもの発達で見ると、3歳から4歳くらいに相当するStage III-2の特徴と療育について学習する。 key words：概念形成の芽生え、大小比較	
	第13回	子どもの認知発達と太田ステージ（5） 一般的な子どもの発達で見ると、5歳から7歳くらいに相当するStage IV の特徴と療育について学習する。 key words：上下の空間関係、因果関係の理解	
	第14回	教育相談 子どもたちの健全な成長・発達の支援を目的とする、乳幼児期から青年期までを対象とした、教育の一環としての相談援助活動である教育相談について、事例を通して学習する。 key words：教育相談、カウンセリング	
	第15回	教育心理学の意義 これまでの講義を概観して教育心理学的な関わりや考え方について理解を深める。教育や他者との関わりについて考えていく。	
科目の目的	教育心理学は「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」などの幅広い分野を含む、教育のための心理学である。本講義では幼児、児童および生徒を教師が効果的に支援するために必要な心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解することを目的とし、教育心理学の基礎的な知識を学ぶ。  ディプロマポリシー：【知識・理解】		
到達目標	1. 教育心理学の基本的な知識を習得する。 2. 幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程に関する基本事項を心理学的な観点から理解する。		

	3. 教育実践についての見解を深め、自分の意見を論じることができる。
関連科目	【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学びー専門への誘いー, 多職種理解と連携 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 発達心理学, 臨床心理学, 公衆衛生学, 保健統計, カウンセリング 【専門科目群】全科目
成績評価方法・基準	定期試験(80%)に毎回の講義後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1年次必修科目「心理学」の教科書第3章「こころの発達」, 第5章「学習」の内容をよく理解しておくこと。その他, 準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について, 1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	【教科書】 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 (2015) 「やさしい教育心理学 第4版」 有斐閣アルマ  【参考書】 永井洋子・太田昌孝編 (2011) 「太田ステージによる自閉症療育の宝石箱」 日本文化科学社 山祐嗣・山口素子・小林知博編著 (2009) 「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房
オフィス・アワー	月・水・木・金の昼休み(1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室)
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合もあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>第2回 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>第3回 運動とスポーツの生理学② ―ATPと運動・スポーツ― ①運動時の酸素利用 ②トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>第4回 運動とスポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>第5回 運動とスポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>第6回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体力トレーニングの原理と原則</p> <p>第7回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―瞬発系、持久力系、回旋系― ①エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>第8回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ―評価（アセスメント）― ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ</p> <p>第9回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ―アスリートトレーニング― ①一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ②ドローイン</p> <p>第10回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑤ ―筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック</p> <p>第11回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑥ ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>第12回 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>第13回 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>第14回 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。小テスト実施。</p> <p>第15回 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。小テスト返却。レポート提出。</p>
科目の目的	<p>「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。</p> <p>またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起こり得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探索し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p>
到達目標	<p>「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知識・行動を身に付ける。</p>

関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内にレポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店
オフィス・アワー	講義室または体育館で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者で、併せて養護教諭二種免許取得を希望する者は履修すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
衣川 隆			

授業形態	実技
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&amp;トレーニング</p> <p>第2回 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第3回 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バasketボール</p> <p>第4回 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第5回 体力測定 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）、体力測定小テスト、レポート提出</p> <p>第6回 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第7回 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第8回 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第9回 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第10回 心肺持久力 20mシャトルラン、持久力小テスト、レポート提出</p> <p>第11回 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第12回 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p> <p>第13回 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バasketボール</p> <p>第14回 球技・トレーニング メディシングボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール</p> <p>第15回 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル</p>
科目の目的	<p>運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。</p> <p>各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。</p> <p>各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。</p>
到達目標	<p>①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。</p> <p>②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。</p> <p>③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。</p>
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	授業時間内に小レポートを実施（80%）。小テスト（20%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムについての体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書



	「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育館で授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
吉田 幸恵			

授業形態	講義（グループワーク・発表を含む）
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要</p> <p>第2回 「生命倫理」の誕生 生命倫理の社会的・歴史的変遷</p> <p>第3回 戦争と優生思想と生命倫理 戦争と倫理の問題について（日本とナチスドイツを中心に）</p> <p>第4回 被験者になるということ 医学研究におけるインフォームド・コンセント</p> <p>第5回 「病い」を生きる ハンセン病史における倫理的問題</p> <p>第6回 出生前診断と生殖技術(1) 中絶・生殖技術を巡る立場と問題、様々な生殖技術</p> <p>第7回 出生前診断と生殖技術(2) 里子問題などを通して、子どもの「生きる権利」について考える</p> <p>第8回 安楽死／尊厳死(1) 安楽死／尊厳死とは？安楽死を巡る日本の状況について</p> <p>第9回 安楽死／尊厳死(2) 安楽死を巡る世界の状況について</p> <p>第10回 臓器移植をめぐる諸問題 臓器移植の歴史、臓器移植と法</p> <p>第11回 外部講師によるレクチャー 内容は講義進行具合を見ながら決定（外部講師の都合により、順番が前後する可能性があります）</p> <p>第12回 グループワーク テーマを受講生から募り、グループワーク</p> <p>第13回 プレゼンテーション グループワーク結果の発表</p> <p>第14回 医療の役割 医療の論理、医学の進歩と医学研究のこれから</p> <p>第15回 まとめ 授業全体のまとめ、期末試験相談</p>
科目の目的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、映像資料・映画を適宜参照したりグループワークなどを実施したりしながら解説し、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。【態度】
到達目標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになることを目指します。
関連科目	哲学、公衆衛生学、生活文化と医療、社会学
成績評価方法・基準	授業後に実施するミニレポートの提出（30%）、グループワークでの発表（20%）、期末試験（50%）による総合評価。授業内でのミニレポートに対しては次週ないしは次々週の講義内でその内容に触れ、必要に応じて解説等行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業の前後において、可能な範囲で教科書やレジュメに目を通してください。1コマあたりの学習時間の目安4時間。
教科書・参考書	（教科書） 神里彩子・武藤香織編 2015 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応します。
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-4-A-a~f ≪必修問題≫-4-B-a~e 【助産師】 ≪基礎助産学Ⅰ≫-1-C-a ≪基礎助産学Ⅰ≫-11-A-a, b

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
金澤 秀嗣			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 予備考察：「自由と規範」 概論 本講の目的と講義計画とに関する説明 〈欠陥動物〉としてのヒト システムの〈意味〉</p> <p>第2回 神的自然法論 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由：アウグスティヌス、トマス・アクィナス</p> <p>第3回 契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力：ホッブズ、ロック、ルソー</p> <p>第4回 カント批判哲学 ① 認識の枠組：〈世界〉はいかに在るか</p> <p>第5回 カント批判哲学 ② 徳論と法論：〈自己〉はいかに在るべきか</p> <p>第6回 ヘーゲルの観念論哲学 ① 「自然法論文」における近代自然法論批判と共同体論</p> <p>第7回 ヘーゲルの観念論哲学 ② イエナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉と〈闘争〉</p> <p>第8回 ヘーゲルの観念論哲学 ③ 『精神現象学』における相互承認論：〈主と奴の弁証法〉</p> <p>第9回 ヘーゲルの観念論哲学 ④ 論理学と『法哲学綱要』の視座</p> <p>第10回 歴史法学の展開 法の基盤としての〈民族精神〉：サヴィニー</p> <p>第11回 世界精神の概念 個別の〈民族精神〉 vs. 〈世界法廷〉としての世界史</p> <p>第12回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ① 人権総説</p> <p>第13回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ② 文化相対主義・多文化主義・発展段階論</p> <p>第14回 普遍的人権概念と多文化主義の相克 ③ 事例研究：伝統文化 vs. 女性の権利</p> <p>第15回 講義の総括と展望</p>
科目の目的	<p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講では特に〈自由と規範〉をテーマに掲げ、法哲学・社会哲学の地平から個人と共同体の在り方について考察したい。</p> <p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。</li> <li>2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。</li> <li>3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。</li> </ol>
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」・「人間と宗教」等の諸科目と関連するテーマが適宜取り上げられる。</li> </ul>
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 期末筆記試験（論述）の成績による（100％）。</li> <li>● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。</li> </ul>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。</li> <li>● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。</li> </ul>
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）に基づいて行われる。</li> <li>● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。</li> <li>● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。</li> <li>● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。</li> </ul>
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）</li> </ul>

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジユメ）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。

講義科目名称：現代文学

授業コード：3N008

英文科目名称：Modern Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
尾形 大			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 〈変身〉する人間① ガイダンス カフカ「変身」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理</p> <p>第2回 〈変身〉する人間② カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第3回 〈変身〉する人間③ カフカ「変身」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第4回 〈共存〉を許さない世界① 川上弘美「神様」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第5回 〈共存〉を許さない世界② 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第6回 〈共存〉を許さない世界③ 川上弘美「神様」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第7回 〈傷〉ついていた心① 志賀直哉「城の崎にて」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第8回 〈傷〉ついていた心② 志賀直哉「城の崎にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第9回 〈傷〉ついていた心③ 志賀直哉「城の崎にて」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第10回 〈復讐〉される人間① 宮澤賢治「注文の多い料理店」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第11回 〈復讐〉される人間② 宮澤賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第12回 〈復讐〉される人間③ 宮澤賢治「注文の多い料理店」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p> <p>第13回 〈戦争〉と文学① 太宰治「トカトントン」の精読・読解、作者情報・時代背景の整理 ☆前回小レポートの講評</p> <p>第14回 〈戦争〉と文学② 太宰治「トカトントン」の読解（続）＋作品情報の整理・分析</p> <p>第15回 〈戦争〉と文学③ 太宰治「トカトントン」の読解（続）＋作品情報の整理・分析 ☆小レポートの作成</p>
科目の目的	<p>1. 文学作品の鑑賞を通じて、多様な社会・文化への幅広い視野と、他者に対する深い理解を得る。</p> <p>2. 情報を正確に読み取り論理的に組み立てる能力を涵養する。</p> <p>3. 複数回の小レポートの作成を通じて、自分の考えを他者に論理的に伝達する方法を学習する〔技能・表現〕。</p>
到達目標	<p>1. 不明な語句・表現を調べ、自分の力で教材を丁寧に読解する。</p> <p>2. 1を踏まえて授業内で解説された作者情報や同時代状況、読みのポイントを整理する。</p> <p>3. 2を補助線にして作品をあらためて読み直す。その上で各自の初読の感想がどのように更新されたかを確認する。</p>
関連科目	芸術・哲学・社会学
成績評価方法・基準	授業内で課される小レポート（60%）＋1600字程度の期末レポート（40%）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前＝配布された作品の黙読（0.5時間）</li> <li>・授業後＝授業内容の復習（1.0時間）</li> </ul>
教科書・参考書	教科書：使用しない（講義資料を授業内あるいはActive Academyを通して配布します）。
オフィス・アワー	授業の前後（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
竹村 一男			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 宗教本質論 宗教とは何か 宗教の定義、類型と、宗教の研究分野について例をあげて解りやすく説明する。</p> <p>第2回 宗教本質論 宗教思想の変遷 過去の哲学、神学、心理学などの代表的な思想は、宗教をどのように解釈してきたかききたかを講述する。3大宗教について、その概要と現状に言及する。</p> <p>第3回 キリスト教概説 キリスト教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第4回 イスラム教概説 イスラム教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第5回 仏教概説 仏教の教義と歴史、現状について講述し、中国仏教、チベット仏教にも言及する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第6回 日本の仏教 日本の仏教の教義と歴史、現状について講述する。その文化・歴史など画像を交え説明する。</p> <p>第7回 日本の民俗宗教 祖霊信仰や神社神道などの日本の民俗宗教について、その歴史や事例、様々な儀礼や祭祀について、画像を交え説明する。</p> <p>第8回 世界の民族宗教 特定民族に受け継がれる民族宗教について、長い歴史と多数の信徒をもつユダヤ教とヒンドゥー教を中心に、その文化、歴史など画像を交え講述する。</p> <p>第9回 中国の民族宗教 中国の民族宗教である儒教と道教について、その文化・歴史など画像を交え説明する。日本に与えた影響などにも言及し講述する。</p> <p>第10回 新宗教 1830年代以降に成立した新宗教について、天理教、創価学会、モルモン教会を例に、その概要と歴史、教義について講述する。</p> <p>第11回 宗教と科学 宗教研究の事例 主に比較宗教学、宗教社会学などの人文科学の視点からなされてきた研究学説について概説し、講師の研究事例も交えて講述する。</p> <p>第12回 宗教と文化・芸術 宗教文化と芸術について画像を中心に講述する。宗教史跡などの世界文化遺産にも言及する。</p> <p>第13回 グローバル化と宗教 グローバル化が進む現在における宗教の諸問題や、宗教動向、宗教と民族紛争の事例などについて講述する。</p> <p>第14回 宗教と医療 宗教と医療に関する歴史や現状の諸問題について講述する。</p> <p>第15回 内村鑑三の宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は全講義のまとめを行う。</p>
科目の目的	<p>宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。そして、ある時は宗教に救済を求め、宗教を畏敬の対象とし、宗教に自らの死生観を求め、宗教にモラル以上の価値観を認める人達もいる。その一方では宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本授業においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・異文化・社会理解にも繋がる。講義を通して、受講生が各々の視点、切り口を通して人間と宗教、さらに文化・社会の理解に近づくことを目的とする。なお、医療現場においては宗教の救済観、死生観理解も大切であることを付記したい。【態度】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。</li> <li>● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。</li> <li>● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。</li> </ul>
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自己学習15時間。講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある宗教分野に関する聖典や文学作品などに並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『現代医学と

	宗教』日野原重明（岩波書店）など。仏教、キリスト教関係なども多数あり。
教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書1 『法華経』坂本幸男・岩本裕訳注（岩波文庫） 参考書2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各回のプリントを事前にアップロードしておきます。受講者はプリントアウトして授業に出席してください。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
東 晴美			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：オペラ、歌舞伎から現代演劇まで。舞台芸術の幅広さと、他の芸術ジャンルとの交流 舞台芸術は、言語、音楽、身体、美術などの要素を備えた総合芸術であることを紹介します。また、舞台芸術が様々なジャンルの芸術と深い関係があることを理解し、その上で舞台芸術を学ぶ意義について考えます。</p> <p>第2回 ドラマ（物語）：創作された物語から、証言まで ギリシャ悲劇やシェイクスピアの作品において、ドラマはどのような構造を持っているかを考えます。またそのようなドラマを突き崩そうとしたベケットの作品や、ストーリーテリングや証言などポストドラマとしての現代演劇の取り組みを紹介します。</p> <p>第3回 劇場：社会と劇場、劇場と舞台芸術の関係 ギリシャ劇場から額縁舞台を経て、現代に至る劇場の変遷が、西洋の舞台芸術の歴史と呼応していることを学びます。また、舞台芸術における劇場の役割を考察します。</p> <p>第4回 観客：もう一人の作り手として 舞台芸術の観客は、他の芸術と異なり物語をともに作りあげる存在でもあります。舞台芸術と観客の関係性について、ギリシャ時代から現代までの変遷を考えます。</p> <p>第5回 身体：身体文化とことばの関係 俳優によって登場人物が表現されるリアリティについて、近代に絶大な影響を与えた俳優訓練法・スタニスラフスキーシステムを例に考察します。また、物語をつむぎだす言葉と身体の関係性を再考する実践も紹介します。</p> <p>第6回 ジェンダー：演じる性と演じられる性（小レポート） 演じる性として女優について考察します。また、舞台芸術では女性をどのように表現してきたか、演じられる性についても紹介します。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第7回 能：物語のビジュアルイメージ化 能楽の基礎について学びます。また物語がビジュアルにイメージ化され定着していくことを平家物語を題材にした作品を例に考えます。また、600年前に生まれた芸能が、今もなお息づいている理由に迫ります。</p> <p>第8回 狂言：笑いの表現 笑いは文化を象徴するキーワードです。笑いの芸能である狂言の基礎について学びます。またシェイクスピアの作品をもとにした新作狂言など、狂言師の新しい挑戦を紹介します。</p> <p>第9回 歌舞伎：現代に生きる古典芸能 歌舞伎の基礎について学びます。歌舞伎は冷凍保存された古典ではなく、常に同時代のエンターテインメントであろうとしています。能の物語を継承しながら、江戸時代としての現代劇として再生した「京鹿子娘道成寺」を例に考えます。</p> <p>第10回 文楽：人形の表現と語る表現（小レポート） 文楽の基礎について学びます。北野武の映画「ドールズ」を紹介しながら、今日における文楽の可能性を考えます。翌週にレポートについてコメントをします。</p> <p>第11回 ゲームと物語：日本の物語の再生 日本の歴史上の人物の伝記がゲームのコンテンツとなり、さらにその物語が、アニメ、漫画、舞台へと展開しています。このような流れを例に取りながら、日本の物語の新たな再生について考察します。</p> <p>第12回 アニメ・マンガ：絵画と文学、舞台メディアの交流史 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。また、能や、歌舞伎など日本の伝統的なコンテンツがどのようにアニメやマンガに取り入れられているかを探求します。</p> <p>第13回 「ライオンキング」と文楽 文楽の人形の技術は、世界的にも大きなインパクトを与え続けています。「ライオンキング」や「キングコング」など、文楽にインスパイアされた表現を紹介します。</p> <p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ：ひろがる芸術の世界 ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。その上で、講義全体を振り返ったレポートを書いてもらいます。</p>
科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとって、芸術について学びます。まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。次に、西洋とは異なる独自の発展を遂げた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身</p>

	につけます。【態度】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。</li> <li>・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。</li> <li>・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。</li> <li>・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。</li> </ul>
関連科目	社会学
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。

講義科目名称：法学（日本国憲法含む）

授業コード：3N011

英文科目名称：Law(the Constitution of Japan)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
道下 洋夫			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 法学概論1 法とは何かについて様々な角度から考える</p> <p>第2回 法学概論2 法にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する</p> <p>第3回 法学概論3 民法の概要について理解する</p> <p>第4回 法学概論4 刑法の概要について理解する</p> <p>第5回 憲法概論1 憲法の基本理念について理解する</p> <p>第6回 憲法概論2 憲法の歴史、全体像、前文について理解する</p> <p>第7回 人権論1 人権の種類、性質、制限、主体について理解する</p> <p>第8回 人権論2 天皇、平和主義について理解する</p> <p>第9回 人権論3 平等権、参政権、受益権について理解する</p> <p>第10回 人権論4 自由権(1)：精神的自由権について理解する</p> <p>第11回 人権論5 自由権(2)：経済的自由権について理解する</p> <p>第12回 人権論6 社会権、包括的基本権について理解する</p> <p>第13回 統治機構論1 三権分立と議院内閣制について理解する</p> <p>第14回 統治機構論2 立法権、行政権、司法権、地方自治について理解する</p> <p>第15回 比較憲法論 諸外国の憲法について学び、ひるがえって日本の憲法の理解を深める</p>
科目の目的	日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているという過言ではない。この点、憲法はその法システムの頂点に君臨する我が国の最高法規であり、医療を含む全ての法令はその憲法規定の枠内で定められ動いているにすぎない。本講座では、憲法を中心に法令と医療との関わりを考慮しながら、日本の法システムについて概説する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する</li> <li>・医療と法令の関わりについて理解する</li> </ul>
関連科目	社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、臨床看護管理学
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、授業内レポート(30%) 提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(30分程度)
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書：特にないが適宜に資料・統計などのプリントを配布する</li> <li>その他、一部法令について事前にプリントして用意すべき場合がある</li> <li>・憲法分野につき必要ならば参考図書：図解雑学 憲法（後藤 光男 ナツメ社）</li> </ul>
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は養護教諭二種免許の要件となっている</li> <li>・講義資料は当日配布するか、前日までにActive Academyにアップする</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環 （小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 看護職としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】</p>
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>
関連科目	<p>法学（日本国憲法含む） 経済学 社会福祉・社会保障制度論 小児看護学総論 老年看護学総論 地域ボランティア活動論 看護学概論Ⅰ・Ⅱ 母性看護学総論 公衆衛生看護学概論 母子と家庭の心理・社会学 在宅看護学概論</p>
成績評価方法・基準	<p>講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70％・小レポート30％</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>使用しない</p>
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 英恵			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明をします。生活文化を軸に、人びとの病いに対する考えを理解します。</p> <p>第2回 医療民俗学について 民俗学（生活文化）からみた医療の特徴について学びます。</p> <p>第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 病いをめぐる生活文化に焦点をあて、各地の医療習俗から人びとの病いの予防と治癒についてみていきます。</p> <p>第4回 民間信仰と石仏 路傍に佇む地藏、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象として造立されました。ここでは道祖神を取り上げ、石仏に込められた人びとの思いと信仰内容をみていきます。あわせて、現代社会に機能する石仏についても考えていきます。</p> <p>第5回 名づけとキラキラネーム 伝承的な名づけと、現代的な名づけといえるキラキラネームの命名方法と特徴を理解します。</p> <p>第6回 いのちと生死の表現 テキストを中心に『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図など、文学作品や絵画に描かれた生死の資料を取り上げてその内容を理解します。</p> <p>第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは何かをじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容から、人の一生について、年齢を重ねるなかで人生の節目となる各種儀礼を取り上げて考えます。</p> <p>第8回 霊魂が宿るもの 私たちが普段何気なく使う物には、霊魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、物に宿る霊魂観を理解します。</p> <p>第9回 老いと生きがい 地域社会に伝承する獅子舞の担い手は、主に高齢者の人が活躍しています。獅子舞を軸に、健康維持と生きがいについて考えてみます。</p> <p>第10回 長寿祝いと民俗 テキストに沿って全国各地の長寿祝いの方法と、高齢化社会を象徴する人生儀礼をみていきます。老いと福祉に関することも学びます。</p> <p>第11回 映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 三味線を持ち、越後や北陸地方の村々をめぐる瞽女さんの生活様式についてみていきましょう。</p> <p>第12回 病いと民俗 病い治癒祈願をめぐる暦と、生活の関係を理解します。</p> <p>第13回 看取りと死 人は最後のときを迎えるにあたり、どのような思いを持つのかを考えてみましょう。家族や知人の臨終に際し、残された人はどのような行動をするのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第14回 先祖供養と葬送 現代社会の供養は、さまざまな形態と方法がみられます。地域社会に伝承する先祖供養の生活文化について考えます。</p> <p>第15回 まとめ（課題提出の説明） 本授業では「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは、自らが「死生観」を考え、生を探究することで、どのような最期を迎えたいかを書いてもらいます。「死生観」に対する自分の考えを知ること、患者の気持ちを理解し、その家族の心理・精神的な面を考慮し接することが出来ると考えます。授業のなかでレポート課題の書き方と説明をします。</p>
科目の目的	本授業では、私たちの身近な暮らしから医療にかかわる事柄を取り上げ、ひとつずつ丁寧に紹介していきます。人は病いにかかると現代医療を受ける一方で、健康を願ってまじないや御守り、護符などを心の拠り所としています。普段見過ごしてしまう日常生活に目を向けることで、日々の生活と医療の繋がりを言及します。現代医療の諸問題にも触れ、患者や家族の心理・精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。【関心・意欲】
到達目標	現代社会にみられる伝統的な習俗や儀礼を学ぶなかで、医療と関わりの深い生活文化と教養を身につけます。何気なく見過ごしてしまう日常生活に関心を持つことで、医療従事者としてのいろいろな視点から物事を捉え、豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。
関連科目	生命倫理、社会学
成績評価方法・基準	試験（80%）、課題提出（20%） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	毎日の生活のなかで、医療に関連すること（健康維持と回復、病いの予防と治療など）に興味を持ってください。人は生きている限り、病いと向き合って日々を過ごします。自分が病いにかかったとき、どのような行動をするのかを考えてみましょう。また身近な人たち（父母、祖父母、知人など）はどのように年齢を重ね、人生の節目を迎えたのか関心を寄せましょう。自分の周りを注意深く観察し、その意味を考えることで「何故」という疑問点を発見することが出来ます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。
教科書・参考書	教科書：板橋春夫 2010『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社  参考書1：福田アジオ他編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館 参考書2：今村充夫 1983『日本の民間医療』弘文堂
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
飯島 正義			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。</p> <p>第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。</p> <p>第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。</p> <p>第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。</p> <p>第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第7回 政府の役割 市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。</p> <p>第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作、預金準備率操作、金融の量的緩和等について説明します。</p> <p>第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。</p> <p>第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。</li> <li>2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。</li> </ol>
関連科目	特にありません。
成績評価方法・基準	授業内における小テスト40%（2回、プリント参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。なお、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。
国家試験出題基準	該当しません。
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
竹澤 泰子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ボランティア活動の歴史と変化 ボランティア活動が時代により変化していることについて述べる。</p> <p>第2回 経験談の発表 学生各自が経験したボランティア活動について発表を行う。その経験を分析して学んだ点や問題点を考察する。</p> <p>第3回 エゴグラムの記入 記入したエゴグラムから自己分析を行い、ボランティア活動時や将来の就労時に必要な、自己の性格を客観的に把握する。</p> <p>第4回 経験談1 (持田みね子氏) 群馬県下で人形劇、防犯寸劇、コーラス、講演会等多種類の活動に従事し、多年代層に受け入れられているゲストスピーカーを招聘する。</p> <p>第5回 経験談2 (久保田光明氏) 3.11東日本大震災後、数十回の炊き出し、生活用品支援、わかめ販売促進活動支援等に従事し、カンボジアに小学校を十数校建設した実績をもつゲストスピーカーを招聘する。</p> <p>第6回 ボランティア活動の分析 ゲストスピーカー2名の経験談を分析し、ボランティア活動を行う上での注意点や問題点を考察する。</p> <p>第7回 専門職のボランティア活動 国内における専門職ボランティアの活動量の少なさに着目し、原因探求と将来への対応の仕方について討論する。</p> <p>第8回 ボランティア活動の紹介・日米の活動比較 講師が行うテディベアギフトリング (悲しい経験をした方々へベアの温もりと優しさを与える活動) について紹介する。また、日米でのボランティア活動の違いについて考察する。</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の多様性を理解する。</li> <li>・心の温もりがボランティアの基礎である事を認識する。</li> </ul> <b>【関心・意欲】</b>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会、地域社会のニーズと連携に目を向け貢献しつつ、学生自らの将来像、医療人としての職業観の確立の基礎作りができる。</li> <li>・ボランティア活動の学習から、自分の性格を再考し、他人への思いやりの気持ちを生むことができる。</li> </ul>
関連科目	なし
成績評価方法・基準	レポート (100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容を分析し把握できるように、自分の価値基準を確立しておくこと。なお、自分の意見提示ができることが望ましい。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり4時間
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後 (場所：非常勤講師室)
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
西菌 大実			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景</p> <p>第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>第3回 生活を支える資源 再生可能資源と再生不能資源</p> <p>第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>第5回 典型七公害 足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>第9回 オゾン層破壊 オゾン破壊物質、紫外線</p> <p>第10回 気候変動（Ⅰ） 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し</p> <p>第11回 気候変動（Ⅱ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定</p> <p>第12回 エネルギー問題 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>第13回 廃棄物問題 一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物</p> <p>第14回 循環型社会 3R、熱回収</p> <p>第15回 持続可能社会 再生可能資源中心の社会づくり</p>
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境問題の背景と発生原因への理解</li> <li>2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解</li> <li>3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識</li> </ol>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自筆ノートの整備、30時間
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）
オフィス・アワー	授業の前後・昼休み、非常勤講師室
国家試験出題基準	<p>【看護師】          ≪必修問題≫-2-C-abc          ≪健康支援と社会保障制度≫-10-A-abcdef, 10-B-abc, 10-C-abc, 10-D-ab</p> <p>【保健師】          ≪公衆衛生看護学概論≫-3-B-ab</p>
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1）</p> <p>①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水の重要性</li> <li>・タンパク質</li> </ul> <p>第2回 生命を支える物質（2）</p> <p>生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭水化物（糖質）</li> <li>・脂質</li> <li>・核酸</li> <li>・無機質（無機塩類）</li> </ul> <p>第2回～3回 生命の単位</p> <p>①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞膜の構造と機能</li> <li>・細胞質基質の役割</li> <li>・核の構造と機能</li> <li>・粗面小胞体の構造と機能</li> <li>・滑面小胞体の構造と機能</li> <li>・ゴルジ体の構造と機能</li> <li>・リソソーム</li> <li>・ペルオキシソーム</li> <li>・ミトコンドリア</li> <li>・色素体</li> <li>・細胞骨格の種類とその役割</li> </ul> <p>第4回～5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成</p> <p>①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～</li> <li>・減数分裂～生殖細胞の形成～と配偶子の形成～</li> </ul> <p>第6～7回 受精、発生、分化</p> <p>①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝</p> <p>①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因——遺伝子変異</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルー--バックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回・2回 生命活動とエネルギー</p> <p>①酵素の性質と酵素反応</p> <p>②生命活動とエネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について</li> <li>・人工光合成研究開発の現状と未来計画</li> <li>・呼吸：生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について</li> <li>・外呼吸と内呼吸の関係</li> <li>・動物と植物のエネルギー連関～光合成と呼吸～</li> </ul> <p>第3回・4回 遺伝－ヒトを中心に－その1</p> <p>①DNA複製のしくみ</p> <p>②DNAの変異と修復</p> <p>③遺伝情報発現のしくみ</p> <p>④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール</p> <p>⑤性染色体の不活性化</p> <p>⑥エピジェネティクス</p> <p>第5回・6回 遺伝－ヒトを中心に－その2</p> <p>①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常染色体性優性遺伝病、劣性遺伝病と伴性遺伝病</li> <li>・保因者、患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－</li> </ul> <p>②多因子遺伝病</p> <p>③染色体異常</p> <p>④ミトコンドリア病</p> <p>⑤体細胞遺伝病</p> <p>第6回・7回 ヒトの受精と初期発生</p> <p>①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成</p> <p>②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構</p> <p>③胚盤胞の形成と着床</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始原生殖細胞の形成</li> <li>・内細胞塊の分化と胚葉の形成</li> </ul> <p>⑤胚葉の分化</p> <p>⑥前胚子期と胚子期</p> <p>⑦発生をつかさどる遺伝子</p> <p>⑧先天異常発生の要因</p> <p>第8回 細胞科学の先端研究と医療への応用</p> <p>①オミックス解析の現状と課題</p> <p>②細胞内タンパク質の再利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユビキチン－プロテアソーム系</li> <li>・オートファジー</li> </ul> <p>③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況</p> <p>④細胞周期調節のしくみとがん化</p> <p>⑤細胞分裂の限界と老化</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【知識・理解】</p>
到達目標	<p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。</p> <p>②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。</p> <p>③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。</p> <p>④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。</p> <p>⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書・参考書	<p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂）</p> <p>2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社）</p>

	3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社)
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
井上 浩一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。</p> <p>第2回 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す</p> <p>第3回 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。</p> <p>第4回 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。</p> <p>第5回 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。</p> <p>第6回 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。</p> <p>第7回 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。</p> <p>第8回 基礎統計学 統計学の基礎的な概念と方法を学ぶ。</p>
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と計量、場合の数と確率、基礎統計学について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な数学の概念の復習をする。</li> <li>2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。</li> <li>3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。</li> </ol>
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、予習よりも講義内容の復習を期待する。前回の内容が定着したかどうかを確認しておくことが、次の講義の準備学習である。</li> <li>・1コマあたりの学習時間の目安は4時間</li> </ul>
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲があれば数学Bも履修することが望ましい。</li> <li>・毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。</li> </ul> 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること

講義科目名称：数学B

授業コード：3N020

英文科目名称：Mathematics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
井上 浩一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 三角関数 一般角と弧度法。三角関数の加法定理。三角関数の合成。和と積の変換。</p> <p>第2回 複素数 複素数の導入と計算方法。複素共役。極座標表示と回転。</p> <p>第3回 指数関数と対数関数 指数法則。実数のべき。対数の導入。対数法則。</p> <p>第4回 ベクトルと行列 ベクトルの導入。行列の基本的な性質。</p> <p>第5回 微分の導入 微分の定義。整式の微分。</p> <p>第6回 微分の基本性質 積の微分。合成関数の微分。三角関数の微分。</p> <p>第7回 積分の導入 不定積分。定積分。</p> <p>第8回 積分の応用 部分積分。微分方程式。</p>
科目の目的	<p>医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分、微分方程式、部分積分などについて学ぶ。</p> <p>【知識・理解】</p>
到達目標	<p>1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。</p> <p>2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。</p>
関連科目	数学A、化学A・B、物理学A・B
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校数学の教科書の該当する部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、受講生には予習よりも、講義の復習を期待する。前回学んだ内容を理解し復習しておくことが次の講義の準備となる。</li> <li>・1コマあたりの学習時間の目安は4時間</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書・参考書：特になし。</p> <p>毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。</p> <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</p>
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学Aも履修することが望ましい</li> <li>・毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。</li> <li>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</li> <li>配布方法：各自印刷して授業に持参すること</li> </ul>



講義科目名称：化学A

授業コード：3N021

英文科目名称：Chemistry A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特有な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p>
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。 [知識・理解]
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。</p> <p>第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。 [知識・理解]
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

講義科目名称：物理学A

授業コード：3N023

英文科目名称：Physics A

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。</p> <p>第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力</p> <p>第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。</p> <p>第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。</p> <p>第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。</p> <p>第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。</p> <p>第7回 円運動 等速円運動。</p> <p>第8回 バネと単振動 単振動</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。
関連科目	物理学B
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 ー現代人のための高校理科 (講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：物理学B

授業コード：3N024

英文科目名称：Physics B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱</p> <p>第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱</p> <p>第3回 熱現象 3 気体分子運動論</p> <p>第4回 波動 1 回折、屈折、波の式</p> <p>第5回 波動 2 干渉、ドップラー効果</p> <p>第6回 電気基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念</p> <p>第7回 電気基礎 2 キルヒホッフの法則、電力</p> <p>第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊</p>
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。[知識・理解]
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。
関連科目	物理学A
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 一現代人のための高校理科 (講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み。4号館まで来るならいつでも。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	物理Aも履修しておくことを強く勧める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
一瀬 厚一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction 授業の説明、自己紹介、テキストの学習の仕方、授業内課題（単語テスト、グループワークなど）についての説明。</p> <p>第2回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第3回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change topicについてのリーディングおよびgrammar check。Tips 1:図書館での検索について考える。</p> <p>第4回 Lesson 2 Diet and Health for Long Lives listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第5回 Lesson 2 Diet and Health for Long Lives topicについてのリーディングおよびgrammar check。Tips 2:インターネット検索について考える。</p> <p>第6回 Lesson 3 Self-Driving for the Future listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第7回 Lesson 3 Self-Driving for the Future topicについてのリーディングおよびgrammar check。Tips 3:インタビューについて考える。</p> <p>第8回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第9回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species topicについてのリーディングおよびgrammar check。Tips 4:ペアワークについて考える。</p> <p>第10回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第11回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts topicについてのリーディングおよびgrammar check。Tips 5: Brainstorming と KJ法について考える。</p> <p>第12回 Lesson 6 IT and Education listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第13回 Lesson 6 IT and Education topicについてのリーディングおよびgrammar check。Tips 6:グループワークでの役割について考える。</p> <p>第14回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters listening practice。重要単語の確認。topicについてのリーディング。</p> <p>第15回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters topicについてのリーディングおよびgrammar check。グループワークの話し合いを円滑にする思考の方法について考える。</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の意見を持ち、それらを表現する。【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。</li> <li>・テキストのトピックについて調べ、自分の意見を持ち、グループ内での討論を通じて、他者の意見も聞き、まとめ、発表することができる。</li> <li>・テキストやgraded readerの音声を聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。</li> <li>・extensive readingの目標は10,000words。口語表現、日常生活での英語表現が理解でき、使うことができる。</li> </ul>
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	前期末試験（50%）授業内課題（30%）extensive reading（10%）web学習（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：次回に学習する範囲に目を通し、知らない単語の意味、発音、アクセントを調べる。単語を調べたら、テキストの英文をざっと読み、大意を把握し、分からない箇所を明確にする。</p> <p>復習：授業で学習したことをその日のうちに整理し、覚える。予習の段階で分からなかった箇所は、web学習なども使い、定着させること。予習と復習合わせて約90分。復習に時間をかけることが望ましい。</p> <p>extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。</p>
教科書・参考書	教科書：AFP World Focus--Environment, Health, and Technology『AFPで見る環境・健康・科学』穴戸真、Kevin Murphy、高橋真理子、成美堂、2017年。

オフィス・アワー	講義日の昼休み、授業の前後（非常勤講師室にて）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	養護教諭2種免許取得のための要件科目 英和辞典を持参してください（紙媒体、電子どちらでも可）。また高校までの基本的な英文法は理解しておいでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
Barry. D. Jones			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions</p> <p>第2回 Unit 1: Meeting patients</p> <p>第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history</p> <p>第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms</p> <p>第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for Presentations</p> <p>第6回 Presentations + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.</p> <p>第7回 Unit 5: Taking a specimen</p> <p>第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Conducting a medical examination</p> <p>第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Assessing pain</p> <p>第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Advising about medication + Prepare for Presentations</p> <p>第11回 Presentations + Part II of Unit 8: Advising about medication Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.</p> <p>第12回 Unit 9: Improving Patients' mobility</p> <p>第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Maintaining a good diet</p> <p>第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Caring for inpatients</p> <p>第15回 Unit 12: Coping with emergencies + Prepare for Final Presentation</p>
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine. [技能・表現]
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.
関連科目	Related to all English courses
成績評価方法・基準	1. Participation (20%) During each class session, we will discuss issues and questions related to the weekly chapter. 2. Mini-presentations (20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics. 3. In-class quizzes (40%) These will cover material from the text. 4. Final presentation (20%) Students will prepare and give presentations on relevant topics.

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogue, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Each chapter will require about 30 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 5 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	Caring For People
オフィス・アワー	During lunch of class day
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
一瀬 厚一			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Introduction 授業の説明、自己紹介、単語テストについて</p> <p>第2回 Unit 1 Medical Professional Communication Skills topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について1</p> <p>第3回 Unit 1 Medical Professional Communication Skills topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (医療コミュニケーションに関する表現) grammar and listening exercise 医療英単語について2</p> <p>第4回 Unit 2 The Internet and Self Diagnosis topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について3</p> <p>第5回 Unit 2 The Internet and Self Diagnosis topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (よくある疾患についての表現) grammar and listening exercise 医療英単語について4</p> <p>第6回 Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について5</p> <p>第7回 Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (治療のために抗生物質が使われる疾患に関する表現) grammar and listening exercise 医療英単語について6</p> <p>第8回 Unit 4 Death and Dying topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について7</p> <p>第9回 Unit 4 Death and Dying topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (老年期医療に関する表現) grammar and listening exercise 医療英単語について8</p> <p>第10回 Unit 5 Sleep in the 21st Century topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について9</p> <p>第11回 Unit 5 Sleep in the 21st Century topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (睡眠と認知機能に関する表現) grammar and listening exercise 医療英単語について10</p> <p>第12回 Unit 6 How Medicine Works in Your Body topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について11</p> <p>第13回 Unit 6 How Medicine Works in Your Body topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (薬物摂取に関する表現) grammar and listening exercise 医療英単語について12</p> <p>第14回 Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden inside You topicの英文読解および内容の把握。医療英単語について13</p> <p>第15回 Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden inside You topicの英文読解および内容の把握。List of technical terminology (消化に関する表現) grammar and listening exercise 医療英単語について14</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力の養成と強化。 医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【技能・表現】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。</li> <li>・テキストの音声を聞くことで単語や文章を正しく聴き取ることができる。</li> <li>・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。</li> </ul>
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング
成績評価方法・基準	後期末試験 (80%) 医療英単語テスト (20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：次回に学習する範囲に目を通し、知らない単語の意味、発音、アクセントを調べる。単語を調べたら、テキストの英文をざっと読み、大意を把握し、分からない箇所を明確にする。</p> <p>復習：授業で学習したことをその日のうちに整理し、予習の段階で分からなかった箇所を重点的に復習する。特に医療英単語やそれに関連する表現はしっかり暗記し、書き取りや発音ができるようにすること。予習と復習合わせて90分。復習に時間をかけることが望ましい。</p>
教科書・参考書	The World of Medicine『医学・薬学の世界』黒澤麻美他、朝日出版社、2018年。
オフィス・アワー	講義日の昼休み、授業の前後（非常勤講師室にて）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	英和辞典を持参してください（紙媒体、電子どちらでも可）。また高校までの基本的な英文法は理解しておいてください。
-------------	---

講義科目名称：英語会話

授業コード：3N028

英文科目名称：General English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
Joseph Boland			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 Course introduction and procedures. Self Commonly used phrases and questions for use in class. Greetings and introductions, name order.</p> <p>第2回 Family Identifying family members and describing family relationships.</p> <p>第3回 Appearances Identifying &amp;&amp; describing people through physical traits.</p> <p>第4回 Personality Identifying personal qualities and expressing opinions.</p> <p>第5回 Homes Understanding descriptions of homes. Describing homes and furnishings.</p> <p>第6回 Cities Understanding description of places and describing cities &amp;&amp; landmarks. Understanding &amp;&amp; giving directions.</p> <p>第7回 Travel &amp; Sightseeing Identifying &amp;&amp; describing locations in a country, region, or city. Planning a trip.</p> <p>第8回 Weather Understanding weather reports. Identifying &amp;&amp; understanding weather, climate, and related natural phenomena.</p> <p>第9回 Music Identifying likes &amp;&amp; dislikes. Understanding and describing genres of music.</p> <p>第10回 Routines Understanding &amp;&amp; identifying times, events, and schedules.</p> <p>第11回 Food &amp; Dining Understanding &amp;&amp; describing food. Ordering food at a restaurant.</p> <p>第12回 Sports Understanding &amp;&amp; describing different kinds of sports.</p> <p>第13回 Entertainment Recognizing &amp;&amp; giving invitations. Understanding &amp;&amp; describing various forms of entertainment.</p> <p>第14回 Money &amp; Finance Understanding numbers, currency, and personal finance.</p> <p>第15回 Plans Understand and discuss future plans and desires.</p>
科目の目的	The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability. The course introduces students to practical strategies useful for communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is oral comprehension (listening) and communication (speaking).
到達目標	By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate past experiences and future desires. Students will also learn to evaluate information critically and express opinions.
関連科目	All English courses.
成績評価方法・基準	Grades are based on class participation (30%), individual and group homework or projects (30%), quizzes (20%), and final exam (20%).
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson. Students will listen to typical English conversation audio recordings, study relevant grammar and vocabulary and complete exercises.
教科書・参考書	There is no textbook for this course. The instructor provides learning materials. The course will make extensive use of the Internet both in class and for individual study outside of class. Instructor assumes students own or have access to an Internet enabled device. Use of smartphone, tablet, or notebook computers in class is encouraged.
オフィス・アワー	Friday 14:45 to 15:30 at 4号館非常勤講師室, 15:45 to 16:10 at 1号館非常勤講師室 or by appointment.

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：3N029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：中国語

授業コード：3N030

英文科目名称：Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
深町 悦子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調</p> <p>第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音</p> <p>第3回 子音の発音 子音と声調</p> <p>第4回 発音の復習 音節表の朗読</p> <p>第5回 第1課 今日 は 第2課 お入りください 発音の総復習</p> <p>第6回 第3課 お名前は何ですか 自分の名前を中国語で発音する</p> <p>第7回 第4課 今日は何月何日ですか 第5課 時間 数字、曜日、時間</p> <p>第8回 第6課 これはなんですか 中間レポート提出 本文と練習問題</p> <p>第9回 第7課と第8課 疑問文 本文と練習問題</p> <p>第10回 第9課と第10課 兄弟はいますか 本文と練習問題</p> <p>第11回 第11課と第12課 王先生はどこにいますか 本文と練習問題</p> <p>第12回 第13課と第14課 何人家族ですか 本文と練習問題</p> <p>第13回 第15課と第16課 どこに行きますか 本文と練習問題</p> <p>第14回 第17課 と第18課 中国語は話せますか 本文と練習問題</p> <p>第15回 第1課から第18課までの復習 総合復習</p>
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、CDを聞きながら発声して覚えるように。
教科書・参考書	教科書：高校中国語（改訂新版）（白帝社） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
青木 順			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。基本母音十個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。</p> <p>第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として伝統料理を紹介する。</p> <p>第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として伝統茶を紹介する。</p> <p>第5回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら）、合成母音 激音と比較しながら濃音の読み方、合成母音の読み方、それらを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第6回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。</p> <p>第7回 前半のまとめ 後半の文法の学習につながるように、前半に学んだハングルの読みをまとめ、復習する。</p> <p>第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。</p> <p>第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。</p> <p>第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。</p> <p>第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。</p> <p>第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。</p> <p>第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。</p> <p>第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。</p> <p>第15回 まとめ 後半の文法を中心にまとめ、試験問題の説明を行う。</p>
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>正確な発音をマスターする。</li> <li>挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40％）・期末テスト（60％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。

履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
-------------	--



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
高 裕輔			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、ドイツ語のアルファベット、発音の特徴と規則①、表現① ドイツ語の学習のための導入、ドイツ語の発音の特徴、挨拶表現</p> <p>第2回 文法①、表現② 人称代名詞・動詞の現在人称変化と文の作り方（平叙文・疑問文）、自己紹介</p> <p>第3回 文法②、演習 名詞の性別と人称代名詞</p> <p>第4回 文法③、表現③ 名詞の性別と冠詞、ショッピング</p> <p>第5回 文法④、演習 人称代名詞・疑問代名詞の格変化、演習</p> <p>第6回 文法⑤ 不規則変化動詞</p> <p>第7回 文法⑥、表現④ 命令文、命令とお願い</p> <p>第8回 小テスト 第7回までの内容に関する小テスト</p> <p>第9回 小テスト返却・解説 小テスト解説</p> <p>第10回 文法⑦、表現⑤ 前置詞1、前置詞を使った表現1</p> <p>第11回 文法⑦、表現⑤ 前置詞2、前置詞を使った表現2</p> <p>第12回 文法⑧、演習 zu不定句</p> <p>第13回 文法⑨、演習 冠詞類1</p> <p>第14回 文法⑨、演習 冠詞類2</p> <p>第15回 文法⑩、まとめ 分離動詞、助動詞</p>
科目の目的	ドイツ語の初歩的な文法、基礎的な発音、会話表現の習得を主な目的とします。さらにこれら学習を通じて、これまで学習してきた英語以外に多様な言語があること、そして言語が多様なだけでなくその世界には多様な文化や風習があることを理解することが重要な目的となります。また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける「技能・表現」に示された能力向上の一環として行われます。
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。
関連科目	「多職種理解と連携」
成績評価方法・基準	期末試験（70%）、小テスト（20%）、宿題（10%）。積極的な参加が好ましいです。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありません（15分程度）が、復習が極めて重要であるため予習より多くの時間を費やしてください。また1度の復習だけでは記憶に定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう（30分×3程度）。最初の復習はその日のうちに、授業から時間を置かずに行うことが望ましいです。また次の点に注意をしてください。</p> <p>①予習として、知らない文法用語や文法事項等をチェックしておき、授業の際に注意を向けられるようにしてください。</p> <p>②復習として、授業の内容を理解できているか確認し、また何が理解できていないかを把握する必要があります。理解の有無や不明確な部分は演習問題や宿題を通じて確認してください。また授業で使用した語や文あるいは表現は、できるだけ次の授業までに覚えるようにしてください。</p>
教科書・参考書	ドイツ語一步一步 (Deutsch lernen -Einen Schritt weiter-) ISBN: 9784261012583
オフィス・アワー	主に授業の前夜
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業中には辞書は使用しません。授業へは積極的な参加が好ましいです。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
宮入 亮			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ポルトガル語について ポルトガル語の読み方</p> <p>第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文</p> <p>第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar</p> <p>第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)</p> <p>第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかげの表現 曜日の表現 動詞ir</p> <p>第6回 今おこなっていることの表現、天気 of 表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar</p> <p>第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)</p> <p>第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形</p> <p>第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形</p> <p>第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法</p> <p>第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞</p> <p>第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現</p> <p>第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形</p> <p>第14回 比較の表現ができる 比較の表現</p> <p>第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現</p>
科目の目的	<p>【技能・表現】 ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることが出来ます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英</p>

	<p>語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める  (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる  (3)挨拶など基礎的な表現ができる  (4)基礎的な語彙を使うことができる  (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	<p>期末試験(70%)、授業5回毎に行う小テスト(3回実施で各10%、計30%)  小テストは第5回、第9回、第13回の授業内で実施します。各小テストは、翌週に返却し解説します。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。  ただし、復習は授業直後と授業直前に必ず毎回30分ほど行ってください。</p>
教科書・参考書	<p>(教科書)  市之瀬敦他、『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』。朝日出版社。</p> <p>(参考書)  黒澤直俊他(編)、『デイリー日葡英・葡日英辞典』。三省堂。  市之瀬敦他(編)、『プログレッシブポルトガル語辞典』。小学館。</p> <p>その他、資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>
オフィス・アワー	<p>授業前、授業後の時間  (火曜日1限は授業前後、火曜日4限は授業前、水曜日2限は授業前後)</p>
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。  また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。  就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第2回 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術 課題等は返却はしない</p> <p>第3回 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ 課題等は返却はしない</p> <p>第4回 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第5回 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本 課題等は返却はしない</p> <p>第6回 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ。 テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ 課題等は返却はしない</p> <p>第7回 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第8回 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文章校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第9回 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第10回 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第11回 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第12回 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第13回 表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ 課題等は返却はしない</p> <p>第14回 表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照 課題等は返却はしない</p> <p>第15回 情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照 課題等は返却はしない</p>

科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。[技能・表現]
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。
関連科目	情報リテラシー
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます）
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。 養護教諭2種免許取得のための要件科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト 課題等は返却はしない</p> <p>第2回 コンピュータの仕組み (1) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 1. コンピューターの歴史 2. コンピューターの処理の基本 3. 文字コードとフォント 課題等は返却はしない</p> <p>第3回 コンピュータの仕組み (2) コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク 課題等は返却はしない</p> <p>第4回 インターネットの技術 (1) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ 課題等は返却はしない</p> <p>第5回 インターネットの技術 (2) インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か 課題等は返却はしない</p> <p>第6回 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮 課題等は返却はしない</p> <p>第7回 情報セキュリティ (1) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピューターウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法 課題等は返却はしない</p> <p>第8回 情報セキュリティ (2) 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解 課題等は返却はしない</p> <p>第9回 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律 課題等は返却はしない</p> <p>第10回 著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第11回 ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第12回 情報と社会 身の回りのコンピューターシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピューターシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考 課題等は返却はしない</p>

	<p>第13回 SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワーキングサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) 課題等は返却はしない</p> <p>第14回 情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考 課題等は返却はしない</p> <p>第15回 情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。 課題等は返却はしない</p>
科目の目的	<p>情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。[知識・理解]</p>
到達目標	<p>情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。</p>
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版（有料ライセンスを使用します） (A) 基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（上記ライセンスに書籍が含まれます） (B) 最新「情報」ハンドブック 日経BP出版（上記ライセンスにPDF教材が含まれます） * 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。</p>
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<p>大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。 養護教諭2種免許取得のための要件科目</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
土屋 仁			
青木喜久代			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(自己紹介) (土屋) 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説(6路盤) (青木) 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明(6路盤) (青木) 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解(9路盤) (青木) 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術(青木) 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①(19路盤) (青木) 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①(19路盤) (青木) 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②(19路盤) (青木) 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③(19路盤) (青木) 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④(19路盤) (青木) 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局(19路盤) (青木) 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局(19路盤) (青木) 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥(19路盤) (青木) 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界(青木) 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局(まとめ)(19路盤) (土屋) すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、放射線業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ(検査における優先順位)を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。このことは、多様な情報を適切に分析し、問題を解決する方法を身に着けることができる。</p>
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。
関連科目	救急法
成績評価方法・基準	レポート(60%)、実技評価(40%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。</li> <li>・準備学習時間の目安は20分。</li> </ul>
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>
オフィス・アワー	随時(昼休みが良い)
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			
星野 修平	榎本 光邦		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは (杉田)</p> <p>第2回 調べる 情報を探す (杉田)</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー1 (星野)</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー2 (星野)</p> <p>第5回 聞く・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには (杉田)</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方1 レポートとは何か レポート作成の手順 (杉田)</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方2 論文作法 (杉田)</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方3 レポートの形式 (杉田)</p> <p>第9回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。 (榎本)</p> <p>第10回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。 (榎本)</p> <p>第11回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する (榎本)</p> <p>第12回 自分自身の課題を見つける 入学以来の自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す (杉田)</p> <p>第13回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第14回 書く：レポートを書く レポート作成の実践 (杉田)</p> <p>第15回 書く：レポートを書く レポート作成の実践、提出 (杉田) レポートは後期開始後評価と共に返却する。</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。【知識・理解】</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。</p>
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル）</p>
関連科目	全科目
成績評価方法・基準	杉田担当課題（50%）、星野担当課題（20%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う）、榎本担当意見文・感想文（30%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。
教科書・参考書	なし。プリントを使用。
オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階26研究室 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305、1号館学生相談室、4号館学生相談室
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	プリントはActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
木村 朗			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン・看護の理解① ・大学で看護学を学ぶにあたって ・基礎看護学とは</p> <p>第2回 看護の理解② ・成人看護学とは ・総合病院で働く看護師の実際</p> <p>第3回 看護の理解③ ・老年看護学とは ・療養病棟、地域包括ケア病棟で働く看護師の実際</p> <p>第4回 看護の理解④ ・小児看護とは ・精神看護とは</p> <p>第5回 看護の理解⑤ ・母性看護学とは ・助産学とは ・助産院で働く助産師の実際</p> <p>第6回 看護の理解⑥ ・在宅看護学とは ・訪問看護ステーションで働く看護師の実際</p> <p>第7回 看護の理解⑦／課題解決技法の獲得INTRODUCTION ・公衆衛生看護とは ・市町村保健センターで働く保健師の実際 ・次回からのGWの方法について/プレゼンテーションの方法</p> <p>第8回 課題解決技法の獲得① ・テーマの決定 ・今後のGWスケジュールの立案 ・調査内容の分担</p> <p>第9回 課題解決技法の獲得② ・前週のHWについて発表・討議 ・追加で調査が必要なことを整理し、分担する</p> <p>第10回 課題解決技法の獲得③ ・前週のHWについて発表・討議 ・追加で調査が必要なことを整理し、分担する</p> <p>第11回 課題解決技法の獲得④ ・前週のHWについて発表・討議 ・発表内容のまとめ</p> <p>第12回 課題解決技法の獲得⑤ ・発表方法の検討 ・発表用媒体の作成</p> <p>第13回 課題解決技法の獲得⑥ ・発表用媒体の作成 ・発表の練習</p> <p>第14回 保健科学総論 担当：木村 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらし</p> <p>第15回 保健科学各論 担当：木村 保健科学を具其他的な事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー</p>
科目の目的	保健・医療・福祉に携わる看護職の機能と役割について理解を促し、看護に対する興味・関心を深められるよう導く。また、グループワークを通して、看護職として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題解決能力を育てる。【関心・意欲】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象や活動の場の特性に応じた看護職(看護師・保健師・助産師)の機能と役割を説明できる。</li> <li>2. 自分自身の目指す看護師像と、そこに至るための今後の大学生活における目標を述べることができる。</li> <li>3. グループでテーマを設定し、必要な情報を収集・整理して結論を導くことができる。</li> <li>4. 相手の意見を尊重しながら自分の考えを述べ、グループのメンバーと協働できる。</li> <li>5. グループワークの成果を分かりやすく、説得力をもって発表できる。</li> </ol>
関連科目	生命倫理、大学の学び入門、多職種理解と連携、看護学概論Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	レポート40%、グループワークへの取り組み30%、発表内容30%の計100%(100点満点)。

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義に出席する前に、講義で取り上げる内容について調べた上で出席すること。また、グループワークにおいても担当した内容については、十分に調べ、理解をした上で参加すること。いずれにおいても準備学習時間は1～2時間である。
教科書・参考書	身体活動学入門（三共出版）木村朗担当部分で使用、適宜資料を配布するが、その他必要と思われる参考書籍や文献は図書館等で各自入手すること。
オフィス・アワー	適宜各回担当教員に確認する。 グループワーク開始後については、各グループ担当教員に確認する。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	本科目は学生自身の主体的かつ積極的な学習が必須の科目であることを理解したうえで参加すること。

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：3N039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正榮			
中 徹	小河原はつ江	土屋 仁	芝本 隆

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 看護師と関係職種、多様な看護の場における多職種連携 矢島正榮</p> <p>第2回 地域包括ケアシステムと継続看護 矢島正榮</p> <p>第3回 理学療法士とは－職務と職域を知る 中 徹</p> <p>第4回 理学療法士の仕事の実際を知る 中 徹</p> <p>第5回 理学療法士とチーム医療について 中 徹</p> <p>第6回 臨床検査技師とは－職務と職域を知る 小河原はつ江</p> <p>第7回 臨床検査技師の仕事の実際を知る 小河原はつ江</p> <p>第8回 臨床検査技師とチーム医療について 小河原はつ江</p> <p>第9回 チーム医療概論 土屋仁</p> <p>第10回 チーム医療における診療放射線技師の役割 土屋仁</p> <p>第11回 チーム医療（グループ演習） 土屋仁</p> <p>第12回 医療における技術の発生とチーム医療 芝本 隆</p> <p>第13回 チーム医療と適正・安全治療 芝本 隆</p> <p>第14回 チーム医療における臨床工学技士の役割</p> <p>第15回 まとめ 矢島正榮</p>
科目の目的	医療は複数の職種がそれぞれの専門性を全うし、かつ相互に協力し合って行われて人間を守る行為であるというチーム医療論を理解する。 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解能力を高めること」を目的とした科目である。
到達目標	①各医療専門職の職務と職域が説明できる。 ②各医療専門職の具体的な仕事内容を知ることができる。 ③自らの専門職と他専門職との連携について考えることができる。
関連科目	大学の学び入門
成績評価方法・基準	レポート100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習として、学科の職種におけるチームワーク医療、および各回の他の学科の職種について事前に下調べを30分程度で行うこと。復習として、理解し得た事項を箇条書きにしてノートにまとめておくこと（30分程度）。
教科書・参考書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。
オフィス・アワー	藤田先生は講義終了後の時間に対応可 芝本先生は月曜日～木曜日の午後（16:00～18:00）メール可（tshibamoto@paz.ac.jp） 土屋先生は随時相談可能 中先生は月曜終日相談可能 矢島先生は随時相談可能
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	最初2コマと最後1コマが学科のチーム医療論で、残りは3コマずつ他学科の職種理解とチーム医療の話です。最終回の1コマでレポート課題が出されますので、全ての講義をよく聴いて受講してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 序論1 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織</p> <p>第2回 序論2 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語</p> <p>第3回 骨格系1 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節</p> <p>第4回 骨格系2 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔</p> <p>第5回 骨格系3 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨</p> <p>第6回 骨格系4 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨</p> <p>第7回 筋系1 筋の構造と機能 頭頸部の筋</p> <p>第8回 筋系2 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋</p> <p>第9回 筋系3 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋</p> <p>第10回 神経系1 神経系の構成 中枢神経系(脊髄 延髄 橋 中脳 小脳)</p> <p>第11回 神経系2 中枢神経系(間脳 大脳)</p> <p>第12回 神経系3 脳室 脳脊髄膜 脳脊髄液 末梢神経(脳神経)</p> <p>第13回 神経系4 末梢神経(脳神経 脊髄神経)</p> <p>第14回 神経系5 末梢神経(脊髄神経) 自律神経(交感神経 副交感神経)</p> <p>第15回 神経系6 伝導路(反射路 求心性伝導路 遠心性伝導路)</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる運動器・神経系の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	骨格・筋・神経系の基本的な構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂） 参考書：特に無し
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》Ⅲ-10-A-b, c 《人体の構造と機能》ⅠⅡ-1-A-a, b, c D-a, b, c, d 3-A-a, b B-a, b, c, d, e, f, g, h, i C-a, b, c, d 4-A-a, b, c B-a C-a, b, c
履修条件・履修上の注意	Active Academyでのレジュメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。 事前に印刷するか、PCにダウンロードで持参するかは自由。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 脈管系1 血管系総論 心臓 刺激伝導系 心臓の血管(冠状動脈) 肺循環と体循環</p> <p>第2回 脈管系2 動脈系 静脈系</p> <p>第3回 脈管系3 胎生時の循環系 リンパ系(リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺</p> <p>第4回 脈管系4 消化器系1 血液 血球 造血組織 内臓学総論(粘膜 腺) 口腔(歯)</p> <p>第5回 消化器系2 口腔(口蓋 舌 唾液腺) 咽頭 食道 胃</p> <p>第6回 消化器系3 小腸(十二指腸 空腸 回腸) 大腸(盲腸 結腸 直腸) 肝臓</p> <p>第7回 消化器系4 呼吸器系1 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔</p> <p>第8回 呼吸器系2 喉頭 気管 気管支 肺</p> <p>第9回 泌尿器系 生殖器系1 腎臓 尿管 膀胱 尿道 男性生殖器(精巣 精巣上体)</p> <p>第10回 生殖器系2 男性生殖器(精管 精嚢 前立腺 陰茎 精液 精子) 女性生殖器(卵巣 卵管 子宮 膣 外陰部 胎盤)</p> <p>第11回 腹膜 内分泌系 腹膜 内分泌系(下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島)</p> <p>第12回 感覚器系1 視覚器(眼球 眼球の付属器) 平衡聴覚器(外耳 中耳 内耳)</p> <p>第13回 感覚器系2 皮膚(表皮 真皮 皮下組織 角質器 皮膚の腺)</p> <p>第14回 発生学1 受精から着床 発生の第2週・第3週</p> <p>第15回 発生学2 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生</p>
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる脈管・内臓・発生の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	脈管・内臓の基本的な構造と発生学について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂) 参考書：特に無し
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-Ⅲ-10-A-d, e, f, h, i, k, m, n 《人体の構造と機能》-ⅠⅡ- 5-A-a, b, c B-a, b, c, d, e, f C-a, b D-a, b E-a F-a G-a 6-A-a, b, c B-a, b, c, d, e, f, g, h C-a, b 9-A-b, d 10-A-a, b B-a, b C-a 11-A-a, b, c, d, e B-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j 13-A-a, b, c C-a, b, c 15-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j 16-A-a, b, d, c, d, e, f, g B-a, b, c C-a, b, c
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：授業の1週間前から1週間後まで。 各自印刷するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。



講義科目名称：臨床解剖学

授業コード：3N042

英文科目名称：Clinical Anatomy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
浅見知市郎			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学 I・II、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	<<人体の構造と機能>>-II-1-A-a, b, c <<人体の構造と機能>>-II-1-B-a, b, c <<人体の構造と機能>>-II-2-A-a <<人体の構造と機能>>-II-2-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-3-C-a, b <<人体の構造と機能>>-II-4-A-a <<人体の構造と機能>>-II-4-B-a, b, c, d, e, f, h, i <<人体の構造と機能>>-II-4-C-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-5-A-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-5-B-a, b, c, d, f <<人体の構造と機能>>-II-5-C-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-D-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-E-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-F-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-G-b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1・2回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>第3-5回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>第6・7回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>第8・9回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>第10・11回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>第12・13回 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>第14・15回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00
国家試験出題基準	≪人体の構造と機能≫-II-6-A-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-6-B-a, b, c, d, g ≪人体の構造と機能≫-II-7-A-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-7-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-7-C-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-8-A-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-8-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-9-A-c, d ≪人体の構造と機能≫-II-9-B-a, b, c, d, e ≪人体の構造と機能≫-II-10-A-a, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-10-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-10-C-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-11-A-d, e ≪人体の構造と機能≫-II-11-B-a, b, e, f, g, h ≪人体の構造と機能≫-II-13-A-a, b, c ≪人体の構造と機能≫-II-13-B-a, b, c, d ≪人体の構造と機能≫-II-13-C-b, d, e ≪人体の構造と機能≫-II-14-A-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-14-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-15-A-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-15-B-a, b ≪人体の構造と機能≫-II-15-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j ≪人体の構造と機能≫-II-16-A-d ≪人体の構造と機能≫-II-16-B-a, b
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意

講義科目名称：臨床生理学

授業コード：3N045

英文科目名称：Clinical Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。</p> <p>第2・3回 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。</p> <p>第4-6回 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。</p> <p>第7・8回 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。</p> <p>第9回 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>第10・11回 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>第12・13回 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体に不可欠なミネラルの種類および欠乏症、過剰症について解説する。</p> <p>第14回 ホメオスタシスとホルモン ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。</p> <p>第15回 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。</p>
科目の目的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を養う。【知識・理解】
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解する。
関連科目	化学A・B、生物学A・B、生理学I・II
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂）
オフィス・アワー	講義終了後 質問は E-mail (k-takahashi@paz.ac.jp) でも受け付ける
国家試験出題基準	《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-a, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-b, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-c, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-d, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-e, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-f, 《人体の構造と機能及び心身の発達》—12-B-g
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
岡山 香里			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 病理学序論・組織細胞障害と修復機構1 病理学とは、変性</p> <p>第2回 組織細胞障害と修復機構2 アポトーシス、壊死</p> <p>第3回 組織細胞障害と修復機構3 再生、化生、瘢痕治癒</p> <p>第4回 物質代謝異常1 糖質代謝異常</p> <p>第5回 物質代謝異常2 脂質代謝異常</p> <p>第6回 物質代謝異常3 核酸代謝異常、生体内色素代謝異常、無機物代謝異常</p> <p>第7回 循環障害1 循環血液量の異常</p> <p>第8回 循環障害2 閉塞性の循環障害</p> <p>第9回 循環障害3 傍側循環、全身性の循環障害</p> <p>第10回 炎症1 炎症とは、炎症の分類、炎症の経過</p> <p>第11回 炎症2 炎症の各型、自己免疫性疾患</p> <p>第12回 先天異常 遺伝子・染色体異常と発生発達異常</p> <p>第13回 腫瘍1 定義、分類、良性腫瘍と悪性腫瘍</p> <p>第14回 腫瘍2 腫瘍の発生、発育、分化度</p> <p>第15回 腫瘍3 腫瘍の発生要因、腫瘍の種類</p>
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、先天異常、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。【知識・理解】
到達目標	1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。
関連科目	解剖学
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト20%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。
教科書・参考書	教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	≪必修問題≫-I-2-B-abc ≪必修問題≫-III-11-A-a <sup>~</sup> x, B-abcd ≪人体の構造と機能≫-I, II-9-A-abcd, B-abcde, 16-D-ab ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-I-1-A-ab, B-ab ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-II-2-A-abc, B-abc, C-abcdefg, D-abcde ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-II-3-A-a, B-abc, C-abcdefg, D-abcdefghi, E-abcd
履修条件・履修上の注意	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義または演習 テキストは、スライド供覧を併用する。
授業計画	<p>第1回 総論 1 診断学 身体所見</p> <p>第2回 総論 2 臨床検査 治療法の原則</p> <p>第3回 消化器疾患 1 食道疾患 胃潰瘍 胃がん 大腸がん 消化器検査法 GIF CF 注腸 腹エコー</p> <p>第4回 消化器疾患 2 肝臓 胆のう 膵臓疾患 胆石症 胆汁代謝 排泄</p> <p>第5回 消化器疾患 3 イレウス 肝性脳症 炎症性腸疾患 急性虫垂炎</p> <p>第6回 消化器疾患 4 ERCP PTCD 手術治療 黄疸 肝生検 TAE など</p> <p>第7-9回 呼吸器疾患 1、2第7回 3第8回 4第9回 気道の炎症性疾患 気管支喘息 COPD 肺塞栓症 肺腫瘍 気胸 睡眠時無呼吸症候群 気管支鏡 手術治療 肺機能検査 など</p> <p>第10回 循環器疾患 1 循環器疾患総論 循環器救急 虚血性心疾患 大動脈疾患</p> <p>第11回 循環器疾患 2 弁膜症 心不全</p> <p>第12回 循環器疾患 3 不整脈 心電図の基礎 PAD VTE</p> <p>第13回 循環器疾患 4 循環器の検査法（血管造影 CT MRI 核医学検査など） 手術治療 ペースメーカー カテーテル治療 循環器系治療薬 など</p> <p>第14回 血液造血器 1 貧血 血液の成分 造血とは 血液検査の異常値 骨髄検査 輸血</p> <p>第15回 血液造血器 2 白血病 リンパ系疾患 DIC 多発性骨髄腫 など</p>
科目の目的	成人の罹患する（罹患：かかる）代表的な疾患（疾病、病気）について、その自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学び、すでに履修した関連科目（後記）の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。【知識・理解】
到達目標	消化器疾患（消化管：食道・胃・小腸・大腸、肝臓、胆のう、膵臓など）、呼吸器疾患（肺炎、気管支ぜんそく、気胸、肺気腫、肺がん など）、循環器疾患（心臓・大血管・末梢動脈・静脈疾患など）、血液・造血器疾患（貧血、白血病など）などの概要について理解し、説明が出来る（患者さん、患者家族への説明を想定しています）。到達度は試験により判定する。
関連科目	これまでに履修習得した、基礎科目、専門科目、看護学専門科目。 生化学 薬理学 解剖学I II 生理学I II 病理学
成績評価方法・基準	筆記試験 100% （授業中に提示した診察法に関連する実技を含む場合がある。）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の1/3程度の時間を準備学習に当てることが望ましい。
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学2（呼吸器） 3（循環器） 4（血液・造血器） 5（消化器）などを適宜参考とする。
オフィス・アワー	講義前後、講義日の昼休み。
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅲ-11-B-abcd ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅲ-5-A-abcdef, Ⅲ-6-A-abcdef, Ⅲ-6-B-abcde, Ⅲ-7-A-abcd ≪成人看護学≫-Ⅱ-3-C-abcdefghijklmn Ⅲ-8-A-abcd, Ⅲ-8-B-abc, Ⅲ-8-C-abcde, Ⅲ-8-D-abcde, Ⅲ-8-E-abcd Ⅲ-9-A-abcd, Ⅲ-9-B-abc, Ⅲ-9-C-abc, Ⅲ-9-D-abcdefg, Ⅲ-9-E-abcd Ⅲ-10-A-abcde, Ⅲ-10-B-abcd, Ⅲ-10-C-abcdefg, Ⅲ-10-D-abcdefghij, Ⅲ-10-E-abcdefg Ⅲ-11-A-abc, Ⅲ-11-B-ab, Ⅲ-11-C-ab, Ⅲ-11-D-abcdef, Ⅲ-11-E-abc
履修条件・履修上の注意	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 内分泌代謝1 ホルモン全般の働きと異常な病態 脂質異常症 甲状腺疾患 機能亢進症と低下症 原発性アルドステロン症</p> <p>第2回 内分泌代謝2 糖尿病 尿崩症 クッシング症候群 メタボリックシンドローム インスリン治療 シックデイ RSS系 糖尿病の経口薬 低血糖 高血糖</p> <p>第3回 脳・神経1 脳出血 脳梗塞 くも膜下出血 慢性硬膜下血腫 脳腫瘍</p> <p>第4回 脳・神経2 パーキンソン病 認知症 アルツハイマー病 ギラン・バレー症候群 重症筋無力症</p> <p>第5回 脳・神経3 脳CT 脳MRI 髄液検査 脳血管造影 脳波検査 頭蓋内圧亢進症 水頭症 脳室ドレナージ 血腫除去術 VPシャント</p> <p>第6回 腎・泌尿器1 腎炎 慢性腎臓病 尿路の炎症 腎泌尿器の腫瘍 血尿 排尿障害</p> <p>第7回 腎・泌尿器2 前立腺疾患 腎不全 透析 膀胱鏡 膀胱切除術 再建術 回腸導管 IVU ED 尿路結石 など</p> <p>第8回 膠原病1 SLE (全身性エリトマトーデス) 関節リウマチ シェーグレン症候群 PSS MCTD 皮膚筋炎 など</p> <p>第9回 膠原病2 アレルギー疾患 感染症 ステロイド治療 免疫抑制薬 分子標的薬 レイノー現象 喘息 接触性皮膚炎 ベーチェット病 サルコイドーシス など</p> <p>第10回 運動器1 骨折 脱臼 変形性関節症 (股関節 膝関節) 脊椎疾患 脊髄損傷 末梢神経障害 神経麻痺 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第11回 運動器2 関節可動域 (ROM) ギプス固定 人工関節置換手術 脊髄造影 リハビリテーション</p> <p>第12回 皮膚疾患1 湿疹 アレルギー性皮膚炎 アトピー 帯状疱疹 疥癬 老人性皮膚掻痒症</p> <p>第13回 眼疾患 白内障 緑内障 網膜剥離 眼内レンズ 視野狭窄 飛蚊症</p> <p>第14回 耳鼻咽喉 難聴 めまい オーディオグラム メニエール病 突発性難聴</p> <p>第15回 女性生殖器 乳がん 子宮がん (体がん 頸がん) 卵巣がん 子宮筋腫 子宮内膜炎 膣炎 STI 不妊症 手術後リンパ浮腫</p>
科目の目的	成人の罹患する (罹る：かかる) 代表的な疾患 (疾病、病気) について、その自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学び、すでに履修した関連科目 (後記) の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。【知識・理解】
到達目標	内分泌代謝疾患 (糖尿病、甲状腺疾患バセドウ病、クッシング病、副腎疾患など)、脳神経疾患 (脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、神経変性疾患など)、腎泌尿器疾患 (腎不全、尿路感染症、膀胱炎、急性腎炎、慢性腎炎、腎がん、膀胱癌など)、アレルギー・膠原病・感染性疾患 (アナフィラキシーショック、薬剤性肝障害、慢性関節リウマチ、SLE、不明熱、結核、コレラ、マラリアなど)、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、婦人科の炎症性疾患、性感染症 (STI) の概要について理解し、説明が出来る (患者さん、患者家族への説明を想定しています)。
関連科目	これまでに履修習得した、基礎科目、専門科目、看護学専門科目。 生化学 薬理学 解剖学I II 生理学I II 病理学
成績評価方法・基準	筆記試験 100% (講義で提示した診察法に関連する実技を含む場合がある)。到達度は試験により判定する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の1/3程度の時間を準備学習に当てることが望ましい。範囲が広いので30分程度の復習が効果的です。
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学 6 (内分泌代謝) 7 (脳神経疾患) 8 (腎泌尿器) 9 (女性生殖器) 10 (運動器) 11 (アレルギー・膠原病・感染症) 12 (皮膚疾患) 13 (眼疾患) 14 (耳鼻咽喉疾患) 医学書院 を適宜参考にします。

	関連資料は随時紹介する。
オフィス・アワー	講義前後、講義日の昼休み。
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅲ-11-B-abcd ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅲ-4-A-abcdefghijkl, Ⅲ-4-B-abc, Ⅲ-4-C-abcd Ⅲ-8-A-abcde, Ⅲ-8-B-abcde, Ⅲ-8-C-abcde, Ⅲ-8-D-abcde Ⅲ-9-A-abcdefghijkl, Ⅲ-9-B-abcdefghijkl, Ⅲ-9-C-abcdefghijkl, Ⅲ-9-D-abcdefghijkl, Ⅲ-10-A-abcdef, Ⅲ-10-B-ab Ⅲ-11-A-abcde, Ⅲ-11-B-ab, Ⅲ-11-C-a Ⅲ-12-A-abcdefg, Ⅲ-12-B-a Ⅲ-13-A-abcd ≪成人看護学≫-Ⅱ-3-C-abcdefghijklmn Ⅲ-12-A-abcdef, Ⅲ-12-B-abcde, Ⅲ-12-C-abcde, Ⅲ-12-D-abcdefgh, Ⅲ-12-E-abcdefgh Ⅲ-13-A-abcd, Ⅲ-13-B-abc, Ⅲ-13-C-ab, Ⅲ-13-D-ab, Ⅲ-13-E-ab Ⅲ-14-A-abc, Ⅲ-14-B-ab, Ⅲ-14-C-abc, Ⅲ-14-D-abc, Ⅲ-14-E-abcd Ⅲ-15-A-abcdef, Ⅲ-15-B-abcde, Ⅲ-15-C-abcd, Ⅲ-15-D-abcdef, Ⅲ-15-E-abcde Ⅲ-16-A-abcde, Ⅲ-16-B-abcd, Ⅲ-16-C-abc, Ⅲ-16-D-abcdefg, Ⅲ-16-E-abcdefg Ⅲ-17-A-abcd, Ⅲ-17-B-abcd, Ⅲ-17-C-abc, Ⅲ-17-D-abcd, Ⅲ-17-E-abcdef Ⅲ-18-A-ab, Ⅲ-18-B-a, Ⅲ-18-C-ab, Ⅲ-18-D-abc, Ⅲ-18-E-ab Ⅲ-19-A-abcdefg, Ⅲ-19-B-abc, Ⅲ-19-C-abcdefghi, Ⅲ-19-D-abcdefgh, Ⅲ-19-E-abc
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
井埜 利博			
秋元かつみ			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 小児科学概論・診断と治療の概要（井埜利博） 小児の特徴、小児疾患の診断と治療法等</p> <p>第2回 新生児・未熟児（1）（井埜利博） 新生児特有の生理について</p> <p>第3回 新生児・未熟児疾患（2）（井埜利博） 低出生体重児に起こる疾患について</p> <p>第4回 先天異常、先天代謝異常（井埜利博） 染色体異常、先天代謝異常、新生児マス・スクリーニング等</p> <p>第5回 神経・筋・骨等疾患、呼吸器疾患（井埜利博） 小児の神経・筋・骨疾患概要、小児に特有な呼吸器疾患</p> <p>第6回 循環器疾患（秋元かつみ） 先天性心疾患、川崎病、心筋疾患、不整脈等</p> <p>第7回 消化器疾患（秋元かつみ） 主として先天性の奇形（幽門狭窄・鎖肛・ヒルシュシュプルング病等）</p> <p>第8回 感染症（1）（秋元かつみ） ウイルス性感染症</p> <p>第9回 感染症（2）（秋元かつみ） 細菌性感染症</p> <p>第10回 血液・腫瘍性疾患（井埜利博） 血液疾患と悪性腫瘍について</p> <p>第11回 免疫・アレルギー疾患、膠原病（秋元かつみ） アレルギーのしくみ、気管支喘息、花粉症、免疫不全、リュウマチ性疾患等</p> <p>第12回 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患（秋元かつみ） 急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、先天性尿路奇形等</p> <p>第13回 内分泌疾患、精神疾患・心身症など（井埜利博） 小児の特有な内分泌異常、発達障害（ADHD・広範性発達障害）、不慮の事故、虐待等</p> <p>第14回 重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患（井埜利博） 重症心身症としての脳性麻痺合併症、その他眼科・耳鼻科領域における代表的疾患</p> <p>第15回 1回～14回までの重要箇所について画像などを用いて総括、最低基本的項目を復習する（井埜利博） 重要な領域についての復習、不足した内容について追加説明を行う</p>
科目の目的	小児看護に必要な基礎的な知識を習得する。また、小児の特有な疾患についての病態生理、症状、治療等を理解し、小児看護を行う上で役立つ知識を身につける。 ディプロマポリシー：【知識・理解】
到達目標	1. 小児の生理学的特殊性を知り、成人のそれとの違いを理解する。2. 小児疾患の原因・症状・検査所見・治療等についての一般的知識を習得する。3. 胎児・新生児を含め、成長発達の過程を学び、それに伴う疾患の病態を習得する。4. 小児科学のみならず、小児に関連したすべての疾患の基礎的知識を勉強する。
関連科目	小児看護学、母性看護学、基礎看護学、公衆衛生看護学、成人看護学、内科学および専門基礎臨床科目、専門基礎地域科目等を含めた小児に関するあらゆる科目が関連すると思われる。
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習することが重要（特に授業を行った分野については教科書をもう一度読み返す）。配布資料については前もって予習しておくことが望ましい。予習復習時間の目安はそれぞれ1時間程度が望ましい。
教科書・参考書	教科書：小児臨床看護各論（専門分野Ⅱ）、奈良間美保他著、医学書院、2016 参考書：小児の発達と看護（小児看護学）、中野綾美編集、メディカル出版、2012
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付け、その場で回答します。不明点は後日調べて文書でお答えします。
国家試験出題基準	【看護師】 《必修》-Ⅲ-11-B-f 《小児看護学》-Ⅱ-9-A-a 《小児看護学》-Ⅱ-9-B-a 《小児看護学》-Ⅱ-9-D-a 《小児看護学》-Ⅱ-11-A-a, b

	《小児看護学》－Ⅱ－11－B－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－11－C－a, b, c, d, e
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：臨床病理学

授業コード：3N051

英文科目名称：Clinical Pathology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 免疫学総論 免疫の概念、自己と非自己を認識するしくみ</p> <p>第2回 生体防御システム概論Ⅰ～自然免疫と獲得免疫～ 自然免疫と獲得免疫の違いおよびそのメカニズム</p> <p>第3回 生体防御システム概論Ⅱ～細胞性免疫と液性免疫～ 免疫細胞による細胞性免疫と液性免疫による生体防御機構の特徴や違い</p> <p>第4回 感染症学総論～感染経路と感染対策～ 感染症の定義、感染経路、院内感染対策法</p> <p>第5回 細菌感染症概論 細菌の分類や特徴、抗菌薬の種類、薬剤耐性メカニズム</p> <p>第6回 細菌感染症各論Ⅰ 食中毒の原因菌</p> <p>第7回 細菌感染症各論Ⅱ 院内感染および性感染の原因菌</p> <p>第8回 細菌感染症各論Ⅲ リケッチア・クラミジア・抗酸菌感染症</p> <p>第9回 真菌・寄生虫感染症 カンジダ症・マラリア・赤痢アメーバ</p> <p>第10回 ウイルス感染症概論 ウイルスの分類や特徴、抗ウイルス薬、風邪症候群</p> <p>第11回 ウイルス感染症各論 食中毒の原因菌、肝炎ウイルス、ウイルス性出血熱、H I V</p> <p>第12回 免疫異常Ⅰ 免疫不全症の分類と特徴、</p> <p>第13回 免疫異常Ⅱ アレルギーの分類・特徴と発生メカニズム</p> <p>第14回 免疫異常Ⅲ 免疫寛容と自己免疫疾患</p> <p>第15回 輸血と免疫 血液型と不適合輸血、輸血検査、輸血感染</p>
科目の目的	生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。細菌・ウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など臨床現場で必要となる感染知識を身に付ける。【知識・理解】
到達目標	1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する。2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する。3. アレルギーの種類と特徴を理解する。4. 感染症の特徴と感染対策法を理解する。5. 主な細菌感染症について理解する。6. 主なウイルス感染症について理解する。7. 輸血のリスクについて理解する。
関連科目	生理学・疾病の成り立ち
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を行い、各自知識整理を行うこと。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：「病気がみえる⑥ 免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア） 参考書：「わかる 身につく 病原体・感染・免疫」（南山堂）
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個人別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	1～3：必須問題3-10-A-d、必須問題3-11-B-c、人体の構造と機能-9-A、人体の構造と機能-9-B-a～d 4,7：基礎看護-共通基礎技術-E、必須問題4-患者の安全と安楽を守る技術-c 11～12：成人看護学-14-D、成人看護学-14-E-a、疾病の成り立ちと回復の促進-8-c 13：成人看護学-14-E-b、疾病の成り立ちと回復の促進-8-B 14：成人看護学-14-A-b,c、成人看護学-14-B-b、疾病の成り立ちと回復の促進-8-A
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 薬理学とは 薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。</p> <p>第2回 薬物動態 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。</p> <p>第3回 麻酔薬と中枢興奮薬 全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬。</p> <p>第4回 解熱鎮痛薬・抗炎症薬と麻薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。</p> <p>第5回 向精神薬と抗痙攣薬 向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬 筋弛緩薬の作用と応用。パーキンソン症候群の理解と抗パーキンソン薬の作用。</p> <p>第6回 自律神経薬 自律神経の基礎知識。 コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬。 アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。</p> <p>第7回 オータコイド オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。</p> <p>第8回 強心薬 強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。 抗狭心症薬と抗不整脈薬 狭心症治療薬の作用と投与方法。不整脈の分類と治療。抗不整脈薬の種類。</p> <p>第9回 利尿薬と降圧薬 利尿薬。利尿薬の臨床的応用。降圧薬。抗動脈硬化薬。</p> <p>第10回 消化器病薬と駆虫薬 消化性潰瘍治療薬。健胃・消化薬。消化管運動促進薬。 制吐薬。下痢と止痢薬。潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬。駆虫薬。</p> <p>第11回 呼吸器病薬 呼吸器病薬。抗結核薬。</p> <p>第12回 内分泌薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。</p> <p>第13回 血液病薬と抗癌薬 貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 抗癌薬の開発と化学療法。抗癌薬の副作用と組み合わせ。</p> <p>第14回 化学療法薬と免疫療法薬 化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。</p> <p>第15回 消毒薬 滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。</p>
科目の目的	<p>ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする科目である。具体的には、医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。</p>
到達目標	<p>薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護の実践に必要とされるレベルに到達することを目標とする。</p>
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	試験（100％）。

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約1時間。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」（医学書院）。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み。
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-III-4-B-b~d 《必修問題-3》-III-12-Aa~o 《必修問題-3》-III-12-B~a~c
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。



講義科目名称：臨床薬理学

授業コード：3N054

英文科目名称：Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
小河原はつ江			
白土 佳子			

授業形態	オムニバス形式で講義する。小河原8回、白土7回		
授業計画	第1回	臨床検査とその役割、臨床検査の流れと看護師の役割（小河原） 診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。臨床検査はどのようにして行われるか、また医療チームの役割や看護師の役割について解説する。	
	第2回	一般検査（1）（小河原） 検体の取り扱い方、尿および便検査について解説する。	
	第3回	一般検査（2）（小河原） 体液貯留液（胸水、腹水など）検査、脳脊髄液検査、関節液検査、その他のについて解説する。	
	第4回	血液検査（1）（小河原） 血沈（赤沈）、血球算定、血液像について解説する。	
	第5回	血液検査（2）（小河原） 出血・凝固検査、溶血性貧血の検査、骨髄穿刺検査について解説する。	
	第6回	化学検査（1）（小河原） 血清タンパク、酵素、糖代謝検査、脂質代謝検査について解説する。	
	第7回	化学検査（2）（小河原） 胆汁排泄関連物質検査、腎機能、水・電解質の検査、血液ガス分析について解説する。	
	第8回	化学検査（3）および中間試験（小河原） 鉄代謝、銅代謝検査、血中薬物濃度検査について解説した後、中間試験を行う。試験成績は学生に返却し、定期試験成績と合わせて評価する。	
	第9回	免疫血清検査（1）（白土） 炎症マーカー、液性免疫、細胞性免疫およびアレルギーの検査について解説する。	
	第10回	免疫血清検査（2）（白土） 免疫グロブリン検査、腫瘍マーカー検査、輸血に関する検査について解説する。	
	第11回	内分泌機能検査（白土） 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン検査等について解説する。	
	第12回	微生物検査・寄生虫検査（白土） 主な微生物および寄生虫の特徴と病気との関連について解説する。	
	第13回	病理検査（白土） 細胞診断学的検査、病理組織検査について解説する。	
	第14回	生理機能検査（1）（白土） 循環器機能検査、呼吸機能検査、神経機能検査、脳波検査について解説する。	
	第15回	生理機能検査（2）（白土） 画像検査（超音波検査、MRI検査、サーモグラフィー等）について解説する。	
科目の目的	看護師として必要な臨床検査の基礎知識を学び、科学的根拠に基づいた看護ができることをめざす。 ディプロマーポリシーの【知識・理解】【思考・判断】を修得することをめざす。		
到達目標	1) 国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断・治療を行うための臨床検査の概略を把握する。 2) 各種検査の基準値、臨床的意義を理解する。 3) 看護ケアの実践に役立てることができる。		
関連科目	解剖学（人体構造）、生理学（人体機能）を含む各臨床科目		
成績評価方法・基準	中間試験と定期試験（筆記）の平均得点で評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分間、予習または復習をしっかりと行うこと。		
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 別巻 臨床検査」奈良信雄編 医学書院 2016 参考書1：「看護のための臨床検査」浅野嘉延著 南山堂 2015 参考書2：「臨床検査法提要 改訂第33版」金井正光監修 奥村伸生、他編 金原出版 2010		
オフィス・アワー	小河原：講義の前後及び月曜日16:30～19:00およびメールにて対応 ogawara@paz.ac.jp 白土：講義の前後およびメールにて対応 (shiratsuchi@paz.ac.jp)		
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》Ⅱ-3-B-a～c		
履修条件・履修上の注意	履修条件は特にないが、臨床検査のデータを活用し、看護ケアの実践に役立てられるよう、不明な点は積極的に質問をしてほしい。		

講義科目名称：緩和医療学

授業コード：3N056

英文科目名称：Palliative Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
斎藤 龍生			
小林 剛	小和田美由紀		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
後藤 香織			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 栄養学の目的 1 食と私たち 食育を忘れないで 食育の必要性</p> <p>第2回 主食と主菜と副菜 どのように選択するのか 自分たちの今の状況を把握せよ</p> <p>第3回 献立の立て方 糖質の種類 献立とはなにか どうして重要なのか 糖質の構造を覚える</p> <p>第4回 糖質の消化と吸収 糖質は最も重要な栄養素であり いかにか体に賢く摂取しているのか知る</p> <p>第5回 糖質の代謝 これが運動のエネルギー源である だから人間は進化できた</p> <p>第6回 エネルギー量の算出 それぞれの学生諸君の使ったエネルギーはどれだけなのか 正しいのか 間違っているのか</p> <p>第7回 脂質の化学 食べ物の脂と体の脂 悪玉は本当に悪玉なのか</p> <p>第8回 脂質の代謝 脂質はどうやって体で使われるのか スポーツではどうしたら燃焼しているのか</p> <p>第9回 蛋白質の化学 筋肉をつけるにはどうしたらいいのか</p> <p>第10回 蛋白質の消化と吸収と代謝 どんな蛋白質が質が高い蛋白質なのか</p> <p>第11回 ビタミンとはなにか どのように摂取する 森鷗外の大失態 ビタミン戦争 ビタミンと病気</p> <p>第12回 ミネラルとは どのような病気になるのか カルシウムと鉄 賢い摂取方法は</p> <p>第13回 どんな献立を作って食べればいいのか 献立の立て方 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算</p> <p>第14回 献立とスポーツ選手と病気 13回の続き 食品の選び方 スポーツと献立 嚥下障害 病気の時はどうしたらいいのか</p> <p>第15回 まとめ 1回から14回までの内容の確認と復習</p>
科目の目的	<p>捕食という行動は全てを中心であることを深く理解し、人が食べるという行為をどれだけ重要に考えなくてはならないかを知り、人体が必要とする栄養素を学ぶ。さらに自身の摂取エネルギーと消費エネルギーから必要な栄養量、栄養素、運動、休養を求め、よりよい健康状態を保つことを身に漬ける方法を学ぶ。国の施策である「食育」が大学生には危機的な状況であることを知り改善する為に、栄養・休養・運動の三要素を含めて解説する。本学のディプロマポリシーに沿い、保健医療専門職としての栄養学の基礎的知識と、社会人としての食に関する教養を身につけ、食に関する多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解し、保健医療分野と栄養学との関係を見出し、科学的洞察による的確な判断ができ、先進・高度化する栄養分野の基本的知識と技術を提供することや、栄養補給に関わるコミュニケーション能力を身につけ、生涯にわたって栄養に関する知識を身に付けて、自身が健康に過ごすことを身に付け、それを社会に貢献させる。【知識・理解】</p>
到達目標	<p>基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。 栄養素と消化、吸収、代謝に関わる知識の習得、一日の消費カロリーの計算、一日の摂取エネルギーの計算、運動時の代謝、和食の伝統文化、美味しく感じる為の脳科学的方法を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学の基礎的知識と教養を身につけている。</li> <li>・栄養に関わる多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。</li> <li>・栄養分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。</li> <li>・栄養学分野の基本的技術を提供することができる。</li> <li>・NSTを実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>・生涯にわたって栄養分野を探索し、その発展に貢献する意欲を持っている。</li> <li>・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養保健医療に寄与できる。</li> <li>・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につけている。</li> </ul>
関連科目	①解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④病理学
成績評価方法・基準	定期試験85%（定期試験を85点満点とする） 出席回数15%（1回を1%とする）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	高校の生物学および、解剖学、生理学とを見直しておく。 成分表の後半のページを読んでおく。20分予習する。
教科書・参考書	教科書：新選 食品成分表 (実教出版) 参考書：新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学 (メジカルフレンド社) 看護栄養学 (医歯薬出版) リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版 栢下淳・若林秀隆 編著 (医歯薬出版)
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》- I -2-C-b 《人体の構造と機能》- I II-12-A-ab 《疾病の成り立ちと回復の促進》-III-9-A-abcdefg 《成人看護学》-III-11-A-c
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
後藤 香織			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 臨床栄養学とは 1) 食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する</p> <p>第2回 栄養の評価法 1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について</p> <p>第3回 疾病と栄養(1) 肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。</p> <p>第4回 疾病と栄養(2) 糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。</p> <p>第5回 疾病と栄養(3) 糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する</p> <p>第6回 疾病と栄養(4) 動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。</p> <p>第7回 疾病と栄養(5) 高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。</p> <p>第8回 疾病と栄養(6) 骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。</p> <p>第9回 疾病と栄養(7) 消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。</p> <p>第10回 疾病と栄養(8) 消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。</p> <p>第11回 疾病と栄養(9) 腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。</p> <p>第12回 疾病と栄養(10) がん栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。</p> <p>第13回 疾病と栄養(11) 血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 2) 嚥下障害について</p> <p>第14回 疾病と栄養(12) 小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 2) 栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。</p> <p>第15回 まとめ</p>

	1回から15回までの栄養法を振り返り、注意点を確認する。
科目の目的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。本学のディプロマポリシーに沿って、生涯にわたって栄養に関する知識を身に付けて、自身が健康に過ごす術を身に付け、それを社会に貢献することが目的です。
到達目標	基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療専門職としての病態栄養学の知識と教養を身につけている。</li> <li>・栄養学における多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。</li> <li>・栄養学分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。</li> <li>・先進・高度化する栄養学分野の基本的技術を提供することができる。</li> <li>・NSTを実践するための能力を身につける。</li> <li>・生涯にわたって栄養学の分野を探究し、その発展に貢献する意欲を持つ。</li> <li>・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養推進に寄与できる。</li> <li>・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につける。</li> </ul>
関連科目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基本的な栄養学、生理学、解剖学を見直すことが予習になる。 ぜひとも授業前日には30分程度でよいので見直してほしい。
教科書・参考書	教科書 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会  参考書 スタンダード栄養・食物シリーズ 「臨床栄養学各論」（東京化学同人）
オフィス・アワー	授業後 授業前に質問してください
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》－Ⅲ－9－A－abcdefg 《成人看護学》－Ⅲ－12－D－d
履修条件・履修上の注意	特になし。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義を中心とし、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	<p>発達心理学とは</p> <p>発達心理学とは、年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当ててこれらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の一分野である。本講義では、発達心理学の歴史と概念や、次回以降の講義で中心的に扱うエリクソンの発達段階と発達課題について学ぶ。</p> <p>key words：発達心理学，エリクソン，ライフサイクル，発達段階，発達課題</p>	
	第2回	<p>乳児期の発達と危機管理</p> <p>本講義では、人生の始まりの時期である乳児期に見られる対人面と情動面での個人差と、それがどうして生じるかについて学ぶ。</p> <p>key words：気質，養子研究法，双生児研究法，愛着理論，「基本的信頼感の獲得」対「基本的不信」</p>	
	第3回	<p>幼児初期の発達と危機管理</p> <p>1歳半から3歳半～4歳までの時期を幼児初期という。本講義では、幼児初期の身体的・認知的発達と自我の発達について学ぶ。</p> <p>key words：始歩，始語，前操作期，分離-個体化の過程，「自立性・自律性」対「恥・疑惑」</p>	
	第4回	<p>幼児期の発達と危機管理</p> <p>幼児期とは、いわゆる就学前期をさす。本講義では、この時期の子どもの認知面の発達の特徴について学ぶ。</p> <p>key word：模倣，自己中心性，アニミズム，「主導性・積極性」対「恥・疑惑」</p>	
	第5回	<p>学童期の発達と危機管理</p> <p>小学校入学後から第二次性徴が見られる思春期までの間を児童期，もしくは学童期とよぶが、ここでは便宜上小学生の時期を学童期とよぶ。学童期の心理的な発達については、乳幼児期や青年期ほど関心を持たれることはなく、心理学において研究されなかった時期も長かった。本講義では児童期の思考や認知発達の特徴について学び、理解を深める。」</p> <p>key words：潜伏期，具体的操作期，「勤勉性」対「劣等感」</p>	
	第6回	<p>思春期の発達と危機管理</p> <p>思春期について、前思春期として小学校高学年から含める場合もあるが、本講義では中学生の年齢を示すこととし、思春期の認知的発達や対人関係について学び、理解を深める。</p> <p>key words：仮説演繹的思考，形式的操作期，第二の個体化の時期，チャム</p>	
	第7回	<p>青年期の発達と危機管理</p> <p>ニューマンらは、青年期（高校生）における心理社会的危機を「集団同一性」対「疎外」であると提唱した。つまり、エリクソンが青年期の発達課題とした自我同一性の確立を達成する前提として、青年期（高校生）においては集団同一性を発見させることが重要であるとしている。本講義では、青年期（高校生）の身体的・心理的特性について学び、理解を深める。</p> <p>key words：演繹的思考，性的同一化，「集団同一性」対「疎外」</p>	
	第8回	<p>青年後期の発達と危機管理</p> <p>青年後期とは、社会で自立するための専門教育を受け、その成果を活かして就職・結婚するに至るまでの、心理社会的な自立に向けての仕上げを試みる時期である。本講義では、青年後期の発達課題とこころの危機について学び、理解を深める。</p> <p>key words：「アイデンティティの確立」対「役割の拡散」，「自分探し」と「見習い」の時期，モラトリアム</p>	
	第9回	<p>青年後期に特異なこころの病理</p> <p>青年後期に好発するこころの病理像には、アイデンティティの混乱が潜伏している。換言すれば、大人としてのアイデンティティが獲得されると、こころの病理は結果的に軽快する。本講義では青年後期に特異なこころの病理を3つ取り上げ、それぞれの特徴と対応について理解する。</p> <p>key words：不安症／不安症候群，摂食障害，スチューデントアパシー</p>	
	第10回	<p>神経発達症／神経発達障害（1）</p> <p>平成19年に全国で特別支援教育が開始され、ここ数年で発達障害に対する理解が急速に広まりつつある。本講義では3つの代表的な発達障害の中からAD/HD・SLDの2つと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴と支援について学び、理解を深める。</p> <p>key words：発達障害，AD/HD，SLD，知的能力障害（知的発達症／知的発達障害），特別支援教育</p>	
	第11回	<p>神経発達症／神経発達障害（2）</p> <p>前回に続き、発達障害について学習する。本講義では3つの代表的な発達障害の最後の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学び、太田ステージ理論に基づく支援について理解を深める。</p> <p>key words：自閉スペクトラム症，太田ステージ理論，特別支援教育</p>	
	第12回	<p>若い大人の発達課題と危機管理</p> <p>若いおとなというのは、いささか耳慣れないことばであるが、具体的には学業や職業訓練を終えた22～3歳から30歳代のはじめくらいまでと考えら、エリクソンはこの時期を成人初期とよんだ。本講義では成人初期の発達課題や性差における社会的役割について学び、理解を深める。</p> <p>key words：「親密性」対「孤立」，共依存</p>	
	第13回	<p>壮年期の発達課題と危機管理</p> <p>壮年期とは、概ね40歳代後半から50歳代を指す。壮年期は身体面・心理面の衰えが意識され始</p>	



	<p>める時期である。その一方で人生経験の蓄積によって培われた判断力や理解力、社会的能力は高まり、それを発揮する機会も多くなる。本講義ではこの時期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について学び、理解を深める。 key words: 「生殖性」対「停滞」、更年期</p> <p>第14回 高齢期の発達課題と危機管理 高齢者は、これまでに取り組んできた人生の主要な課題に関して、結果を評価することができる地点にいる。本講義では、人生の最終段階である老年期の特徴や発達課題について学び、理解を深める。 key words: 「統合」対「絶望」、死の受容、ライフレビュー</p> <p>第15回 生命の循環 これまでの講義を振り返るとともに、人間の発達を個人中心に考えるのではなく、子どもと父母、父母と祖父母、子どもと祖父母のそれぞれが相互に影響を与え合って、世代同市がつながり合いながら個人としても成長していくプロセスである「生命の循環（ライフサイクル）」について学び、理解を深める。 key words: 生命の循環（ライフサイクル）、ペアレンティング、世代間連鎖</p>
科目の目的	<p>年齢によって人の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当ててこれらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野を発達心理学とよぶ。本講義では人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー: 【知識・理解】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エリクソンが区分した8つの発達段階の特徴と、それぞれの段階における発達課題を理解する。</li> <li>2. 各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について理解する。</li> <li>3. 発達障害に対する知識と支援方法について習得する。</li> </ol>
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学、教育学、教育心理学、生命倫理、哲学、人間と宗教、社会学、生活文化と医療、大学の学び入門、大学の学び-専門への誘い-、多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学、公衆衛生学、保健統計、カウンセリング</p> <p>【専門科目群】全科目</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 岡堂哲雄編（2003）「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」 金子書房</p>
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室）</p>
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-C-c</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-C-d</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-D-b</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-D-c</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-E-a</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-E-b</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-E-c</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-E-d</li> <li>≪必修問題≫-Ⅱ-7-G-c</li> </ul>
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。		
授業計画	第1回	臨床心理学とは何か 臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の歴史や構造について学ぶ。	
	第2回	無意識の心理学（1）精神分析 精神分析とは、オーストリアの神経学者フロイトによって創始された人間の心を研究する方法であり、理論であり、精神疾患や不適応の治療法である。本講義では、心理療法としての精神分析を中心に、その基本概念について学習する。 key words：意識、前意識、無意識、エス（イド）、自我、超自我、エディプス・コンプレックス	
	第3回	無意識の心理学（2）分析心理学 分析心理学はスイスの精神医学者カール・グスタフ・ユングによって創始された心理学・心理療法であり、一般にユング心理学として知られている。ユングは当初フロイトから強い影響を受けたが、その理論の違いからフロイトと決別することになる。本講義では、フロイトの理論との比較を通してユングの理論について理解を深める。 key words：個人的無意識、普遍的無意識、元型、症状の持つ意味、夢分析	
	第4回	クライアント中心療法 カール・ロジャースは20世紀アメリカを代表する心理学者の1人である。ロジャースは人間の本質を善ととらえる人間観に基づき、人間の成長力、主体性を重視し、心理療法を「クライアント中心」に進めていくという大きな変革をもたらした。本講義ではロジャースの生涯をたどり、その理論の変遷について理解する。 key words：クライアント中心療法、パーソン・センタード、静かなる革命、受容、共感、自己一致、建設的なパーソナリティ変化が生じるための必要かつ十分な条件	
	第5回	臨床心理アセスメント（1） 臨床心理アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報（データ）を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。臨床心理アセスメントが精神医学的診断と同一のものとして混同されることがあるが、本質的には臨床心理アセスメントは精神医学的診断とは異なる特徴を持っている。本講義では、臨床心理アセスメントの技法について学び、精神医学的診断との違いについて理解を深める。 key words：面接法、観察法、検査法	
	第6回	こころの問題を理解する（1）「不安症／不安障害（神経症）」 不安症／不安障害（神経症）は主に心理的原因によって生じる心身の機能障害の総称であり、精神病とは異なる。本講義では不安症の種類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：分離不安症、選択制緘黙、限局性恐怖症、社交不安症、パニック症、広場恐怖症、全般不安症	
	第7回	こころの問題を理解する（2）「身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害」 神経症（ノイローゼ）の一類型として扱われていた「ヒステリー」は、DSM-III以降、ヒステリー概念が排除されたために、「転換ヒステリー」が「身体表現性障害」に、「解離性ヒステリー」は「解離性障害」として改められた。更に、DSM-5では「身体表現性障害」は「身体症状症」に、「解離性障害」は「解離症」に改められた。本講義では両社の下位分類や支援の方法について学び、理解を深める。 key words：身体症状症、転換性障害、病気不安症、解離性健忘、解離性同一症、離人感・現実感消失症	
	第8回	こころの問題を理解する（3）「摂食障害」 摂食障害は、極端な食事制限や大量の食糧摂取と排出行為など、摂食の問題が含まれる精神疾患であり、1980年代にDSMに登場して以降、先進国を中心に増加している。その背景として、やせを礼賛し体重増加を恐れる文化の影響や母子関係のつまずき等が考えられる。本講義では摂食障害の種類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：神経性やせ症／神経性無職欲症、神経性過食症／神経性大食症	
	第9回	こころの問題を理解する（4）「性障害・性別違和」 性に関する問題は周辺のテーマであると考えられがちで、教科書や講義で取り上げられることはあまりない。そのため、訓練を受けた専門家でも、性の問題に関する知識を十分に持っていない場合がしばしばある。しかし、その一方で性とは、人間のアイデンティティの根幹にあってQOLに重大な影響を及ぼす事柄であり、臨床心理学でも大事なテーマになる。本講義ではDSM-5に収載されている3つの障害について理解を深め、その支援の方法について検討を行う。 key words：性機能不全、パラフィリア（性嗜好異常）、性別違和	
	第10回	こころの問題を理解する（5）「パーソナリティ障害」 パーソナリティ障害とは、思考・感情・行動などのパターンが平均から著しく逸脱し、社会生活や職業生活に支障をきたしている状態を指し、正常な状態とは言えないが病気であるとも言えない状態である。本講義ではパーソナリティ障害の分類と支援の方法について学び、理解を深める。 key words：猜疑性／妄想性パーソナリティ障害、シゾイド／スキゾイドパーソナリティ障害、統合失調型パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害、演技性パーソナリティ障害、自己愛性パーソナリティ障害、反社会性パーソナリティ障害、回避性パーソナリティ障害、依存性パーソナリティ障害、強迫性パーソナリティ障害	

	<p>第11回 こころの問題を理解する(6)「気分障害」 DSM-IV-TRでは、気分障害とは感情が正常に機能しなくなった状態を指す。人は誰でも気分の浮き沈みを体験するが、気分障害においては、その浮き沈みの程度や期間が著しく、睡眠障害などの身体症状も現れる。本講義では気分障害の種類とその支援方法について学び、理解を深める。 key words: 双極Ⅰ型障害, 双極Ⅱ型障害, うつ病/大うつ病性障害</p> <p>第12回 こころの問題を理解する(7)「統合失調症」 統合失調症は、幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患である。それに伴って、人々と交流しながら家庭や社会で生活を営む機能が障害を受け(生活の障害)、「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすい(病識の障害)という特徴を併せもっている。本講義では統合失調症の類型と支援の方法について学び、理解を深める。 key words: 緊張型, 解体(破瓜)型, 妄想型</p> <p>第13回 臨床心理アセスメント(2) 質問紙法 質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。 key words: 質問紙法, POMS2</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント(3) 描画法演習 様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。 key words: 描画法, 風景構成法</p> <p>第15回 総括 これまでの講義を通して学んだ知識や身に着けた技法について振り返り、自らの専門にどのように活かしていくかを検討する。</p>
科目の目的	<p>臨床心理学とは、心の不健康な人々を健康へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本講義では、臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー:【思考・判断】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能、および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して、人間への深い理解を形成する。</li> <li>2. 人間への深みのある理解を通して、自己理解、他者理解、人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。</li> <li>3. 保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</li> <li>4. 看護場面・治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法について理解を深める。</li> </ol>
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び-専門への誘い-, 多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 発達心理学, 公衆衛生学, 保健統計, カウンセリング</p> <p>【専門科目群】全科目</p>
成績評価方法・基準	<p>定期試験(80%)に、毎回の受講後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房</p> <p>山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p> <p>※ 必修科目「心理学」の教科書</p>
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み(1号館305研究室もしくは1号館・4号館学生相談室)</p>
国家試験出題基準	<p>なし</p>
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理解 公衆衛生学の特徴 健康の概念の変遷、予防の概念</p> <p>第2回 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行</p> <p>第3回 健康指標と保健統計 人口静態・人口動態、年齢調整死亡率、20世紀100年の観察</p> <p>第4回 疫学1 疫学概念、疫学3要因と2要因、記述疫学、分析疫学、後ろ向き研究と前向き研究</p> <p>第5回 疫学2 系統誤差、バイアスとその除去、相対危険度、寄与危険度、因果関係論、スクリーニングの意義と計算</p> <p>第6回 感染症総論 感染症発生の3要因と予防の原則、新興・再興感染症、1類感染症、予防接種</p> <p>第7回 感染症各論 結核、エイズ</p> <p>第8回 母子保健 成人保健 乳児死亡率・妊産婦死亡率 がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病等生活習慣病</p> <p>第9回 老人保健福祉 学校保健 老人保健法、介護保険法、医療介護総合確保推進法</p> <p>第10回 精神保健 精神保健のあゆみ、精神障害の種類、入院治療の形式、精神保健福祉対策、アルコール・薬物依存、自殺予防</p> <p>第11回 生活環境、環境と健康、環境基準、地球環境問題 公害と防止対策、公害健康被害補償の原則</p> <p>第12回 栄養と食品衛生 食中毒発生状況の変遷、食中毒の種類と予防法</p> <p>第13回 産業保健 労働環境、職業病の種類と予防法</p> <p>第14回 衛生行政と社会保障 保健所と区市町村保健センター、社会保障概要</p> <p>第15回 医療行政概要 医療法改正の動向、医療計画、地域医療連携の推進、救急医療体制の整備、医療人材・医療資源の国際比較</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。</li> <li>2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。</li> <li>3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。</li> </ol>
関連科目	生命倫理、環境学、疫学、保健統計、社会学、情報処理、免疫・感染症学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり4時間
教科書・参考書	<p>【教科書】 「最新臨床検査学講座 公衆衛生学」照屋浩司他著（医歯薬出版） 「国民衛生の動向 2017/2018版」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p> <p>【参考書】 特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	<p>【看護師】 《必修問題》Ⅰ-1-A-abcdefghi, B-abcdef、Ⅰ-2-B-abc 《健康支援と社会保障制度》Ⅲ-8-A-abcde, B-abc, C-abc、Ⅲ-9-A-abcdefgh, B-abcdefghi、Ⅲ-10-A-abcdef,</p>

	B-abc, C-abc, D-ab 【保健師】 《公衆衛生看護学概論》 I II-3-A-ab, B-ab
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 疫学概念・歴史 疫学の目的、対象、方法、歴史的考察、医学的根拠への寄与</p> <p>第2回 疫学の要因 疫学の三要因、二元論の疫学</p> <p>第3回 健康指標、頻度と曝露、年齢調整死亡率 疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度</p> <p>第4回 疫学研究方法、疫学の倫理 記述疫学と分析疫学、5WBridge</p> <p>第5回 疫学調査方法1 後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論</p> <p>第6回 疫学調査方法2 系統誤差、バイアスの種類と除去</p> <p>第7回 スクリーニング 敏感度、特異度、陽性反応適中率</p> <p>第8回 感染症の疫学1 感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則</p> <p>第9回 感染症の疫学2 わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症</p> <p>第10回 感染症の疫学3 食中毒の疫学調査、細菌性食中毒</p> <p>第11回 感染症の疫学4 防疫活動要領、予防接種、1類感染症</p> <p>第12回 感染症の疫学5 結核の動向と対策、HIV・STDの動向と対策</p> <p>第13回 非感染症の疫学1 悪性新生物、生活習慣病、自殺、母子</p> <p>第14回 非感染症の疫学2 環境保健の疫学</p> <p>第15回 非感染症の疫学3 医療資源、医療人材の疫学</p>
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。【知識・理解】
到達目標	1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標が理解できる。 2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。
関連科目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、社会学、免疫・感染症学、環境学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な時間の目安 1コマあたり1時間
教科書・参考書	【教科書】 「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」 牧本清子著（医学書院） 【参考書】 「国民衛生の動向」（一般財団法人 厚生労働統計協会）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》 I-1-A-abcdefghi, B-abcdef、 I-2-A-abcdefghi 《健康支援と社会保障制度》 III-8-C-a、 III-9-B-abcdefghi 【保健師】 《健康危機管理》 I-2-A-abcd 《疫学》 1-A-abc, B-abc, C-abc, D-a、 2-A-a, B-abcd, C-ab、 3-A-abcd, B-abcd、 4-A-abc, B-abcde, C-ab, D-ab, E-abcde、 5-A-ab, B-abc、 6-A-abc、 7-ABCDEFGHJKLM-ab、 8-A-ab, B-ab, C-ab

履修条件・履修上の注意	保健統計の及び疫学の基礎的な計算に習熟するため電算機を持参すること
-------------	-----------------------------------

講義科目名称：保健統計

授業コード：3N063

英文科目名称：Statistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
宮崎有紀子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
一場 美根子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 社会保障制度と社会福祉（矢島） 社会保障制度、社会福祉の概念、行財政の仕組み</p> <p>第2回 社会福祉の歴史（矢島） 我が国における社会保障制度、社会福祉の歴史的変遷</p> <p>第3回 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向（矢島） 戦後の我が国の社会保障制度の展開と課題</p> <p>第4回 医療保障1（一場） 看護対象者の医療保障の課題と支援方法 ・社会保障制度と医療保険制度 ・医療保障制度の変遷 ・医療保険制度（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度）</p> <p>第5回 医療保障2（一場） ・医療保険制度（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度） ・公費負担医療制度 ・国民医療費</p> <p>第6回 高齢者福祉1（矢島） 高齢者福祉の課題</p> <p>第7回 高齢者福祉2（矢島） 高齢者福祉に関する法令、制度 高齢者福祉施策のしくみ</p> <p>第8回 介護保障1（一場） 看護対象者の介護保障の課題と支援方法 ・介護保険制度創設の背景とその後の制度改正について ・介護保険制度のしくみ</p> <p>第9回 介護保障2（一場） ・介護保険制度のしくみ ・介護保険制度のサービスの種類・内容と主なサービス料金</p> <p>第10回 介護保障3（一場） ・介護保険制度と地域支援事業</p> <p>第11回 障害者福祉1（矢島） 知的・身体・精神障害者、発達障害者、難病療養者の福祉に関する課題</p> <p>第12回 障害者福祉2（矢島） 知的・身体・精神障害者、発達障害者、難病療養者の福祉に関する法令・制度、支援施策のしくみ</p> <p>第13回 所得保障（一場） 看護対象者の所得保障の課題と支援方法 ・公的年金保険制度 ・労働保険制度（雇用保険・労働者災害補償保険）と労働法（労働基準法、労働安全衛生法、育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律など）</p> <p>第14回 公的扶助（一場） 生活保護制度などに関する法と看護対象者の公的扶助の課題と支援方法</p> <p>第15回 児童・家庭福祉（矢島） 児童・家庭福祉に関する法令・制度、児童・家庭福祉施策</p>
科目の目的	看護師・保健師・助産師の業務と関連の深い社会福祉、社会保障の法令、制度を理解し、変化する社会情勢の中で人々の健康と生活を支援するため社会資源の公平な利用と配分を促進する方法を学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度、社会福祉の理念と歴史的変遷を説明できる。</li> <li>2. 医療保障、所得保障、介護保障、公的扶助、障害者福祉に関する主な法令、諸制度の概要を説明できる。</li> <li>3. 社会資源の公平な利用と配分を促進する看護職の役割を考えることができる。</li> </ol>
関連科目	法学、地域社会学、経済学、地域保健行政、地域福祉・地域サービス論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ
成績評価方法・基準	試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき120分程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門基礎 社会福祉 健康支援と社会保障制度③」（医学書院）

	2. 「国民衛生の動向2016/2017」 (厚生統計協会) 参考書 1. 「医療六法」 (中央法規) 2. 「福祉省六法」 (中央法規)
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00 一場美根子：講義の前後
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 <保健医療福祉行政論> 1-A, 2-B-b, 4-A, B, C 5-A 看護師国家試験出題基準 <必修問題> I-3-A, B <健康支援と社会保障制度> II-4, 5, 6
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配付しますので、授業に持参してください。

講義科目名称：地域保健行政

授業コード：3N065

英文科目名称：Community Health Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
担当教員			
小林亜由美			
一場美根子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：歯科保健

授業コード：3N066

英文科目名称：Dental Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
豊泉 修			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、歯科分野に対する質問等</p> <p>第2回 歯 歯・歯周組織の機能、構造、組織学</p> <p>第3回 口腔とその周囲の解剖生理 口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺・上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節</p> <p>第4回 う蝕 う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法</p> <p>第5回 歯周病 歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法</p> <p>第6回 顎関節症およびその他の歯科疾患 顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法、 口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症</p> <p>第7回 歯科保健 母子・学校・地域・成人・老人歯科保健</p> <p>第8回 口腔ケア 口腔ケア実技</p>
科目の目的	看護師として活動する上で必要と考えられる歯科保健の知識を習得せしむる。 (知識・理解)
到達目標	歯科の基本知識を持っている。 歯科医師や歯科衛生士と専門的な会話ができる。
関連科目	臨床解剖学 臨床生理学 臨床病理学 地域保健行政 成人看護学総論
成績評価方法・基準	レポート30% 試験70%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに従い教科書、配布資料を読んできて下さい。30分程度。
教科書・参考書	教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔」 小島愛子ほか (医学書院)
オフィス・アワー	講義の前後10分程度。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	配布資料はしっかりと保管して下さい。

講義科目名称：リハビリテーション概論

授業コード：3N067

英文科目名称：Introduction to Rehabilitation Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
松澤 正			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションとは 定義、理念、歴史</p> <p>第2回 障害論と障害者心理 障害とは、障害のレベル、障害者の実態、障害受容</p> <p>第3回 リハビリテーションの構成 医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション</p> <p>第4回 チーム医療とリハビリテーションの進め方 リハビリテーション医療の職種、リハビリテーション医療の進め方</p> <p>第5回 地域リハビリテーションとは 定義、歴史、地域リハビリテーションの施設</p> <p>第6回 リハビリテーションにおける評価学 評価とは、情報収集の方法、評価の種類</p> <p>第7回 リハビリテーションにおける治療学 治療手段、理学療法、作業療法、補装具療法</p> <p>第8回 社会的リハビリテーションとは 定義、歴史、社会保障、社会保険、社会福祉</p>
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置付けや役割を理解させる。【知識・理解】
到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	試験100%（レポートを課す場合もある）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 1コマあたりの準備学習時間の目安：4時間
教科書・参考書	教科書：使用しない（プリント教材を資料する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 参考書2：「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	授業のはじめの30分程度講義を行い、残りの時間は講義で取り上げた内容についてワーク（個別・グループ）を行う。		
授業計画	第1回	自分を知る 対人援助職において、相手の価値観を知り、その人について理解を深めることは、被援助者との間に望ましい人間関係を築いていく上で実りの多いことである。しかし、相手の価値観を知る前に、まずは自分の価値観を意識化しておく必要がある。本講義では、SCT（文章完成法を行い、「自分とは何か」という問いに対する答えを考える。 key words：自己理解、SCT	
	第2回	心理療法（1） 「心の天気」 私たちは、いろいろなことを感じて、それを誰かに聞いてもらいたかったり、表現したかったりする。しかし、なかなか上手く言えなかったり、聞いてもらえなかったりするので、表現することをあきらめてしまうことがよくある。そうすると、しまいには、自分が何を感じているのか自分でもわからなくなってしまい、落ち着きがなくなったり、わけもなく不安になったりする。本講義では、「このころの天気」というワークを通じ、このころを天気に例えてみることで、今の自分の感じをわかりやすく表現し、今の自分のこのころはどのような状態なのかきちんと把握する体験をする。 key words：このころの天気、からだの感じ調べ	
	第3回	心理療法（2） 「自立訓練法」 私たちのこのころと体は密接な関係があり、不安やストレスが原因で体に症状が出ることもある。逆に、体の緊張を解きほぐすことでこのころが穏やかになり、リラックスできるとも考えられる。本講義では「不安階層表」を作成することにより自分が不安になる場面を想起し、一時的に不安状態になったところで自己催眠法である「自律訓練法」を実施し、不安を緩和する体験をする。 key words：不安階層表、自立訓練法、基本公式、第一公式、第二公式	
	第4回	心理療法（3） 「LAC法」（1） 大学入学後、本業である学業に対して無気力となり、サークル活動やアルバイト、余暇活動などに没頭するということは、誰でも経験し得ることである。そのような時は、自分の人生・生活全体を詳しく丁寧に分析して振り返り、自発的に自分の人生（生活）の目的（やりたいこと・やるべきこと）を設定して、意欲的に目的の達成に取り組んでいくことが必要である。本講義では、そのような取り組みを支援する方法である生活分析的カウンセリング(life analytic counseling)について、事例を通して実施方法や臨床への活用方法について学ぶ。 key words：生活分析的カウンセリング、スチューデント・アパシー	
	第5回	心理療法（4） 「LAC法」（2） 前回の講義で学んだLAC法を体験する。 key words：生活分析的カウンセリング、必要性、可能性、平均	
	第6回	心理療法（5） 「ストレスマネジメント」 対人援助職が他者に対して支援を行う際、まずは自らの心身の健康を保つことが求められる。同じ体験をしても、ストレスを強く感じる人と、それほど感じない人がいるが、その一因としてストレスへの対処法の得手・不得手が挙げられる。本講義では、質問紙への回答を通して、ストレスを引き起こす原因である「ストレッサー」が自分の身の回りにどれくらいあるかを把握し、ストレスマネジメントのワークを通してストレッサーによって「ストレス反応」が生じさせられることを防ぐための対処法を体験する。 key words：ストレッサー、ストレス反応、ストレスコーピング	
	第7回	心理療法（6） 「解決志向ブリーフセラピー」 カウンセリングや心理療法において、クライアントの問題が解消するまでにかかる時間はクライアントによってまちまちであり、中には何年もの時間を要するケースもある。ブリーフセラピーとは、クライアントとカウンセラーができるだけ協力して、効率的な問題解決を目指す心理療法である。本講義ではそのエッセンスを活用した「解決志向ブリーフセラピー」を体験し、日常生活で抱えている問題の解決の糸口を見つけ出すことを目指す。 key words：ブリーフセラピー、スケールリングクエスチョン、コーピングクエスチョン、エクセプショナルクエスチョン、ミラクルクエスチョン	
	第8回	心理療法（7） 「タッピングタッチ」 タッピングタッチとは、指先の腹のところを使って、左右交互に、軽く弾ませるようにタッチすることを基本としたホリスティック（統合的）でシンプルなケアの手法である。本講義ではペアワークを通してタッピングタッチを体験し、その手法を習得する。 key words：タッピングタッチ、トラウマケア	
	第9回	心理療法（8） 「フォーカシング」（1） フォーカシングとは、やさしい、許容的な態度で自分のからだに注意を向け、「フェルト・センス」と呼ばれる微妙な水準の認識に気づくようになるプロセスのことである。本講義から3回に渡って、フォーカシングの基本的技法を練習する。本講義では、フェルト・センスを感じるための練習を行う。 key words：フォーカシング、フェルト・センス、からだの感じ調べ	
	第10回	心理療法（9） 「フォーカシング」（2） 前回に続いて、フォーカシングの技法を練習する。本講義では、からだの内側で感じている感じにぴったりの言葉やイメージ、あるいは音やジェスチャーである「取っ手」を手に入れる練習や、その感じと一緒にいる練習を行う。	

	<p>key words : フォーカシング, 「取っ手」  第11回 心理療法 (10) 「フォーカシング」 (3)  フォーカシングの練習の最終講義。  私たちは、何か心配なことや気がかりなことがあると、それが頭から離れず、本来やるべきことに手が付けられないということがある。本講義では、自分の内面にある気がかりや問題を挙げていき、思い浮かんだものから適当な心理的距離をとる方法である「クリアリング ア スペース (clearing a space : CAS) の練習を行う。  key words : フォーカシング, クリアリング ア スペース</p> <p>第12回 心理療法 (11) 「行動療法」  行動療法では、クライアント(または保護者等)とカウンセラーが共同して行動面での治療目標を立て、さまざまな技法を用いて不適切な反応を修正する。たとえば、楽しい雰囲気の中で、スモールステップで、徐々に恐怖対象に近づき、慣れるようにさせたり、賞賛やごほうび等を用いて、新しく適切な反応(感情や行動)を習得させる。本講義では、スモールステップの目標設定の練習を行う。  key words : 行動療法, スモールステップ, 強化, 強化子</p> <p>第13回 心理療法 (12) 「認知行動療法」  「無くて七癖」ということわざがあるように、誰にでも“クセ”というものがあるが、実は、ものの考え方にも“クセ”がある。認知行動療法とは、自分の考え方のクセ(自動思考)に気が付き、その誤りや偏りを適切な方向に修正していくという心理療法である。本講義では、自らの自動思考に気が付き、適切な考え方を探る練習を行う。  key words : 認知行動療法, 自動思考</p> <p>第14回 臨床心理アセスメント (1) 質問紙法  質問紙法は、印刷された質問文、またはウェブサイト上の質問文に対して、いくつかの選択肢からあてはまるものを回答する臨床心理アセスメントのための道具である。本講義では、POMS2日本語版を体験し、自分のおかれた条件の下で変化する一時的な気分・感情を測定する。  key words : 質問紙法, POMS2</p> <p>第15回 臨床心理アセスメント (2) 描画法  様々な対象を指定して画用紙に絵を描かせる心理検査を「描画法」と総称している。画用紙という環境にいかにか自己表現するかによって、被検査者のパーソナリティの構造や動き具合を測定しようとする検査である。本講義では風景構成法を体験し、その理論や臨床への適応について学ぶ。  key words : 描画法, 空間象徴, 風景構成法</p>
<p>科目の目的</p>	<p>私たちは、様々な悩みや問題を抱えながら生きている。カウンセリングでは、人がこうした悩みや問題に自分らしく向き合っていくプロセスに寄り添い、その方のこころを聴かせていただく。  本講義では、「カウンセリングとは何か」を深く理解できるよう、カウンセリングの実践における理論と技法を学ぶ。また、さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</p> <p>ディプロマポリシー : 【知識・理解】</p>
<p>到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 傾聴について理解を深め態度を習得する。</li> <li>2. 自分自身のこころに向き合っていくようになる。</li> <li>3. 精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。</li> <li>4. 病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師・助産師・養護教諭として必要な援助的態度を身につける。</li> </ol>
<p>関連科目</p>	<p>【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 教育心理学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 社会学, 生活文化と医療, 大学の学び入門, 大学の学び-専門への誘い-, 多職種理解と連携  【専門基礎科目群】生理学 I・II, 発達心理学, 臨床心理学 (履修しておくことが望ましい), 公衆衛生学, 保健統計  【専門科目群】全科目</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>定期試験(レポート形式・80%)に毎回の受講後に作成する小レポートの評価(20%)を加味して評価する。小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う。</p>
<p>準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>【教科書】  なし(必要に応じて資料を配布)</p> <p>【参考書】  山祐嗣・山口素子・小林知博編著(2009)「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房  ※ 必修科目「心理学」の教科書</p> <p>下山晴彦編著(2009)「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房  ※ 必修科目「臨床心理学」の教科書</p>
<p>オフィス・アワー</p>	<p>月・水・木・金の昼休み(1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室)</p>
<p>国家試験出題基準</p>	<p>なし</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<p>講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
上星 浩子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・看護とは（1） 看護の定義と役割を学ぶ。看護の特徴と社会的責任について学ぶ。</p> <p>第2回 看護とは（2） 看護の主要概念である人間、健康、環境について学ぶ。</p> <p>第3回 看護の対象 看護の対象の捉え方、ライフサイクルと健康について学ぶ。</p> <p>第4回 看護とは（3） 看護の歴史と変遷について学ぶ。 ナイチンゲールの「看護覚え書き」をもとに、看護の機能や役割を考察する。（課題レポート）</p> <p>第5回 看護とは（4） 専門職としての看護および看護教育制度や看護組織について学ぶ。</p> <p>第6回 看護職を取り巻く法的側面 看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規について学ぶ。</p> <p>第7回 療養生活を支える仕組み（1） 保健医療福祉システムとチーム医療、看護体制について学ぶ。</p> <p>第8回 療養生活を支える仕組み（2） 入院患者の特徴を踏まえ、看護サービス提供の場と療養環境について学ぶ。</p>
科目の目的	看護の歴史の変遷を踏まえ、看護学の主要概念である人間・健康・環境・看護について学ぶことにより、看護とは何かを多角的な視点から考察し、看護学への関心を深める。また看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについて考察を行う。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史と変遷について理解できる。</li> <li>2. 看護の主要概念（健康・環境・人間・看護）について説明できる。</li> <li>3. 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割・機能について説明できる。</li> <li>4. 多角的な学習を通し、看護とは何かについて自己の考えを表現できる。</li> </ol>
関連科目	看護学概論Ⅱ、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる
成績評価方法・基準	筆記試験（60％）、課題レポート（40％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと。 ナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を読むこと。 1コマあたり約120分の事前学習と復習が必要。
教科書・参考書	教科書1:『看護覚え書き』フローレンス・ナイチンゲール著（日本看護協会出版会） 教科書2:『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 参考書:特になし
オフィス・アワー	月曜・木曜日：12：10～12：50(上星研究室)
国家試験出題基準	≪必修問題≫- I-4-C、5-A,B、II-6-A,B、9-A-a～e、B-b ≪健康支援と社会保障制度≫- IV-12-A、B-a、b、C-a～d、h ≪基礎看護学≫- I-1-A～D、2-A,B、III-6-A-b、c、B-a～c
履修条件・履修上の注意	予習、復習し、主体的に授業に臨むこと。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
上星 浩子			
堀込 由紀			

授業形態	講義（6回）・演習（2回）
授業計画	<p>第1回 看護活動の実際（上星） 基礎看護学実習Ⅰの体験から、医療のシステム、役割および看護活動の実際について考察する。療養生活を支える看護活動として、環境整備について学ぶ。</p> <p>第2回 看護理論（1）（上星） 看護理論とは何か、看護理論の分類と変遷について学ぶ。</p> <p>第3回 看護理論（2）（上星） 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について学ぶ。（グループワーク）</p> <p>第4回 看護理論（3）（上星） 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について発表・討論する。（レポート課題）</p> <p>第5回 看護職を取り巻く倫理的側面（1）（上星） 看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性について学ぶ。</p> <p>第6回 看護職を取り巻く倫理的側面（2）（上星） 医療現場における道徳的ジレンマ、看護における倫理的意思決定について学ぶ。（レポート課題）</p> <p>第7回 看護職を取り巻く法的側面（堀込） 医療安全の観点から医療事故における法的責任について学ぶ。</p> <p>第8回 国際看護・災害看護（堀込） 国際看護及び災害看護の基礎知識について理解し、看護の役割や活動について学ぶ。</p>
科目の目的	看護学概論Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅰの学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、法律・制度の変化、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。看護の見方・考え方の基盤として看護理論について学習し、看護学の特徴や看護実践への活用方法を理解する。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護理論家の理論を構成する主要概念や特長について理解できる。</li> <li>2. 看護の倫理原則及び倫理的概念について理解できる。</li> <li>3. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面から社会における看護の役割について理解できる。</li> </ol>
関連科目	看護学概論Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰを踏まえており、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる。
成績評価方法・基準	筆記試験（50％）課題レポート（50％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと 1コマあたり約120分の事前学習と復習が必要。
教科書・参考書	教科書1：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 参考書：特になし
オフィス・アワー	上星浩子：月曜・木曜日：12：10～12：50（上星研究室） 堀込由紀：授業の前後の時間
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅰ-4-A-C、Ⅱ-6-A,B ≪健康支援と社会保障制度≫-C-i ≪基礎看護学≫-Ⅰ-1-A～D、Ⅱ-3-D,I、3-F-a、4-A-a、b、Ⅲ-6-A-b,c、B-a～c
履修条件・履修上の注意	予習・復習し、主体的に授業に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
青柳 直樹			
上星 浩子	佐藤 晶子	堀込 由紀	萩原 一美

授業形態	講義（9回）・演習（6回）
授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス、看護援助・看護技術とは（講義） ・科目の目的・評価方法および実習室の使用方法等について理解する。 ・看護援助・看護技術の定義や構成されている要素について学ぶ。</p> <p>第2回 コミュニケーション（1）（講義） ・コミュニケーションの構成要素について理解する。 ・看護におけるより良い支援につながるコミュニケーション技術について学ぶ。</p> <p>第3回 コミュニケーション（2）（講義・グループワーク） ・援助的人間関係の形成の必要性について理解する。 ・コミュニケーションにおける自己の傾向を理解し、効果的なコミュニケーションのとり方について検討する。</p> <p>第4回 感染予防（1）（講義） ・医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。 ・感染症を成立させる要素と成立過程を学ぶ。</p> <p>第5回 感染予防（2）（講義） ・感染予防のためのプロセスについて学ぶ。 ・感染予防のための具体的な援助方法について学ぶ。 ・スタンダードプリコーションの考え方について理解する。</p> <p>第6回 感染予防技術（演習）（上星浩子・佐藤晶子・堀込由紀・萩原一美） ・看護援助の基本となる衛生学的手洗い方法、擦式アルコール製剤の消毒方法を習得する。 ・個人防護具（Personal protective equipment:PPE）の使用方法を習得する。</p> <p>第7回 ボディメカニクス・安楽な体位（講義） ・安全・安楽かつ効果的な看護援助を提供するためのボディメカニクスの基本について学ぶ。 ・体位の種類と身体への影響について学ぶ。</p> <p>第8回 ボディメカニクス・安楽な体位（演習）（上星浩子・佐藤晶子・堀込由紀・萩原一美） ・ボディメカニクスの原理を体験する。 ・ボディメカニクスを活用し、体位変換の方法を習得する。</p> <p>第9回 療養環境（1）（講義） ・療養環境のアセスメントと病床の調整について学ぶ。 ・安全で快適な療養生活を支援するための環境調整技術（ベッドメイキング、シーツ交換、環境整備）をについて学ぶ。</p> <p>第10回 療養環境（演習）（上星浩子・佐藤晶子・堀込由紀・萩原一美） ・看護援助の基本となる環境整備を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。</p> <p>第11回 リネン類・病衣・寝衣のたたみ方（演習）（上星浩子・佐藤晶子・堀込由紀・萩原一美） ・リネン類のたたみ方を習得する。 ・病衣・寝衣のたたみ方を習得する。</p> <p>第12回 ベッドメイキング・シーツ交換（演習）（上星浩子・佐藤晶子・堀込由紀・萩原一美） ・ベッドメイキングの方法を習得する。 ・シーツ交換の方法を習得する。</p> <p>第13回 臥床患者のシーツ交換（演習）（上星浩子・佐藤晶子・堀込由紀・萩原一美） ・臥床患者のシーツ交換の方法を習得する。</p> <p>第14回 療養環境（2）（講義） ・看護が提供される多様な場と生活の場の特性を学ぶ。 ・療養環境を構成する物理的・人的・社会的環境について学ぶ。</p> <p>第15回 安全・安楽を守るための技術（講義） ・安全・安楽を脅かす要因と保障するための方策について学ぶ。 ・日常的におこる可能性がある医療上の事故・インシデント（誤薬、転倒・転落、院内感染、針刺し事故）等やリスクについて理解し、安全・安楽な看護技術について学ぶ。</p>
科目の目的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するための日常生活援助技術の根拠を理解する。【知識・理解】 【技能・表現】 【態度】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者との援助的人間関係を構築するための理論と方法を学習する。</li> <li>2. 対象者の安全と安楽の確保のために必要な日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。</li> <li>3. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。</li> <li>4. 日常生活援助を受ける対象者の心理を理解し、必要となる知識、姿勢、態度について学習する。</li> </ol>
関連科目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、日常生活援助学演習、治療援助学演習、看護援助学総合演習
成績評価方法・基準	筆記試験（70%）演習レポート（30%）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。</p> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】 1コマ当たり、30分の予習と90分の復習。</p>
教科書・参考書	<p>教科書1：「ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子他編（メディカ出版） 教科書2：「看護技術がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所編（メディックメディア） 教科書3：「看護技術がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所編（メディックメディア）</p>
オフィス・アワー	<p>青柳：月曜～木曜日17:00～18:00 演習担当教員（上星浩子、佐藤晶子、堀込由紀、萩原一美）：演習授業の前後とする。</p>
国家試験出題基準	<p>《必修問題》- I-2-B-a, c, I-2-A-d, e 《必修問題》- II-9-A-a, b, c, d, e, f, j 《必修問題》-IV-13-A-a, b, c, IV-14-A-a, b, c, IV-14-C-a, b, c, d, e, IV-15-B-a, b, c, d, e, IV-15-C-a, b, c, d, e, f 《健康支援と社会保障制度》-III-8-A-a, b, c, d, e, f, III-8-B-a, b, c, d, e 《基礎看護学》- I-2-A-a, b, c 《基礎看護学》- II-3-A-a, b, c, II-3-F-a, b, c, d, e, f, II-3-G-a, b, c, d, e, II-3-H-a, b, c, d, e, II-4-A-a, b, c, II-4-E-a, b, c, d</p>
履修条件・履修上の 注意	<p>演習は実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
佐藤 晶子			
上星 浩子	堀込 由紀	青柳 直樹	萩原 一美

授業形態	講義(11回)、演習(19回)		
授業計画	第1・2回	活動と運動、休息と睡眠／講義 活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。 対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。 休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。 対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。 (佐藤)	
	第3・4回	体位変換、移動・移乗、安楽な体位／演習 様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換の方法を習得する。 床上移動、ベッドからの車椅子・移送車への移動方法を習得する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第5・6回	フィジカルアセスメント(一般状態)、バイタルサイン測定／講義 フィジカルアセスメントの基本的視点と生命徴候(バイタルサイン)を含む一般状態をアセスメントする方法を習得する。 報告の方法を習得する。 看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。 (佐藤)	
	第7・8回	バイタルサイン測定／演習 生命徴候(バイタルサイン)を正確に測定する方法を習得する。 測定した生命徴候(バイタルサイン)をアセスメントし、報告する方法を習得する。 看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション技術を体現する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第9回	体温調節、褥瘡／講義 体温調節の生理学的メカニズムを学ぶ。 寒冷・温熱刺激が生体に及ぼす影響(生理的反応)を学ぶ。 患者の安全・安楽をふまえた効果的・効率的な褥瘡の援助方法を習得する。 (佐藤)	
	第10回	褥瘡／演習 褥瘡(温褥瘡・冷褥瘡)の援助方法を習得する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第11・12回	清潔保持と衣生活／講義 清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。 対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法(清拭、部分浴、陰部洗浄、洗髪、口腔ケア、寝衣交換)を習得する。 (佐藤)	
	第13・14回	寝衣交換、部分浴／演習 寝衣交換、足浴の援助方法を習得する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第15・16回	全身清拭／演習 全身清拭の援助方法を習得する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第17・18回	洗髪／演習 洗髪の援助方法を習得する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第19・20回	全身清拭と寝衣交換の復習／演習 全身清拭と寝衣交換の援助方法を習得する。 (佐藤)【提出課題あり】	
	第21・22回	食生活と栄養／講義 食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。 対象者のニーズについて学び、ニーズに合った援助方法(食事介助・経管栄養法)を習得する。 (青柳)	
	第23・24回	食事介助、口腔ケア／演習 食事の援助方法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。 (青柳)【提出課題あり】	
	第25・26回	排泄／講義 排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。 対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズに合った援助方法を習得する。 (青柳)	
	第27・28回	床上排泄、陰部洗浄／演習 床上排泄(便器・尿器、おむつ)およびポータブルトイレでの援助方法を習得する。 陰部洗浄の援助方法を習得する。 (青柳)【提出課題あり】	

	第29・30回 まとめ／演習 日常生活援助技術の実践を通して知識の整理と臨床での応用を考える。 (佐藤)
科目の目的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。 対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を修得する。 【技能・表現】
到達目標	1. 対象者と良好な援助関係を構築するための理論と方法を説明できる。 2. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関連科目	教養科目 : 心理学、環境学 専門基礎科目 : 解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、薬理学、病理学、生化学、栄養学(含食品学) 専門科目 : 看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学概論、看護過程論
成績評価方法・基準	筆記試験(50%)、実技試験(40%)、提出課題(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	【準備学習の内容】 講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと。 演習内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、演習内容を把握して授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 講義 : 1コマあたり、30分の予習と90分の復習。 演習 : 2コマあたり、30分の予習と90分の復習。
教科書・参考書	教科書1 : 「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③－基礎看護技術」志自岐康子他編 (メディカ出版) 教科書2 : 「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②－ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編 (メディカ出版) 教科書3 : 「看護技術がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所監修 (メディックメディア) 教科書4 : 「フィジカルアセスメントがみえる」医療情報科学研究所監修 (メディックメディア)
オフィス・アワー	【佐藤】 授業の前後および水曜12:10～12:50(佐藤研究室) 【上星】 担当授業の前後(上星研究室) 【堀込】 担当授業の前後(堀込研究室) 【青柳】 担当授業の前後(青柳研究室) 【萩原】 担当授業の前後(萩原研究室)
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-Ⅰ-2-A-a, b, c, d, e 《必修問題》-Ⅳ-13-C-a, b 《必修問題》-Ⅳ-14-A, D 《必修問題》-Ⅳ-14-B-a, d 《必修問題》-Ⅳ-14-C-a, b, c 《必修問題》-Ⅳ-16-A-a 《必修問題》-Ⅳ-16-E 《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅲ-4-A-a 《基礎看護学》-Ⅱ-3-E-a, b, c, d 《基礎看護学》-Ⅱ-3-H-c, d 《基礎看護学》-Ⅱ-4-B-a, b, c, d, e, f, g, h 《基礎看護学》-Ⅱ-4-C-a, b, c, d, e, f, g 《基礎看護学》-Ⅱ-4-D, E, F 《基礎看護学》-Ⅱ-5-A-a, g
履修条件・履修上の注意	演習時は、実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。 提出課題を放課後に取り組み、期日までに提出すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
堀込 由紀			
上星 浩子	佐藤 晶子	青柳 直樹	萩原 一美

授業形態	講義(14回)・演習(16回)		
授業計画	第1・2回	フィジカルアセスメント ①呼吸②循環器③消化器(講義) 呼吸・循環器・消化器系のフィジカルアセスメントの目的・手順について学ぶ。【堀込】	
	第3・4回	フィジカルアセスメント ①呼吸②循環器/消化器(演習) 呼吸器系及び循環器・消化器系のフィジカルアセスメントの手順について学ぶ。【堀込】	
	第5・6回	フィジカルアセスメント ③筋骨格系④神経系⑤頭頸部・脳神経系(講義) 筋骨格系及び神経系⑤頭頸部・脳神経系のフィジカルアセスメントの目的・手順について学ぶ。【堀込】	
	第7・8回	フィジカルアセスメント③筋骨格系④神経系 ⑤頭頸部・脳神経系(演習) 筋骨格系及び神経系⑤頭頸部・脳神経系のフィジカルアセスメントの手順について学ぶ。【堀込】	
	第9・10回	検査時の看護 検体検査 ①尿・便・喀痰/②血液検査(講義) 生体検査①呼吸機能検査②心電図 検査における看護師の役割について学ぶ。 検査の分類と留意事項について学ぶ。 尿及び血液検査、呼吸機能検査の目的と概要及び看護のポイントについて学ぶ。【堀込】	
	第11・12回	検査時の看護 検体検査 ③静脈血採血(演習) 採血の手順と実際・留意点について学ぶ。【堀込】	
	第13・14回	呼吸管理：呼吸機能の評価、呼吸調整法(講義) 呼吸機能の評価方法と呼吸調整法の概要について学ぶ。 呼吸調整法(吸引(鼻口腔)、吸入、体位等)と看護のポイントについて学ぶ。【堀込】	
	第15・16回	呼吸管理：呼吸調整法(演習) 呼吸調整法(吸引(鼻口腔)、酸素吸入)の手順と実際について学ぶ。【堀込】	
	第17・19回	まとめ(演習) これまでの知識・技術の復習を行う。フィジカルアセスメント及びバイタルサインの実技テストを実施する。【堀込】	
	第20回	与薬管理 ①薬剤の影響と取扱い方法(講義) 与薬に関する法律、安全管理、薬物動態、投与方法について学ぶ。 経口与薬の手順と根拠について学ぶ。【堀込】	
	第21回	与薬管理 ③筋肉内/皮下/皮内注射(講義) 筋肉内/皮下/皮内注射の手順と根拠について学ぶ。【佐藤】	
	第22・23回	与薬管理：③筋肉内/皮下注射(演習) 筋肉内/皮下/皮内注射の手順と実際について学ぶ。【佐藤】	
	第24回	与薬管理 ④静脈内注射 静脈内注射の手順と根拠・管理について学ぶ。(翼状針・留置針)【佐藤】	
	第25回	与薬管理 ⑤輸血 ⑥外用薬(講義) 輸血の分類と手順、根拠について学ぶ。 外用薬の種類、手順と根拠について学ぶ。【堀込】	
	第26・27回	与薬管理 ④静脈内注射(演習) 静脈内注射の手順と実際について学ぶ。(翼状針・留置針)【佐藤】	
	第28回	排泄に伴う治療援助技術 導尿・浣腸(講義) 排泄に関連した治療援助技術のついての手順と根拠について学ぶ。【堀込】	
	第29・30回	排泄に伴う治療援助技術 一時的導尿・膀胱留置カテーテル・浣腸(演習) 排泄に関連した治療援助技術のついての手順と実際について学ぶ。【堀込】	
科目の目的	対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解する。 【知識・理解】【技能・表現】		
到達目標	1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を説明することができる。 2. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメントの手順とその根拠を説明することができる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を推察し、必要な援助を考えることができる。		
関連科目	関連する教養科目－心理学、生命倫理、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、看護過程論 その他各看護学総論		
成績評価方法・基準	筆記試験(45%)、実技試験(45%)、提出課題(10%)		

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	講義内容に沿った教科書該当ページを熟読して講義に臨むこと。 演習内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、演習内容を把握してイメージトレーニングの上、授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 2コマ当たり30分の準備学習と30分の復習が必要。
教科書・参考書	教科書1：「ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子他編（メディカ出版） 教科書2：「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ーヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編（メディカ出版） 教科書3：「写真でわかる 看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス」守田美奈子監修（インターメディアカ） 教科書3：「看護技術がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所（メディックメディア） 教科書4：「看護技術がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所（メディックメディア）
オフィス・アワー	【堀込】 担当授業の前後(堀込研究室) 【上星】 担当授業の前後(上星研究室) 【佐藤】 担当授業の前後(佐藤研究室) 【青柳】 担当授業の前後(青柳研究室) 【萩原】 担当授業の前後(萩原研究室)
国家試験出題基準	《必修問題》IV-16-A-b, B, Ca, c, F-a, b, c, d, 《基礎看護学》II-3-E, G-a, b, d, e, 4-B-i 《基礎看護学》II-5-A-a, b, d, e, f, C, D, F-a, b, c
履修条件・履修上の注意	演習では、実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。 身だしなみを整えること。 事前に演習内容について把握し該当講義内容を復習して臨むこと。 提出課題に取り組み、提示された期日までに提出すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
堀込 由紀			
上星 浩子	佐藤 晶子	青柳 直樹	萩原 一美

授業形態	講義(4回)・演習(11回)
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 検体検査③穿刺検査 生体検査①画像検査②内視鏡検査(講義) 穿刺検査及び画像検査、内視鏡検査の概要を理解する。【堀込】</p> <p>第2回 創傷管理 感染予防技術(講義) 創傷管理の方法と根拠について理解する。 感染予防技術に関する基本的知識・技術を理解する。 【堀込】</p> <p>第3・4回 創傷管理 感染予防技術(演習) 創傷管理及び感染予防技術に関する技術を習得する。【堀込】</p> <p>第5・6回 看護過程振り返り 基礎看護学実習Ⅱにおける看護過程の振り返り(講義) 基礎看護学実習Ⅱにおける学び、看護過程展開の特徴を振り返る。 基礎看護学実習Ⅱで受け持った事例を振り返り、看護過程展開の妥当性を検討する。 【堀込】</p> <p>第7・8回 事例展開①② 看護過程の展開 援助計画立案(演習) 設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、看護援助学概論、日常生活援助学演習治療援助学演習で得た知識と技術を統合する。【堀込】</p> <p>第9回 事例展開③ GW:診療関連技術 復習(演習) 診療の補助技術を復習し、事例に必要な観察点及び援助を考える。【堀込】</p> <p>第10-13回 事例展開④⑤⑥ GW:援助計画の修正(演習) 日常生活援助計画の立案・修正を行う。ロールプレイング形式の発表の準備を行う。【堀込】</p> <p>第14・15回 ロールプレイング発表(演習) 事例に適した援助に関するロールプレイングを発表し、学習を深める。【堀込】</p>
科目の目的	設定された看護援助場面で、これまで学習してきた知識・技術を統合し、安全安楽を考慮した適切な援助を考え実践することができる。【知識・理解】 【技能・表現】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を説明することができる。</li> <li>2. 治療を受ける患者に対して適切な援助を実施することができる。</li> </ol>
関連科目	<p>関連する教養科目ー心理学、生命倫理、環境学</p> <p>関連する専門基礎科目ー解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学</p> <p>関連する専門科目ー看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、看護過程論 その他各看護学総論</p>
成績評価方法・基準	看護過程・援助計画 70% (GW発表15%) 筆記試験25% ワークシート5%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 演習内容にそった教科書の該当ページを熟読し、演習内容を把握してイメージトレーニングの上、授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。</p> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】 2コマ当たり30分の準備学習と30分の復習が必要。</p>
教科書・参考書	<p>教科書1: 「ナースング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版)</p> <p>教科書2: 「看護技術がみえるvol.1基礎看護技術」医療情報科学研究所(メディックメディア)</p> <p>教科書3: 「看護技術がみえるvol.2臨床看護技術」医療情報科学研究所(メディックメディア)</p>
オフィス・アワー	<p>【堀込】 担当授業の前後(堀込研究室)</p> <p>【上星】 担当授業の前後(上星研究室)</p> <p>【佐藤】 担当授業の前後(佐藤研究室)</p> <p>【青柳】 担当授業の前後(青柳研究室)</p> <p>【萩原】 担当授業の前後(萩原研究室)</p>
国家試験出題基準	<p>《必修問題》Ⅳ-16-A-b, B, C-a, c, d, D, F-a, b, c, d, e, f, g</p> <p>《基礎看護学》Ⅱ-3- G-a, b, d,</p> <p>《基礎看護学》Ⅱ-4-B-i</p> <p>《基礎看護学》Ⅱ-5-A-a, b, d, C-a, b, D-a, b, c</p>
履修条件・履修上の注意	<p>演習では、実習用ユニフォーム(ナースウェア、ナースシューズ、名札)を着用して臨むこと。 身だしなみを整えること。 事前に演習内容について把握し該当講義内容を復習して臨むこと。 提出課題に取り組み、提示された期日までに提出すること。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 晶子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 講義ガイダンス、看護過程の概要 看護の役割と機能について振り返り、看護実践の基礎となる看護過程の概念、看護上の問題を解決するための思考について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第2回 看護過程と看護理論 人間、健康、環境、看護の捉え方と看護過程と看護理論の関係について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第3回 ヘルスヒストリーと情報収集、アセスメント① ヘルスヒストリーの意義と構成要素について学ぶ。 情報収集と情報収集の枠組みについて学ぶ。 ゴードンの機能的健康パターンに基づいた情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ(前半)。 (佐藤)</p> <p>第4回 アセスメント②、情報の整理と解釈 ゴードンの機能的健康パターンに基づいた情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ(後半)。 得られた情報の整理・解釈する方法について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第5回 看護診断 看護診断の定義、構成要素、診断名の種類、表記方法、看護診断の優先順位の考え方について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第6回 関連図、問題リスト 収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第7回 看護計画、評価 計画立案における目標の条件、長期目標・短期目標、看護診断から援助方法(目標設定・計画立案)を導き出す。 立案した看護計画の評価について、評価基準、評価の時期、評価の方法について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第8回 看護記録 看護の実施についてPOS方式などによる看護記録の書き方を学ぶ。 (佐藤)</p>
科目の目的	<p>看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは対象者のニーズに応じた看護援助を意図的・科学的に行っていくための問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習する。 また、理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を学習する。 【思考・判断】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義が説明できる。</li> <li>2. 看護過程と看護理論の関係について考えることができる。</li> <li>3. ゴードンの機能的健康パターンに沿った情報収集と1次アセスメントの方法を説明できる。</li> <li>4. 情報を整理し、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)の方法を説明できる。</li> <li>5. アセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位を設定する方法を説明できる。</li> <li>6. 患者目標を設定し、個別性のある看護計画を立案する方法を説明できる。</li> <li>7. 看護計画の評価・修正する方法を説明できる。</li> </ol>
関連科目	<p>専門基礎科目：解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生化学、病理学、薬理学、栄養学(含食品学) 専門科目：看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、成人看護学概論</p>
成績評価方法・基準	筆記試験(90%)、ミニツツペーパーの提出状況(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、主体的に授業に臨むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 1コマあたり90分の予習と30分の復習</p>
教科書・参考書	<p>教科書1：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」江川隆子編(ヌーヴェルヒロカワ) 教科書2：「看護診断ハンドブック」Carpenito-Moyet, L. J. 著、新藤幸恵監訳(医学書院)</p>
オフィス・アワー	授業の前後および水曜12:10～12:50(佐藤研究室)
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫-IV-13-B ≪基礎看護学≫-I-2-B ≪基礎看護学≫-II-3-C</p>
履修条件・履修上の注意	各回で提示される事前課題を放課後に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 晶子			
上星浩子	堀込由紀	青柳直樹	萩原一美

授業形態	講義(8回)、演習(7回)
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、看護過程と看護理論／講義 人間、健康、環境、看護の捉え方、看護過程と看護理論の関係について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第2回 事例紹介(紙上患者A氏)、情報収集、医学情報の整理／講義 紙上患者(A氏)の情報収集と医学情報の整理をする。 (佐藤)</p> <p>第3-4回 アセスメント／講義 紙上患者(A氏)のアセスメントについて学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第5回 関連図、問題リスト／講義 紙上患者(A氏)のの全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。 紙上患者(A氏)の看護診断の優先順位の考え方について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第6回 看護診断／講義 紙上患者(A氏)の看護診断について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第7回 看護計画立案／講義 紙上患者(A氏)の看護診断の計画立案(目標設定・実施計画)について学ぶ。 紙上患者(A氏)の看護援助計画の記載方法について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第8回 評価、経過記録、カンファレンス、事例紹介(B氏)／講義 紙上患者(A氏)の看護計画の評価について学ぶ。 看護の実施についてPOS方式等による看護記録の書き方を学ぶ。 効果的なカンファレンスの方法について学ぶ。 (佐藤)</p> <p>第9-12回 事例展開／演習 紙上患者(B氏)の看護過程を個人ワークにて展開し、情報からアセスメント、看護診断を導く。 個人ワークにて抽出した看護診断をグループワークにて検討し、期待される結果と計画の立案をする。 (佐藤、萩原、青柳、堀込、上星)</p> <p>第13-14回 プレゼンテーション／演習 紙上患者(B氏)の看護診断、期待される結果、計画について発表し、個別性のある看護過程展開の共有化・明確化を図る。 (佐藤、萩原、青柳、堀込、上星)</p> <p>第15回 まとめ／演習 看護過程展開における知識を確認し、基礎看護学実習Ⅱに向けて自己の課題を明確にする。 (佐藤)【提出課題あり】</p>
科目の目的	<p>看護過程は、看護を実践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは講義・演習を繰り返しながら科学的思考、問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習し、対象者のニーズに応じた看護援助を意図的、科学的に行っていく技術を修得する。 また理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を修得する。 【思考・判断】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程と看護理論の関係について考えることができる。</li> <li>2. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)ができる。</li> <li>3. 紙上事例のアセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位が設定できる。</li> <li>4. 紙上事例の患者目標を設定し、個別性のある看護計画が立案できる。</li> <li>5. 看護計画の評価・修正ができる。</li> <li>6. 効果的なカンファレンスができる。</li> </ol>
関連科目	<p>専門基礎科目群：解剖学、生理学、生化学、病理学、臨床病態学、免疫・感染症学、薬理学、臨床検査学、栄養学(含食品学)、発達心理学、臨床心理学、歯科保健、リハビリテーション概論 専門科目群：看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学概論、日常生活援助学演習、治療援助学演習、看護過程論、成人看護学概論</p>
成績評価方法・基準	提出課題(90%)、ミニッツペーパーの提出状況(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、各回で提示される事前課題(予習)に取り組んで主体的に授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 1コマあたり45分の予習と15分の復習</p>
教科書・参考書	教科書1：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」江川隆子編(ヌーヴェルヒロカワ)

	教科書2：「看護診断ハンドブック」Carpenito-Moyet, L. J. 著、新道幸恵監訳(医学書院) 参考書：必要に応じて随時紹介する。
オフィス・アワー	【佐藤】 授業の前後および水曜12：10～12：50(佐藤晶子研究室) 【上星】 授業の前後(上星研究室) 【堀込】 授業の前後(堀込研究室) 【青柳】 授業の前後(青柳研究室) 【萩原】 授業の前後(萩原一美研究室)
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-IV-13-B ≪基礎看護学≫-I-2-B ≪基礎看護学≫-II-3-C
履修条件・履修上の注意	各回で提示される事前課題および提出課題を放課後に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

講義科目名称：基礎看護学特論

授業コード：3N077

英文科目名称：Advanced Fundamental Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
上星 浩子			
堀込 由紀			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
金子 吉美			

授業形態	講義(8回)
授業計画	<p>第1回 成人看護の対象 (萩原英子) 成人看護の対象となる人について、身体的・心理的・社会的側面から理解する。</p> <p>第2回 成人各期の特徴と保健問題 (萩原英子) 成人各期(青年期、壮年期・中年期、向老期)における発達課題と社会的特徴について理解する。</p> <p>第3回 成人保健の動向と対策 (萩原英子) 成人における健康問題の特徴および成人の健康を守る保健・医療・福祉システムの概要と動向について理解する。</p> <p>第4回 健康をおびやかす要因と看護 (金子吉美) 生活行動がもたらす健康問題とその予防を理解する。</p> <p>第5回 成人への看護アプローチの基本 (金子吉美) チームアプローチにおける看護師の役割、看護実践における倫理的判断、意志決定支援、家族支援について理解する。</p> <p>第6回 成人の健康障害と看護1 (萩原英子) がんとともに生活する人の講義を受けて、医療場面における倫理的判断や意志決定のプロセス、家族支援の実際を知る。 &lt;guest speaker&gt;</p> <p>第7回 成人の健康障害と看護2 (萩原英子) 運動機能障害を持ちながら生活する人の講義を受けて、チームアプローチや家族支援、社会復帰のプロセスの実際を知る。 &lt;guest speaker&gt;</p> <p>第8回 成人の健康障害と看護3 (萩原英子) 難病とともに生活する人の講義を受けて、意志決定のプロセスや家族支援の実際を知る。 &lt;guest speaker&gt;</p>
科目の目的	成人看護の対象である成人期にある人々の特徴と健康問題を理解し、健康保持・増進および健康障害を持った人々への看護のあり方を理解する。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題について説明できる。</li> <li>2. 成人保健の動向と保健・医療・福祉システムについて説明できる。</li> <li>3. 成人期にある人々への基本的な看護アプローチの方法を説明できる。</li> <li>4. 健康障害を持ちながら生活する成人に対する看護アプローチのあり方を考えることができる。</li> </ol>
関連科目	履修した専門基礎科目、基礎看護学
成績評価方法・基準	筆記試験(90%)、レポート(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は60分である。 準備学習として、教科書の該当ページを精読した上で講義に参加すること。 また、講義終了後(ゲストスピーカーの講義以外)は、復習として、教科書や配付した資料などを読み、理解できたか確認すること。
教科書・参考書	<p>教科書 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①」医学書院</p> <p>参考書 「国民衛生の動向 厚生指標 2017/2018年版」厚生労働省 その他、随時紹介する。</p>
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10~13:00 金子吉美(研究日307)：講義開講日の12:10~13:00 ゲストスピーカー：講義終了後の20分間
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修問題》</p> <p>Ⅱ-7-F</p> <p>《疾病の成り立ちと回復の促進》</p> <p>I-1-A, I-2-A, B</p> <p>《成人看護学》</p> <p>I-1, 2</p>
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止する。 ゲストスピーカーの方に対しての礼節を忘れずに講義に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
堀越 政孝			

授業形態	講義(8回)
授業計画	<p>第1回 成人看護学とは/ヘルスプロモーションと看護 (萩原) 成人の特徴を復習し、成人のヘルスプロモーションと看護について学ぶ。</p> <p>第2回 急性期にある人の特徴と看護 (萩原) 急激な健康破綻に陥った人とその家族の特徴について学ぶ。</p> <p>第3回 危機にある人々への支援 (萩原) 急激な健康破綻に陥った人の看護支援について、理論を手掛かりに考える。</p> <p>第4回 慢性期にある人の特徴と看護 (堀越) 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者とその家族の特徴について学ぶ。</p> <p>第5回 慢性病との共存を支える支援 (堀越) 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の看護支援について、理論を手掛かりに考える。</p> <p>第6回 リハビリテーション期にある人の特徴と看護 (萩原) 障がいを持ちながら生活する人の特徴とその看護支援について学ぶ。</p> <p>第7回 終末期にある人の特徴と看護 (堀越) 終末期にある人の特徴とその看護支援について学ぶ。</p> <p>第8回 退院支援・退院調整 (堀越) 退院支援・退院調整の必要性和具体的な支援方法について学ぶ。</p>
科目の目的	様々な健康レベルにある成人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康レベルに応じた看護支援のあり方を考察する。 (ディプロマ・ポリシーとの関連：【知識・理解】)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な健康レベルにある成人の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。</li> <li>2. 様々な健康レベルにある成人に対する特徴的な看護支援について説明できる。</li> <li>3. 理論を通して、様々な健康レベルにある成人をアセスメントし、必要な看護支援について具体的に述べることができる。</li> </ol>
関連科目	基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学概論、成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学特論、成人看護学慢性期実習、成人看護学急性期実習
成績評価方法・基準	筆記試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は30～60分である。また、各講義・演習終了後には、配布された資料を見ながら、しっかり理解できたか確認すること。
教科書・参考書	<p>教科書： 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①」 医学書院</p> <p>参考書： 講義内で随時、紹介する</p>
オフィス・アワー	<p>萩原英子(研究室306)：講義開講日の12：10～13：00</p> <p>堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12：10～13：00</p>
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《成人看護学》</p> <p>Ⅱ - 3 - A, B, C、Ⅲ - 6 - A, B、Ⅳ - 7 - A, B, C, D, E、Ⅵ - 9 - B, C</p>
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業(他の科目の学習等)は禁止する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
堀越 政孝			
萩原 英子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 がん看護総論（萩原英子） がんと共に生きる患者とその家族の特徴と看護の役割について学ぶ。</p> <p>第2回 がん患者の看護1（萩原英子） 化学療法を受けるがん患者の看護を学ぶ。</p> <p>第3回 がん患者の看護2（堀越政孝） 放射線療法を受けるがん患者の看護を学ぶ。</p> <p>第4回 がん患者の看護3（堀越政孝） 緩和ケアを受けるがん患者の看護を学ぶ。</p> <p>第5回 血液・造血器疾患患者の看護1（萩原英子） 主要症状（貧血・白血球減少・血小板減少）を有する患者の看護について学ぶ。</p> <p>第6回 血液・造血器疾患患者の看護2（萩原英子） 白血病・造血幹細胞移植患者の看護について学ぶ。</p> <p>第7回 血液・造血器疾患患者の看護3（萩原英子） 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫患者の看護について学ぶ。</p> <p>第8回 中間試験／内分泌代謝疾患患者の看護1（堀越政孝） 内分泌代謝疾患の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第9回 中間試験解説内分泌代謝疾患患者の看護2（堀越政孝） 糖尿病患者の看護について学ぶ。 中間試験の総評と解説を行う。</p> <p>第10回 内分泌代謝疾患患者の看護3（堀越政孝） 甲状腺疾患患者の看護について学ぶ。</p> <p>第11回 呼吸器疾患患者の看護1（堀越政孝） 呼吸器疾患の特徴と看護について学ぶ。</p> <p>第12回 呼吸器疾患患者の看護2（堀越政孝） 炎症性疾患（肺炎、気管支炎、呼吸器感染症）・肺結核患者の看護について学ぶ。</p> <p>第13回 呼吸器疾患患者の看護3（堀越政孝） 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患患者の看護について学ぶ。</p> <p>第14回 腎・泌尿器疾患患者の看護1（堀越政孝） 主要な腎疾患（腎不全・慢性腎臓病・ネフローゼ症候群）の特徴について学ぶ。</p> <p>第15回 腎・泌尿器疾患患者の看護2（堀越政孝） 腎不全の治療（内科的治療、透析療法）と看護について学ぶ。</p>
科目の目的	成人期の特徴的な疾患とその治療について理解し、患者と家族の健康状態に応じたアセスメントと看護支援の方法を修得する。 ディプロマ・ポリシーとの関連【知識・理解】【思考・判断】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者、および、血液・造血器疾患、内分泌代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患をもつ患者の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。</li> <li>2. がん患者、および、血液・造血器疾患、内分泌代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患の看護の方法を理解する。</li> </ol>
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学概論、成人看護学総論、成人看護学方法論Ⅱ、周手術期看護論、クリティカルケア看護論、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験100%：中間試験50%、期末試験50%を合算した結果で合否を判定する。 中間試験および期末試験の合算で、60%に満たない学生は再試験の対象とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	成人看護学概論、成人看護学総論で学習した内容の復習及び、講義内容に該当する部分の指定教科書を読んで、1時間以上の準備学習をしておくこと。 授業後は、必ず1時間以上の復習を行うこと。
教科書・参考書	教科書 『系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学②④⑥⑧』（医学書院） 『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 がん・ターミナルケア』（メヂカルフレンド社） 参考書 解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト
オフィス・アワー	堀越・萩原：講義前後、昼休み
国家試験出題基準	【看護師】《成人看護学》 Ⅲ-6、V-8、Ⅵ-A、-B、-C、Ⅶ-10-A、-B、-C-f、-C-g、Ⅶ-14-B、-C、-D-b～f、Ⅶ-15-A、-B、-C-a、-D、Ⅶ-20-B

履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。
-------------	---



講義科目名称：成人看護方法論Ⅱ

授業コード：3N081

英文科目名称：Adult Nursing Methods II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
金子 吉美			
萩原 英子	堀越 政孝		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：周手術期看護論

授業コード：3N082

英文科目名称：Perioperative Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
小池菜穂子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：クリティカルケア看護論

授業コード：3N083

英文科目名称：Critical Care Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
小池菜穂子	安田 弘子		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：成人看護学演習

授業コード：3N084

英文科目名称：Practice in Adult Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：救急法

授業コード：3N085

英文科目名称：Paramedic Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
北林 司			
小池菜穂子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：成人看護学特論

授業コード：3N086

英文科目名称：Advanced Adult Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
萩原 英子			
堀越 政孝			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：老年看護学総論

授業コード：3N087

英文科目名称：Introduction to Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
伊藤まゆみ			
関 妙子			

授業形態	講義（7回）、演習（1回）
授業計画	<p>第1回 ライフサイクルの中の老年期 老いるということ、ライフサイクルにおける老年期</p> <p>第2回 高齢社会と高齢者の生活 統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし</p> <p>第3回 加齢とからだ、こころ 加齢による身体的変化、心理・社会的変化</p> <p>第4回 老化疑似体験① 実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解、DVD視聴「老いを生きる」</p> <p>第5回 老化疑似体験② 実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解、DVD視聴「老いを生きる」</p> <p>第6回 高齢者の健康を支援する制度・システム 高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護</p> <p>第7回 老年看護の役割 老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割</p> <p>第8回 高齢者のライフヒストリー（担当：関） 実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解</p>
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解する。</li> <li>2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。</li> <li>3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。</li> <li>4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。</li> </ol>
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成績評価方法・基準	期末試験（60%）、レポート（20%）、授業時間内提出物（ミニツツペーパー）（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそっておよそ30分復習しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子、医学書院 参考書：「国民衛生の動向2016/2017」（厚生統計協会）
オフィス・アワー	講義実施曜日の9-17時
国家試験出題基準	<p>《老年看護学》Ⅰ-1-A, B, C, D 2-A, B 3-A, B</p> <p>《老年看護学》Ⅱ-4-A, B, C 9-A, B 10-A, B</p>
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
星野 泰栄			
清水美和子			

授業形態	講義 (15回)
授業計画	<p>第1回 高齢者の生理的特徴 (身体的機能の変化) 【清水】</p> <p>第2回 高齢者の症候①発熱、痛み、脱水、不眠、廃用症候 【清水】</p> <p>第3回 高齢者の症候②発熱、痛み、脱水、不眠、廃用症候 【星野】</p> <p>第4回 高齢者の疾患①精神・神経疾患 (脳血管障害) 【星野】</p> <p>第5回 高齢者の疾患②精神・神経疾患 (パーキンソン病) 【星野】</p> <p>第6回 高齢者の疾患③精神・神経疾患 (せん妄、うつ病) 【星野】</p> <p>第7回 高齢者の疾患④運動器疾患 【清水】</p> <p>第8回 高齢者の疾患⑤腎・泌尿器疾患 【清水】</p> <p>第9回 高齢者の疾患⑥循環器疾患 【星野】</p> <p>第10回 高齢者の疾患⑦呼吸器疾患 【星野】</p> <p>第11回 高齢者の疾患⑧皮膚・感覚器疾患 【清水】</p> <p>第12回 高齢者の疾患⑨感染性疾患 【清水】</p> <p>第13回 高齢者と治療①高齢者と薬物療法 【星野】</p> <p>第14回 高齢者と治療②高齢者の周手術期看護 【星野】</p> <p>第15回 高齢者と治療③高齢者のリハビリテーション看護 【星野】</p>
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。ディプロマポリシーである思考・判断を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。</li> <li>2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。</li> <li>3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。</li> <li>4. 高齢者における薬物療法の特徴と看護を理解する。</li> </ol>
関連科目	老年看護学総論
成績評価方法・基準	試験80%、課題20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容と関連する教科書の部位を準備学習しておく。学習時間は1時間程度。
教科書・参考書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子 (医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論」鳥羽健司 (医学書院)
オフィス・アワー	【星野】 【清水】 講義日の9時～18時30分
国家試験出題基準	《必修》-III-11-B-f 《必修》-IV-14-B-e, C-e, 16-A-a 《人体の構造と機能》-17-B-a, b 《老年看護学》I-1-A`D, 2-A`C, 3-A`D 《老年看護学》II-5-A`I, 7-A`R
履修条件・履修上の注意	





開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
星野 泰栄			
清水美和子	伊藤まゆみ		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 認知症の看護①疾患の理解【星野】</p> <p>第2回 認知症の看護②疾患の理解【星野】</p> <p>第3回 認知症の看護③認知症高齢者のケア【清水】</p> <p>第4回 認知症の看護④認知症高齢者のケア【清水】</p> <p>第5回 老年期の看護問題①褥瘡・スキンテア【星野】</p> <p>第6回 老年期の看護問題②排尿・排便障害【清水】</p> <p>第7回 老年期の看護問題③事故予防と救急時の対応、高齢者の医療安全と災害看護【星野】</p> <p>第8回 老年期の看護問題④転倒・転落【清水】</p> <p>第9回 老年期の看護問題⑤その他【星野】</p> <p>第10回 エンドオブライフケア①終末期にある高齢者と家族のケア【清水】</p> <p>第11回 エンドオブライフケア②死後の処置【清水】</p> <p>第12回 高齢者のアセスメント技術【星野・清水】</p> <p>第13回 高齢者の健康段階に応じた看護①【星野】</p> <p>第14回 高齢者の健康段階に応じた看護②【星野】</p> <p>第15回 ライフヒストリー発表会【伊藤】</p>
科目の目的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の健康の維持・増進のための支援・教育の内容と方法を理解する。</li> <li>2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。</li> <li>3. 高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。</li> <li>4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。</li> <li>5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。</li> </ol>
関連科目	老年看護学Ⅰ
成績評価方法・基準	試験70%、課題30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に講義内容を確認し、教科書の関連する内容を1～2時間程度、復習する。
教科書・参考書	老年看護学Ⅰ「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子（医学書院） 老年看護学Ⅰ「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論」鳥羽健司（医学書院）
オフィス・アワー	【星野】講義の日の9時～18時30分 【着任予定者】講義の日の9時～18時30分 【東泉】講義の日の9時～18時30分
国家試験出題基準	《必修問題》Ⅳ-16-H-c 《基礎看護学》Ⅱ-4-B-h、-C-h 《老年看護学》Ⅰ-4-E、7-A～Q

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称：老年看護学演習

授業コード：3N090

英文科目名称：Practice in Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
星野 泰栄			
清水 美和子			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：老年看護学特論

授業コード：3N091

英文科目名称：Advanced Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
伊藤まゆみ			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
内山かおる			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 小児看護の特徴と役割 小児看護の対象、小児看護の目標・役割、小児看護の変遷 子どもの権利と擁護</p> <p>第2回 乳児の成長・発達と家族への援助① 成長発達の原則、成長発達に影響する要因、新生児期の形態的成長発達・機能的発達 新生児期の特徴、新生児期の形態的成長発達・機能的発達、</p> <p>第3回 乳児期の成長・発達と家族への援助② 乳児期の特徴と発達課題、乳児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達、 乳児期の発育・発達評価、健康問題、親子関係、栄養と睡眠</p> <p>第4回 幼児期の成長・発達と家族への援助① 幼児期の特徴と発達課題、幼児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達</p> <p>第5回 幼児期の成長・発達と家族への援助② 遊びについて、幼児期の健康問題と安全対策、幼児の発育・発達評価、家族関係、栄養と睡眠</p> <p>第6回 学童期の成長・発達と家族への援助 学童期の特徴と発達課題、学童期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達 学習について（特別支援学校含む）、学童期のセルフケアの発達、学童期の健康問題、</p> <p>第7回 思春期の成長・発達と家族への援助 思春期の特徴と発達課題、思春期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達、 セルフケアの自立と課題、思春期の健康問題、家族関係、思春期の課題と支援</p> <p>第8回 子どもを育む環境と健康への支援 子どもを取り巻く環境、母子保健の現状と動向、討議・課題レポート作成（提出）</p>
科目の目的	子どもの成長発達過程の特徴を生涯発達の視点で総合的に理解し、それらを育む家族や環境を含めて子どもの健やかな成長・発達を援助する小児看護について学習する【知識・理解】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の対象と特徴を理解する。</li> <li>2. 子どもの成長・発達の特徴を理解する。</li> <li>3. 子どもを育む親・家族の役割を理解する。</li> <li>4. 子どもを取り巻く環境の特性と健康に及ぼす影響について理解する</li> <li>5. 子どもの健やかな成長・発達を支援する看護の役割を理解する</li> </ol>
関連科目	小児看護学（小児看護方法論、小児看護学演習、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、社会学、環境学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、病理学、免疫・感染症学、薬理学）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健）
成績評価方法・基準	課題レポート（20％） 定期試験（80％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 講義ノート（資料含む）は、小児看護学Ⅱ・Ⅲ、小児看護学実習で活用できるよう工夫して作成して下さい。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著（医学書院）。
オフィス・アワー	月・木（事前に連絡をください）
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修》－Ⅱ－7－B－a, b, c, d, e, f, C－a, b, c, d, e, f, D－a, b, c, E－a, b, c, d</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－1－A－a, b, c, B－a, b, c, d, C－a, b, c, d</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－2－A－a, b, c, B－a, b, C－a, b, c, d, e, f, D－a, b, c, d</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－3－A－a, b, c, B－a, b</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－4－A－a, b, c, d, e, f, B－a, b</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－5－A－a, b, c, d, e, f, B－a, b, c</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－6－A－a, b, c, d, e, f, g, B－a, b, c</p> <p>《小児看護学》－Ⅰ－7－A－a, b, c, d, e, f, B－a, b, c, d</p>
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
内山かおる			

授業形態	講義15回
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 小児看護の理念①</p> <p>第2回 小児看護の理念② アドボカシー、インフォームドコンセント、インフォームドアセント</p> <p>第3回 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響 子どもの病気・治療に伴うストレス、子どものストレスに対する支援、子どもの病気・障害に対する家族の支援</p> <p>第4回 外来における子どもと家族の看護 小児外来の種類、外来における看護、外来の環境</p> <p>第5回 子どものアセスメント① 一般状態、眼、耳、顔・鼻・口腔、呼吸</p> <p>第6回 子どものアセスメント② 心臓、血管系、腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器、リンパ系、皮膚・爪・体毛</p> <p>第7回 急性期にある子どもと家族の看護① 急性期にある子どもと家族の看護、発熱時のアセスメント</p> <p>第8回 急性期にある子どもと家族の看護② 脱水時のアセスメントと看護、けいれん時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護</p> <p>第9回 周手術期にある子どもと家族の看護 子どもの手術の特徴、手術を受ける子どもの特徴、手術を受ける子どもと家族の反応、手術前後の看護</p> <p>第10回 救急処置が必要な子どもと家族の看護 小児救急の現状、トリアージ、子どもの事故・外傷の特徴、救急を必要とする主な状況と処置</p> <p>第11回 慢性期にある子どもと家族の看護① 慢性疾患の特徴、病気による子どもと家族の生活の変化</p> <p>第12回 慢性期にある子どもと家族の看護② 慢性期にある子どもと家族の看護</p> <p>第13回 終末期にある子どもと家屋の看護、災害時の子どもと家族の看護、新生児集中治療と看護 終末期の特徴、終末期にある子どもと家族の看護、災害時の子どもと家族の看護、低出生体重児と家族の看護</p> <p>第14回 障害のある子どもと家族の看護 障害の捉え方、障害のある子どもと家族の特徴、障害のある子どもと家族の社会的支援</p> <p>第15回 子どもの虐待と看護 子どもの虐待とは、リスク要因と発生予防・早期発見、子どもの虐待に特徴的にみられる状況、求められるケア</p>
科目の目的	<p>成長発達過程にある子どもにおこる代表的な健康障害やそれに付随した環境の変化によって及ぼされる子どもや家族への影響を理解し、子どもの健康回復、成長発達への阻害要因を最小限にする看護方法について学ぶ。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連【思考・判断】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの代表的な健康障害の病態や治療の特徴について復習し、理解を深める。</li> <li>2. 子どもの健康障害や治療環境が子どもや家族に与える影響について理解する。</li> <li>3. 健康障害をもつ子どもの健康回復に向けた子どもや家族への基礎的看護方法を理解する。</li> <li>4. 健康障害をもつ子どもの治療環境によって及ぼされる成長発達への阻害要因を最小限にする看護方法を理解する。</li> </ol>
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論）
成績評価方法・基準	試験 100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著（医

	学書院) 2016. 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著 (医学書院) 2016.
オフィス・アワー	講義前後
国家試験出題基準	<b>【看護師】</b> 《小児看護学》－Ⅱ－8－A－a, b 《小児看護学》－Ⅱ－8－B－a, b, c, d, e 《小児看護学》－Ⅱ－8－C－a, b 《小児看護学》－Ⅱ－9－A－b, c, d, e, f, g 《小児看護学》－Ⅱ－9－B－b, c, d, e, f, g, j 《小児看護学》－Ⅱ－9－C－a, b, c, d, e, f, h, i 《小児看護学》－Ⅱ－9－D－b, c, d, e, f, g, h 《小児看護学》－Ⅱ－9－E－a, b, c, d, e 《小児看護学》－Ⅱ－10－A－a, b, c, d, e 《小児看護学》－Ⅱ－10－B－a 《小児看護学》－Ⅱ－10－E－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－10－F－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－10－G－a, b 《小児看護学》－Ⅱ－11－A－c
履修条件・履修上の注意	－



講義科目名称：小児看護学演習

授業コード：3N094

英文科目名称：Practice in Child Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
内山かおる			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児看護学特論

授業コード：3N095

英文科目名称：Advanced Pediatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
内山 かおる			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
中島久美子			
上村るり子	早川有子		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 母性看護の概念 性と性行動 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性(女性)とは、リプロダクティブヘルツ/ライツ、ヘルスプロモーション、セクシュアリティの概念</li> <li>・母性看護学総論オリエンテーション(学習の範囲、学習の視点、基本的知識)</li> </ul> <p>第2回 母性看護の機能と役割 母子保健の現状と動向 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性の健康と社会 母子保健統計からみた母性の健康 母性の健康と社会</li> <li>母子保健統計からみた母性の健康</li> </ul> <p>第3回 母性看護の変遷と諸施策 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護の歴史と役割、母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策・母子保健施策(法律)</li> </ul> <p>第4回 性と生殖器の構造・機能・発生、生殖周期とホルモン (上村)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生殖器、男性生殖器、</li> <li>・生殖器の発生とその異常、生殖器系の異常(遺伝子・精子・卵子)女性生殖器の機能</li> <li>・月経周期、調節機序、卵巣・子宮内膜の周期的変化</li> <li>・生殖周期に関わるホルモン 受胎のメカニズム 人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン</li> </ul> <p>第5回 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における主な疾患、生殖器の感染症 (上村)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期の疾患(月経異常 性器奇形 子宮頸がんの予防等)</li> <li>・成熟期疾患(子宮内膜症 生殖器の疾患 感染症等)</li> <li>・更年期疾患(月経異常 更年期障害 更年期うつ病等)</li> <li>・老年期疾患(萎縮性膀胱 排尿障害 骨盤臓器脱等)</li> <li>・性感染症STI(性器ヘルペス 尖圭コンジローマ AIDS クラミジア感染他)その他の感染症</li> </ul> <p>第6回 性と生殖に関する健康問題と援助1:【思春期女性への支援】 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期のセクシュアリティ発達支援(二次性徴の早発・遅発ケースへの対応と支援、性障害と性同一性障害)</li> <li>・子宮頸がん予防、DV予防と支援、性感染症(STD)予防(予防に関する啓発)</li> <li>人工妊娠中絶の予防と支援</li> </ul> <p>第7回 性と生殖に関する健康問題と援助2:【成熟期・更年期・老年期女性への支援】 (早川)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不定愁訴・閉経への指導、乳がん・子宮頸がん検診、DV予防と支援</li> </ul> <p>第8回 母性看護の課題と展望 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化</li> <li>・多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率</li> <li>・在日外国人の母子保健など</li> <li>・現代社会における母性の健康と課題(子ども虐待の背景、親子関係、子育て支援)</li> </ul>
科目の目的	国内外の母性看護の歴史の変遷と母性看護の現状について学ぶ。 ライフサイクルを通して母性看護の諸施策と役割を学ぶ。性と生殖に関する理解をする。 【知識・理解】
到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況が理解できる。 母性看護の基盤となる知識が理解できる。 女性の性の周期性の変化について口頭で説明ができる。
関連科目	教養科目群：生命倫理 家族学 専門基礎科目群：解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：「母性看護学Ⅰ、母性看護学概論」森恵美他(医学書院) 参考書：授業にて提示
オフィス・アワー	中島：開講日の昼休み 非常勤講師：講義前後の休み時間
国家試験出題基準	【看護師】 《母性看護学》Ⅰ-1-A, B, Ⅰ-1-D-a, b, c, Ⅰ-1-E, Ⅱ-2-A-a, b, c, d, e, g, Ⅱ-2-B, Ⅲ-3-A, B, Ⅳ-8-c-a, b, c, d, 【助産師】 《基礎助産学Ⅰ》Ⅱ-2-A, B, C, Ⅱ-4, 5, Ⅲ-7,
履修条件・履修上の注意	助産師課程資格取得のための要件科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
早川 有子			
山本伊佐夫			

授業形態	講義10回 演習5回
授業計画	<p>第1回 リプロダクティブ・ヘルスに関する動向（早川） 講義1 諸統計と現況(国内外)</p> <p>第2-4回 母子保健に影響を与える因子（討議・発表・レポートまとめ）（早川）演習1-3 母子保健に影響を与える因子 ・精神的要因：家族、サポートシステムなど ・社会的要因：職場環境 友人関係 親族関係、核家族など ・環境的要因：自然環境 人為的環境 インターネットなど ・身体的要因：食事と栄養 喫煙 飲酒など ・生活環境要因：夫婦関係 家族関係 社会支援 子育て支援施策など</p> <p>第5回 母子と感染症（早川）講義2 妊娠・分娩・産褥期に認められる感染症と母子のリスク(性感染症含む)</p> <p>第6-10回 母子と健康問題（早川）講義3-7 妊・産・褥婦によくみられる健康問題（便秘 痔 貧血 体重管理 乳房）</p> <p>第11・12回 母子の保健指導（早川）演習4-5 課題学習（各自テーマに沿って指導案を作製し学生間で共有）</p> <p>第13回 周産期の医療システム（早川）講義8 母体搬送 新生児搬送 チーム医療 周産期医療ネットワーク</p> <p>第14回 性と生殖（早川）講義9 性をめぐる最近の話題・性暴力 DV ・性同一性障害について（ゲスト：石塚）</p> <p>第15回 母親への育児支援（山本）講義10 乳幼児虐待予防 夜泣き及び母親の育児ストレス改善 乳幼児突発死症候群の予防など</p>
科目の目的	母子の健康支援について、専門職としての基本的知識と支援方法について学ぶ。【知識・理解】
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向について理解する。</li> <li>・母子の健康に影響を与える因子について理解する。</li> <li>・母子の健康問題とその看護について理解する。</li> <li>・性と生殖に関わる問題と看護師の役割について理解する。</li> <li>・周産期医療のシステムについて理解する。</li> </ul>
関連科目	<p>教養科目群：生命倫理 家族学 環境学 ジェンダー論</p> <p>専門基礎科目群：母性看護学総論 免疫感染症学 発達心理学 地域保健行政 栄養学 健康管理論</p> <p>専門科目群：小児看護学 公衆衛生看護学</p>
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護学総論の復習して講義に臨むこと 授業計画にあげた内容について、課題を持って授業に臨むこと。</p> <p>準備学習時間の目安：1時間</p>
教科書・参考書	<p>教科書：妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子他（医学書院）</p> <p>参考書：特になし</p>
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後
国家試験出題基準	<p>《母性看護学》-I-B</p> <p>《母性看護学》-II-3-A II-3-B.</p> <p>《母性看護学》-III-4-C III-5-A</p>
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前配布する、各自印刷して授業に持参すること。

講義科目名称：母性看護方法論

授業コード：3N098

英文科目名称：Maternity Nursing Methods

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
池田 申之	横田 佳昌		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：母性看護学演習

授業コード：3N099

英文科目名称：Practice in Maternal Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
早川 有子	中島久美子		

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：母性看護学特論

授業コード：3N100

英文科目名称：Advanced Maternity Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神保健

授業コード：3N101

英文科目名称：Mental Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 精神看護学で学ぶこと 心のケアと精神看護学</p> <p>第2回 精神保健の考え方1 精神の健康・精神障害のとらえ方</p> <p>第3回 精神保健の考え方2 ストレスと健康の危機・心的外傷と精神の健康・回復（リカバリー）</p> <p>第4回 人間の心のはたらきとパーソナリティ1 人間の心の諸活動・心の仕組みと人格の発達</p> <p>第5回 人間の心のはたらきとパーソナリティ2 フロイトの精神力動論・対象関係論その他</p> <p>第6回 関係の中の人間1 全体としての家族</p> <p>第7回 関係の中の人間2 人間と集団</p>
科目の目的	精神保健（こころの健康）を維持・増進・回復するために必要な基礎理論について学習し、看護専門職に必要なとされる精神健康に対する看護に関しての知識を身につけ、ディプロマポリシーである知識・理解、思考を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康について理解できる。</li> <li>2. ストレス（危機）とその反応について理解できる。</li> <li>3. 社会における精神保健の課題とその対策について理解できる。</li> </ol>
関連科目	精神看護学総論、精神看護学方法論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護学特論
成績評価方法・基準	定期試験（80％） 課題提出（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間）</p> <p>復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）</p>
教科書・参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、武井麻子他、医学書院
オフィス・アワー	村松 仁：月～金曜日17:00～18:00
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》 I-1-A-a～b</p> <p>《精神看護学》 I-1-B-a～b</p> <p>《精神看護学》 I-1-C-a～e</p> <p>《精神看護学》 I-1-D-a～e</p>
履修条件・履修上の注意	



講義科目名称：精神看護学総論

授業コード：3N102

英文科目名称：Introduction to Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 精神科で出会う人々1 精神症状と状態像</p> <p>第2回 精神科で出会う人々2 統合失調症</p> <p>第3回 精神科で出会う人々3 気分障害、神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害</p> <p>第4回 精神科で出会う人々4 摂食障害・アルコール依存症</p> <p>第5回 精神科で出会う人々5 パーソナリティ障害、てんかん、神経発達障害群</p> <p>第6回 精神科における治療1 薬物療法・電気けいれん療法</p> <p>第7回 精神科における治療2 精神療法・精神科リハビリテーション</p> <p>第8回 社会の中の精神障害 ・精神障害と治療の歴史（諸外国及び日本） ・精神障害と法制度</p>
科目の目的	精神看護学の対象理解で重要となる精神機能および精神機能の異常と代表的な精神疾患の概要、病態、治療について学修し、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神機能と精神症状を理解する。</li> <li>2. 代表的な精神疾患の概要、病態、症状、治療方を理解する。</li> </ol>
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学方法論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護学特論
成績評価方法・基準	定期試験（80％） 課題提出（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間）</p> <p>復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、武井麻子他、医学書院</p> <p>参考書：落合滋之監修、精神神経疾患ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社、2015.</p>
オフィス・アワー	村松 仁：月～金曜日17:00～18:00
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》Ⅱ-2-A-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-B-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-C-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-D-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-E-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-F-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-G-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-H-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-I-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-J-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-K-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-L-a～c</p>
履修条件・履修上の注意	教科書を使用して講義を行うので、教科書を持参すること。 配布資料がある場合は、講義までにActive Academyで配布する。資料は適宜印刷して持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 ケアの人間関係1 ケアの前提・ケアの原則・患者－看護師関係における感情体験</p> <p>第2回 ケアの人間関係2 ケアの方法・ケア関係をアセスメントする</p> <p>第3回 回復を助ける 回復の意味と方法（プログラム）</p> <p>第4回 入院治療の目的と意味 入院体験の意味・適切な入院・治療的環境</p> <p>第5回 安全を守る 精神科病棟における安全・行動制限・緊急事態（自殺・暴力・無断離院）</p> <p>第6回 精神障害を持つ人の看護1 統合失調症を持つ人の看護</p> <p>第7回 精神障害を持つ人の看護2 気分障害を持つ人の看護</p> <p>第8回 精神障害を持つ人の看護3 神経症性障害を持つ人の看護</p> <p>第9回 精神障害を持つ人の看護4 摂食障害を持つ人の看護</p> <p>第10回 精神障害を持つ人の看護5 アルコール依存症を持つ人の看護を持つ人の看護</p> <p>第11回 精神障害を持つ人の看護6 パーソナリティ障害を持つ人の看護</p> <p>第12回 精神障害を持つ人の看護7 てんかん・神経発達障害群を持つ人の看護</p> <p>第13回 精神障害リハビリテーション 精神科作業療法・SST及び心理教育</p> <p>第14回 精神科リハビリテーションの実際1 当事者研究1</p> <p>第15回 精神科リハビリテーション2の実際2 当事者研究2</p>
科目の目的	精神疾患や危機的状況を持つ人の心理社会的な状況を理解し、精神（こころ）の健康問題を持つ人に対し必要となる看護方法について学習し、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護における治療的コミュニケーションが理解できる。</li> <li>2. 代表的な精神疾患を持つ患者の看護が理解できる。</li> <li>3. 精神障害リハビリテーションの意義及び方法が理解できる。</li> </ol>
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神保健、精神看護学総論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護学特論
成績評価方法・基準	定期試験（80％）、課題等（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間）</p> <p>復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②、武井麻子他、医学書院。</p> <p>参考書：改訂版 これからの精神看護学（一病態生理をふまえた看護実践のための関連図）、森千鶴、田中留伊、ピラールプレス、2016。</p>
オフィス・アワー	村松 仁：月～金曜日17:00～18:00
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》Ⅱ-2-A-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-B-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-C-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-D-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-E-a～c</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-2-F-a～c</p>

	《精神看護学》 II-2-G-a~c 《精神看護学》 II-2-H-a~c 《精神看護学》 II-2-I-a~c 《精神看護学》 II-2-J-a~c 《精神看護学》 II-2-K-a~c 《精神看護学》 II-2-L-a~c
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神看護学演習

授業コード：3N104

英文科目名称：Practice in Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			
松本 浩子			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神看護学特論

授業コード：3N105

英文科目名称：Advanced Psychiatric Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			

授業形態	講義（6）グループワーク（2）
授業計画	<p>第1回 在宅看護の概念1 在宅看護が必要な社会的背景（グループワーク）</p> <p>第2回 在宅看護の概念2 在宅看護の歴史、目指すもの、意義、在宅療養の成立要件、対象者、対象者の特徴、在宅看護の提供の場、在宅看護の役割・機能</p> <p>第3回 在宅看護の概念2 対象者への支援の目的 支援の基本 療養者・家族の自立、自律支援（価値観の尊重と意思決定支援、QOLの維持向上、セルフケアの向上、療養環境の調整）</p> <p>第4回 在宅看護の概念 家族支援1 療養者と家族および家族の発達段階から考える家族支援 家族とは 家族の発達段階および家族システム論からみた家族の課題と看護支援</p> <p>第5回 在宅看護の概念 家族支援2 中間テスト 家族支援の実際（介護力アセスメント、セルフケア、介護者の健康管理、介護負担の軽減）</p> <p>第6回 在宅看護における権利保障 中間テスト結果説明 権利擁護 成年後見人制度 虐待防止 個人情報の保護 サービス利用者の権利の保護</p> <p>第7回 訪問看護制度の理解1 訪問看護制度 訪問看護ステーションの設置・運営・管理 訪問看護制度（医療保険 介護保険） 訪問看護ステーション管理・運営 看護の展開と多職種連携</p> <p>第8回 訪問看護制度の理解2 グループワーク 発表 目指す訪問看護ステーションとは</p>
科目の目的	「知識・理解」 在宅看護の歴史と現状、在宅看護の目的、意義、在宅看護の対象を理解し、「生活の場」における在宅看護の展開方法を学ぶ。また訪問看護制度を学び訪問看護活動の根拠を知る。 グループワークによる検索的学習を交えて在宅看護のあるべき姿と今後の展望を思考し、発表することができる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の歴史、背景、現状を学び、対象を理解した在宅看護の目的・機能・役割が説明できる。</li> <li>2. 各種保険別の訪問看護制度および訪問看護ステーションの管理・運営、機能が理解できる</li> <li>3. 家族の発達段階及び家族システム論を踏まえた家族支援の必要性および看護方法が理解できる。</li> <li>4. 療養者の権利擁護に対する訪問看護師の姿勢が理解できる。</li> <li>5. めざす在宅看護のあるべき姿を考えることができる。</li> </ol>
関連科目	基礎看護学領域各科目、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学、家族看護学、社会福祉・社会保障制度
成績評価方法・基準	中間テスト10%、定期試験90%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 現在及び将来の人口構造、医療費の現状、各年齢層における健康意識や課題、特に高齢者の健康状態と健康意識などについて社会的背景と在宅看護の必要性との関連性について、事前学習をし、知識を得ておく。また、講義資料を事前にアクティブアカデミーにて送付するので、そこで事前学習課題を課す。概ね30分程度の事前学習を必要とする。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」医学書院 河原加代子（著者代表） ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」メディカ出版 参考書「国民衛生の動向 2017」一般財団法人 厚生労働統計協会
オフィス・アワー	笠井：月曜日 17:50以降18:30または昼休み 山野：月曜日 昼休み
国家試験出題基準	1-A-a～d、1-C-a～d、1-D-a～d、1-G-a～e、3-A-a～c、3-C-a～e、12-C-d
履修条件・履修上の注意	事前学習は、前週の学習内容から国家試験出題類似問題を課す。また前週の学習内容について抑えてほしいポイントのフィードバックとするのでしっかり問題に取り組んでほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野 えり子	今井 真美	金井 敏江	平石 桂子

授業形態	講義（11） 演習（4）
授業計画	<p>第1回 在宅療養を支援する仕組み（笠井） 社会資源とは、活用目的 在宅療養支援に関連する社会資源と関係職種、訪問看護制度の仕組みと提供（復習）</p> <p>第2回 社会資源の活用・調整1（山野） 介護保険制度の仕組み（誕生の背景 財源、事業運営 要介護認定 サービス利用までの流れ 介護報酬・費用負担のしくみ）</p> <p>第3回 社会資源の活用・調整2（山野） 介護保険給付サービス 居宅・施設（都道府県指定監督及び市町村指定監督）サービスの内容 利用方法</p> <p>第4回 社会資源の活用・調整3（山野） 介護保険給付サービス 祉用具貸与、特定福祉用具販売、住宅改修サービスの内容と利用方法 手順</p> <p>第5回 社会資源の活用・調整4（笠井） 医療保険制度 難病療養者、小児、障害者を支援する諸制度の内容と利用方法</p> <p>第6回 地域包括ケアシステム（笠井） 社会的背景、ねらい、内容、多職種連携・協働、事例から考える地域包括ケアシステムと訪問看護師の役割</p> <p>第7回 多職種連携の実際1（金井） 介護支援専門員の立場から 業務と活動の実際</p> <p>第8回 多職種連携の実際2（今井） 訪問看護師の立場から 業務と活動の実際</p> <p>第9回 多職種連携の実際3（平石） 理学療法士の立場から 業務と活動の実際</p> <p>第10回 在宅看護におけるケースマネジメント（笠井） 多様化したニーズへの対応、意思決定支援、残存機能の維持向上、サービスの統合、ケアの継続性、マネジメントの過程</p> <p>第11回 事例から学ぶケアマネジメントの実際 グループワーク（笠井・山野） 中間テスト 模擬事例から社会資源の活用、多職種連携・協働、訪問看護師の役割を考える</p> <p>第12回 事例から学ぶ社会資源のマネジメントの実際2 グループ発表・評価（笠井・山野） グループ発表・評価</p> <p>第13回 退院支援・調整1（笠井） 退院支援・調整とは 訪問看護師の役割と継続看護、初回訪問の目的と看護の基本的姿勢</p> <p>第14回 退院支援・退院調整2 グループワーク（笠井・山野） 模擬事例から考える退院支援・調整と訪問看護師の役割</p> <p>第15回 退院支援・調整 グループ発表・評価（笠井・山野） グループ発表、評価、まとめ</p>
科目の目的	<p>「思考・判断」 疾患や障害を抱えながらも在宅看護の対象である療養者およびその家族が「希望する生活」が実現できるように、療養者とその家族への理解を深め、在宅看護の果たす役割について考えることができる。また、療養者とその家族の「自立・自律」を支えるために、退院調整、療養環境整備、在宅療養を支える社会資源の活用についてその方法を学び、それらを有効に機能させるためのケアマネジメント及び多職種連携の在り方を学ぶ。これらのことを踏まえ、地域で療養者・家族を支えるケアシステムとその中で在宅看護の役割を考えることができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者・家族を支える社会資源を知り、その活用方法を説明できる。（医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、難病施策、小児慢性疾患施策など）</li> <li>2. 在宅療養支援ネットワークの構築と多職種連携・協働の必要性および訪問看護師の役割が説明できる。</li> <li>3. 地域包括ケアシステム構築における訪問看護師の専門性と役割が説明できる。</li> <li>4. 退院支援・調整における訪問看護師の役割を学び、在宅療養移行支援における在宅療養環境整備について説明ができる。</li> <li>5. 在宅看護過程の特徴を学び、臨床の場における看護との違いを説明できる。</li> </ol>
関連科目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、社会福祉・社会保障制度論
成績評価方法・基準	中間試験（10％）定期試験（90％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉、社会保障制度の既習内容の復習が必要である。</li> <li>2. 特に介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法、小児・難病対策の制度について事前に予習しておくこと。</li> </ol> <p>（アクティブアカデミーにて準備学習は提示する。約30分程度予習をして授業に臨んでほしい）</p>

教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子（メディカ出版） 参考書：「国民衛生の動向」2016/2017 一般財団法人厚生労働統計協会
オフィス・アワー	笠井：金曜日 12:10～13:00 山野：金曜日 12:10～13:00 非常勤講師：当該講師の講義終了後または休憩時間に（教室または非常勤講師控室）
国家試験出題基準	在宅看護論 I 1-B-a・b、1-F-a～d、3-A-a～c、3-B-a～c、3-C-a～e、5-A-d、6-B-a～d、 6-C-a、8-A-a～e、8-B-a. b、9-ABCDE、10-A-a～d、
履修条件・履修上の注意	事前課題は前週の復習の目的で前週の講義内容にそった国家試験類似問題を課す。講義当日に正当を示し、必ず覚えてほしいポイントを共有化する。事前学習には30分程度の予習を行い、当該講義時に学習成果が発揮できるようにすること。



講義科目名称：在宅看護方法論Ⅱ

授業コード：3N108

英文科目名称：Home Care Nursing Methods II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野えり子	梨木恵実子		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：臨床看護管理学

授業コード：3N109

英文科目名称：Clinical Nursing Administration and Policies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員			
根生とき子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：災害看護論

授業コード：3N110

英文科目名称：Disaster Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
矢嶋 和江			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：国際看護論

授業コード：3N111

英文科目名称：International Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
辻村 弘美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
廣田 幸子	中下 富子		

授業形態	講義
授業計画	第1回 公衆衛生看護とは（1-16 矢島） 「公衆衛生」と「公衆衛生看護」、「地域看護」と「公衆衛生看護」
	第2回 公衆衛生看護の理念と目的 公衆衛生看護の規程に流れる理念、公衆衛生看護の目的
	第3回 公衆衛生看護活動と法令、職業倫理1 公衆衛生看護活動の根拠となる法律の概要
	第4回 公衆衛生看護活動と法令、職業倫理2 保健師の身分、教育に関する規定、公衆衛生看護活動において求められる倫理
	第5回 公衆衛生看護活動の特質 公衆衛生看護の特質、保健師に求められる能力
	第6回 公衆衛生看護の対象1 個人 公衆衛生看護の対象である個人の捉え方、個人に対する公衆衛生看護活動の特徴
	第7回 公衆衛生看護の対象2 家族 公衆衛生看護の対象である家族の捉え方、家族に対する公衆衛生看護活動の特徴
	第8回 公衆衛生看護の対象3 集団・地域 公衆衛生看護の対象である集団・地域の捉え方、集団・地域を対象とする公衆衛生看護活動の特徴
	第9回 公衆衛生看護の対象4 現代の人々の健康課題 現代の日本で対策に重点が置かれている健康課題
	第10回 公衆衛生看護活動の場1 保健所、市町村における保健師の活動
	第11回 公衆衛生看護活動の場2 在宅医療、介護・福祉分野における保健師の活動
	第12回 公衆衛生看護の活動方法1 公衆衛生看護に用いられる技術（健康相談、家庭訪問）
	第13回 公衆衛生看護の活動方法2 公衆衛生看護に用いられる技術（健康診査、健康教育、地区組織活動支援）
	第14回 公衆衛生看護の活動方法3 地区活動の展開
	第15回 公衆衛生看護の歴史1 欧米における公衆衛生看護の歴史、日本の公衆衛生看護の歴史1
	第16回 公衆衛生看護の歴史2 日本の公衆衛生看護の歴史2
	学校保健 (中下)
	第1回 児童生徒の心身の健康課題
	第2回 学校における健康教育
	第3回 学校保健に関する法規とシステム
	第4回 保健室の機能と役割
	第5回 児童生徒の健康評価と疾病予防
	第6回 児童生徒の心の健康問題への対応
	第7回 学校環境衛生及び学校給食
	第8回 学校における救急処置と学校安全

	産業保健 (廣田)
	第1回 産業保健・看護の考え方と我が国における変遷 産業保健の目的と定義、産業看護の定義と役割、産業保健・看護の歴史
	第2回 産業保健活動を推進するための体制 労働衛生行政、法体系、管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム
	第3回 産業保健の現状と健康課題 労働災害と業務上疾病の発生状況、労働者の健康状態
	第4回 産業保健活動の基本 総括管理、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育
	第5回 産業看護活動の実際① 職業性疾病及び作業関連疾患と予防対策、過重労働対策、メンタルヘルスクエア対策
	第6回 産業看護活動の実際② 職場巡視、多様化する労働者への対応、地域・職域連携活動
科目の目的	公衆衛生看護の概念と役割、地域の人々の健康課題と公衆衛生看護活動の方法について理解し、これからの公衆衛生看護の役割を展望する。【知識・理解】
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念と歴史の変遷を説明できる。 2. 公衆衛生看護の対象である個人、家族、集団、地域について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動の法的根拠を説明できる。 4. 公衆衛生看護の活動方法を説明できる。 5. 現代の我が国における人々の健康課題について説明できる。 6. 公衆衛生看護活動の場の特徴を説明できる。 7. 公衆衛生看護活動の倫理について説明できる。
関連科目	教養科目群：発達・行動・心理の各科目、人と社会・生活の各科目 専門基礎科目群：地域科目群の各科目 専門科目群の各科目
成績評価方法・基準	試験80% レポート20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき1時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	教科書 「標準保健師講座1 地域看護学概論」奥山則子 他(医学書院) 「国民衛生の動向2017/2018」(財団法人厚生統計協会) (学校保健) 「編集 衛藤隆・岡田加奈子 改訂8版 学校保健マニュアル」(南山堂) 「国民衛生の動向2017/2018」(財団法人厚生統計協会) (産業保健) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院) 参考書 (産業看護) 公衆衛生看護学テキスト4 公衆衛生看護活動Ⅱ学校保健・産業看護(医歯薬出版株式会社) 産業看護学2017年版(日本看護協会出版会)
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00 中下富子・廣田幸子：講義の前後
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 《公衆衛生看護学概論》1-A, B, C 2-A, B 3-A, B 4-A, B, C 5-A, B, C 《学校保健・産業保健》1-A, B, C, 2-A, B, C, D, E 3-A, B, C 4-A, B, C 《公衆衛生看護方法論Ⅰ》1-A, B, C 2-A, B, C, D 《公衆衛生看護管理論》3-A 《保健医療福祉行政論》1-B-a, b 看護師国家試験出題基準 《必修問題》2-A-f, i 2-C 8-A, B 9-A-f, g, h, i, j 《疾病の成り立ちと回復の促進》1-A 2-A, B 《健康支援と社会保障制度》1-A, B, C 2-A, B 3-A, B 10-A, B, C, D, E 11-A, B
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配付しますので、授業に持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
担当教員			
廣田 幸子			

授業形態	講義（オムニバス方式）18コマ及び演習12コマ		
授業計画	第1回	公衆衛生看護の支援技術（講義：廣田）	
	第2回	健康相談1：健康相談、面接技術の基本（講義：廣田）	
	第3回	健康相談2：演習1 健康相談事例における相談的対応の面接技術の検討	
	第4回	健康相談3：演習2 相談的対応事例検討の振り返り	
	第5回	健康相談4：演習3 健康相談事例における教育的対応技術の検討	
	第6回	健康相談5：演習4 教育的対応事例検討の振り返り	
	第7回	健康教育1：健康教育の理念（講義：廣田）	
	第8回	健康教育2：健康教育の目的・対象・方法（講義：廣田）	
	第9回	健康教育3：健康教育に用いられる理論（講義：廣田）	
	第10回	健康教育4：健康教育の展開過程1（講義：廣田）	
	第11回	健康教育5：健康教育の展開過程2（講義：廣田）	
	第12回	健康教育6：健康教育計画と指導案（講義：廣田）	
	第13回	健康教育7：健康教育の実際（講義：廣田）	
	第14回	健康教育8：健康教育の評価（講義：廣田）	
	第15回	家族保健指導1：家族の発達課題、家族の持つ保健機能（講義：廣田）	
	第16回	家族保健指導2：家族の問題把握と診断、家族支援（講義：廣田）	
	第17回	家族保健指導3：演習1 家族の保健指導計画立案① 健康課題の抽出及び目的・目標の設定	
	第18回	家族保健指導4：演習2 家族の保健指導計画立案② 計画立案の作成及び提出	
	第19回	家族保健指導5：演習3 家族の保健指導計画立案③ 計画の修正	
	第20回	家族保健指導6：演習4 家族の保健指導計画立案④ 教育媒体の作成	
	第21回	検診・健康診査1：健康診査の意義、目的、対象（講義：奥野）	
	第22回	検診・健康診査2：健康診査の方法（講義：奥野）	
	第23回	検診・健康診査3：演習1 検診・健康診査の実践1	
	第24回	検診・健康診査4：演習2 検診・健康診査の実践2	
	第25回	家庭訪問1：家庭訪問の意義と目的、対象（講義：奥野）	

	<p>第26回 家庭訪問 2 : 家庭訪問の展開、事後処理 (講義 : 奥野)</p> <p>第27回 家庭訪問 3 : 演習 1 家庭訪問の実践 1</p> <p>第28回 家庭訪問 4 : 演習 2 家庭訪問の実践 2</p> <p>第29回 地域組織活動 1 : 地域組織活動の意義と目的、実際 (講義 : 奥野)</p> <p>第30回 地域組織活動 2 : 地域組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方 (講義 : 奥野)</p>
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地域組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。【思考・判断】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康相談、健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた保健指導を実施できる。</li> <li>2. 家庭訪問の意義、目的とプロセス (準備・実施・評価) を説明できる。</li> <li>3. 健康教育の概念と理論、個人及び集団を対象に健康教育を実施する際のプロセスと方法を説明できる。</li> <li>4. 地域組織活動の意義、活用される理論と支援方法を説明できる。</li> </ol>
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護技術演習、公衆衛生看護活動展開論、対象別公衆衛生看護活動論 I、対象別公衆衛生看護活動論 II、公衆衛生看護管理、公衆衛生看護学実習、カウンセリング
成績評価方法・基準	試験 (50%)、演習/レポート (50%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	健康相談演習事例に関する事前学習 (2.5時間)、家庭訪問演習事例に関する訪問計画の作成 (2.5時間)、家族への保健指導計画作成-実施-評価 (10時間)
教科書・参考書	【教科書】「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 (第3版)」中村裕美子 他 (医学書院)
オフィス・アワー	<p>廣田幸子 12:10~13:00</p> <p>奥野みどり 12:10~13:00</p>
国家試験出題基準	<p>【保健師】 ≪公衆衛生看護方法論 I (個人・家族・グループ支援方法論) ≫ 1-A, B, C 2-A-a, b, c D-a, b, c 3-A, B, C 4-B, C, D, E, F 5-B, C, D, E, F</p> <p>≪公衆衛生看護方法論 II (地域組織・地域への支援、事業化と施策化) ≫ 4-A, B</p>
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者は履修すること。 Active Academyにより資料を事前配付するので、授業に持参すること。



講義科目名称：公衆衛生看護技術演習

授業コード：3N114

英文科目名称：Practice in Public Health Nursing Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
奥野みどり			
矢島 正栄	小林亜由美	廣田 幸子	

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論

授業コード：3N115

英文科目名称：Advanced Public Health Nursing Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
小林亜由美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：対象別公衆衛生看護活動論 I

授業コード：3N116

英文科目名称：Public Health Nursing Activities I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
奥野みどり			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ

授業コード：3N117

英文科目名称：Public Health Nursing Activities II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
廣田 幸子			
一場美根子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：公衆衛生看護管理

授業コード：3N118

英文科目名称：Public Health Nursing Administration

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
矢島 正栄			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：助産学概論

授業コード：3N119

英文科目名称：Introduction to Midwifery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：助産基礎医学

授業コード：3N120

英文科目名称：Basic Medicine for Midwifery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			
牛島 廣治	竹中 恒久		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：母子と家族の心理・社会学

授業コード：3N121

英文科目名称：Psychosociology for Mother, Child, and Family

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
中島久美子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	



講義科目名称：周産期診断学

授業コード：3N122

英文科目名称：Perinatal Diagnostics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
横田 佳昌			
家坂 直子			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：妊娠期助産診断技術学

授業コード：3N123

英文科目名称：Gestation Period Midwifery Diagnostic Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：分娩期助産診断技術学

授業コード：3N124

英文科目名称：Intrapartum Period Midwifery Diagnostic Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
中島久美子			
臼井 淳美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：産褥期助産診断技術学

授業コード：3N125

英文科目名称：Puerperium Midwifery Diagnostic Technology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：新生児・乳幼児期助産診断技術学

授業コード：3N126

英文科目名称：Neonatal and Infant Period Midwifery Diagnostic …

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：助産診断技術学演習

授業コード：3N127

英文科目名称：Practice in Midwifery Diagnostic Technololy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
中島久美子			
白井 淳美	竹中 恒久	遠藤 究	

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：助産管理

授業コード：3N128

英文科目名称：Midwifery Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
大井けい子			
樋口美恵子	柿崎 明香		

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
上星 浩子			
佐藤 晶子	堀込 由紀	青柳 直樹	萩原 一美

授業形態	実習
授業計画	<p>実習時期 1年次前期</p> <p>オリエンテーション 実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。</p> <p>学内実習 実習目標が達成できるよう、既習した学習内容の復習や自己学習を通し、「基礎看護学実習 I ワークシート」（別紙参照）に沿って学習を行う。</p> <p>病院実習 実習病院：群馬大学医学部附属病院</p> <p>病院施設の見学実習を通して、病院の特徴・機能・役割や保健医療チームの実際を知る。健康障害を持つ対象者を理解する。</p> <p>実習のまとめ 観察した現象や学んだことから、病院施設における看護師の役割について討議し、発表する。また、目標を振り返り、看護学の学習上の学びや課題について、レポートを作成する。</p>
科目の目的	<p>病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解する。また、対象者の視点から、医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知り、健康障害を持つ人について理解を深める。本実習を通して看護師の役割について考えることで、今後の学習の動機付けとすることを目的とする。</p> <p>【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の特徴、機能、役割について知る。</li> <li>2. 保健医療チームを構成する職種について知る。</li> <li>3. 医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知る。</li> <li>4. 健康障害を持つ対象者の受診行動を観察し、その特徴を知る。</li> <li>5. 病院施設における看護師の役割について考える。</li> <li>6. 目標1～5を通し、看護学の学習上の学びや課題を明らかにする。</li> </ol>
関連科目	看護学概論 I・II の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる。
成績評価方法・基準	基礎看護学実習 I の評価表に基づき、事前学習・観察実習・実習記録（90%）、実習レポート（10%）等、すべてを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>病棟実習前に約1日の予習が必要（学内実習日の設定あり）。</p> <p>準備学習は実習記録に沿って行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書1：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版）</p> <p>参考書：特になし</p>
オフィス・アワー	月曜・木曜日：12：10～12：50（上星研究室）
国家試験出題基準	<p>《必修問題》 I-1-C-e II-9-A-a、B-b IV-13-A-a・b、15-A-a~c</p> <p>《基礎看護学》 I-1-A-a~c、B-a g、C-a~c II-3-A-a・b、 III-6-A-b、6-B-a</p>
履修条件・履修上の注意	病院実習では、実習用ユニフォーム、ナースシューズ、名札を着用すること。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
上星 浩子			
佐藤 晶子	堀込 由紀	青柳 直樹	萩原 一美

授業形態	実習
授業計画	<p>実習時期 2年次前期（8月～9月）</p> <p>オリエンテーション 実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。</p> <p>病院実習 病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者による指導のもと、看護援助を実施する。</p> <p>実習病院：高崎総合医療センター、公立藤岡総合病院、群馬中央病院、日高病院</p> <p>実習内容・方法：詳細は実習要項に提示する。 学内合同カンファレンス 実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。</p>
科目の目的	対象者への援助を实践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。 【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の展開ができる。</li> <li>2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。</li> <li>3. 相談、報告および看護の記録ができる。</li> <li>4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。</li> </ol>
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰの統合が必要である。 看護援助学Ⅱ、看護援助学演習Ⅱ、3年次以降の教科目や実習の基盤となる。
成績評価方法・基準	事前学習状況、看護過程の展開、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。 基礎看護学実習Ⅱの評価表に基づき、看護過程の展開、看護援助の実施（60%）報告、相談、記録（15%）、基本的態度（25%）等、すべてを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護援助学演習Ⅰで学習した技術の復習</li> <li>2. 看護過程の復習</li> <li>3. 実習先の病院概要および受け持ち患者の疾患や治療に関する準備学習</li> </ol>
教科書・参考書	教科書：基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項 参考書：特になし
オフィス・アワー	月曜・水曜：12：10～12：50（上星研究室）
国家試験出題基準	《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～C、2-A～C、Ⅱ-3-A～H 4-A～F 5-A～F Ⅲ-6-A-b、6-B-a～c
履修条件・履修上の注意	1年次に開講される全ての必修科目の単位認定を受けておりかつ2年次前期に開講される「治療援助学演習」及び「看護過程論演習」の単位認定を受けていることを履修条件とする。 患者を実際に受け持つ実習であるため、感染症抗体値（1年次検査済）結果および予防接種歴を提出し、必要な感染予防対策を取ることが望ましい。

講義科目名称：成人看護学慢性期実習

授業コード：3N131

英文科目名称：Adult Nursing Practicum for Chonic care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
堀越 政孝			
金子 吉美			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：成人看護学急性期実習

授業コード：3N132

英文科目名称：Adult Nursing Practicum for Acute care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
萩原 英子			
小池菜穂子	安田 弘子	湯澤香緒里	

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：老年看護学実習

授業コード：3N133

英文科目名称：Gerontological Nurisng Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	4単位	必修
担当教員			
星野 泰栄			
清水 美和子			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：小児看護学実習

授業コード：3N134

英文科目名称：Child Health Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
内山 かおる			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：母性看護学実習

授業コード：3N135

英文科目名称：Maternity Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
早川 有子	中島久美子		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：精神看護学実習

授業コード：3N136

英文科目名称：Psychiatric Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
村松 仁			
松本 浩子			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：在宅看護学実習

授業コード：3N137

英文科目名称：Home Care Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
山野えり子			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	



講義科目名称：総合実習

授業コード：3N138

英文科目名称：General Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
村松 仁			

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習

授業コード：3N139

英文科目名称：Public Health Nursing Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	5単位	選択
担当教員			
小林亜由美			
矢島 正栄	廣田 幸子		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：助産学実習

授業コード：3N140

英文科目名称：Actual practice midwifery

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	11単位	選択
担当教員			
中島久美子			
早川 有子	臼井 淳美		

授業形態	実習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：看護研究概説

授業コード：3N141

英文科目名称：Introduction to Nursing Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
小林亜由美			

授業形態	講義
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：卒業研究

授業コード：3N142

英文科目名称：Nursing Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	必修
担当教員			
村松 仁			

授業形態	演習
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）
科目の目的	
到達目標	
関連科目	
成績評価方法・基準	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	
教科書・参考書	
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	